写真１：１類（試料番号９、北白川下層Ⅲ、里木Ⅰ式）

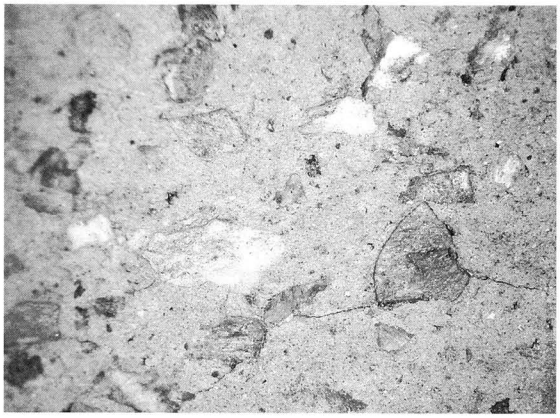


写真２：２類（試料番号95、船元Ⅲ・Ⅳ式）

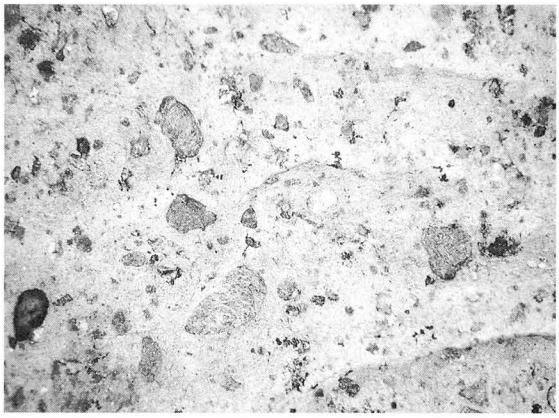


写真３：３類（試料番号33、鷹島式）

写真４：４類（試料番号94、船元Ⅲ・Ⅳ式）

写真５：５類（試料番号４、北白川下層Ⅲ、里木Ⅰ式）

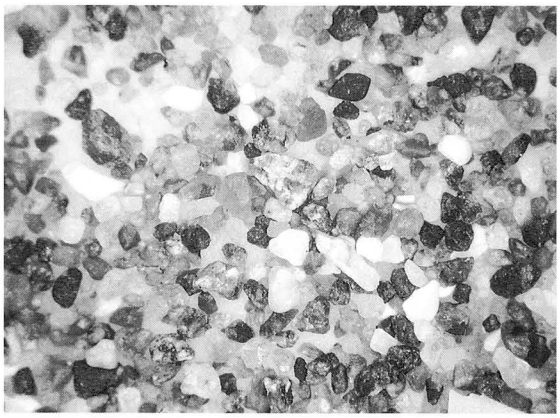


写真６：田井遺跡周辺採取の砂粒

実体顕微鏡写真(1)

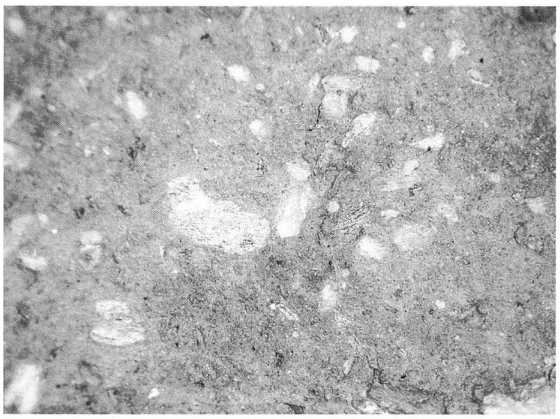


写真７：２類（試料番号135、無文土器）

写真８：５類（試料番号140、無文土器）

写真９：２類（試料番号29、北陸系土器）

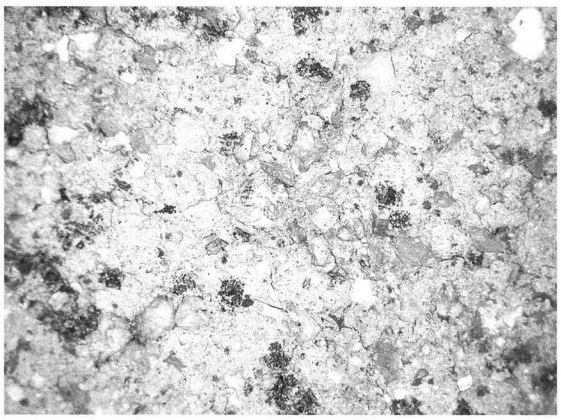


写真10：５類（試料番号30、北陸系土器）

実体顕微鏡写真(2)

観　　察　　表

第１表　SX1001 出土遺物観察表（土器）（１）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1	直立する口縁は、にぶく尖らされた端部外面に幅１cmほどのＣ字形爪形文が２条施文されている。		前期Ⅱａ		外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2	内彎する口縁部には幅７㎜ほどのＣ字形爪形文が間隔をあけて水平方向に２条施文されている。	不明	前期Ⅱａ		外面：5YR 7/6 橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
3	Ｃ字形爪形文で鋸歯状の文様が描かれている。		前期Ⅱａ		外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩		
4	緩やかに内彎する口縁は端部がわずかに内側に折り曲げられ、外面には半截竹管により結節沈線文が３条間隔をあけて水平方向に並行するように施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 5/4 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
5	緩やかに内彎する口縁は端部が半截竹管による連続刺突で細かく波打っている。内面には連続する指頭圧痕が残されている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
6		外面には条の間隔のあいた０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。縄の開端部を他の条で縛った痕跡がある。	前期Ⅷａ		外面：10YR 6/1 褐灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
7		外面には条の間隔のあいた０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
8		外面には撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石		
9		外面には条の間隔のあいた０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
10	器壁が３㎜ほどと薄く、内面には指頭圧痕が残されている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・赤色斑粒		
11		外面には撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・赤色斑粒		
12	器壁が３㎜ほどと薄く、内面には細かいハケ状の横ナデ調整が加えられている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
13	内面には指頭圧痕が残されている。	外面には条の間隔のあいた０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 3/1 黒褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
14		外面には条の間隔のあいた０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
15	外反する口縁には半截竹管により並行する結節沈線文が施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石		
16	外面には浅い沈線により格子目文が施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・長石		
17	器壁が４㎜ほどと薄くハケ状施文具を使用したナデ調整が施されている。		前期Ⅲａ		外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
18	内外面に指頭圧痕が残される器壁が３㎜ほどの土器。内外面ともナデ調整が施されているが、特に内面にはハケ状施文具の痕跡が残されている。		前期Ⅲａ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
19		外面には撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷｂ		外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/5 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
20		外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	

第１表　SX1001 出土遺物観察表（土器）（２）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
21		外面には撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷｂ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
22	器壁が６㎜ほどで、内面には指頭圧痕が残されている。	外面には撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷｂ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
23	口縁端部内面には粘土帯を貼り付けて段が設けられている。端部は頂部に棒状施文具が押しつけられ細かく波打っている。	内外面ともＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅴ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・赤色斑粒	不良	
24	頸部で外方に折り曲げられ上方に向かって開く口縁は、端部内面に粘土帯を貼り付けて段が設けられている。	口縁部内外面ともＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
25	内彎する口縁は、端部内面に粘土帯を貼り付け縄文を施文後、さらに頂部外面にも粘土を貼り付けて肥厚させ内面は時計回り、外面は反時計回りの方向のヘラ状施文具による連続刺突を加え断面方形に仕上げられている。また口縁部外面は端部から１cmほど下に半截竹管による結節浮線文が加えられた凸帯が２条口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面ともＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶａ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
26	内彎する口縁は、端部内面に粘土帯を貼り付け縄文を施文後、さらに頂部内外面にも粘土を貼り付けて肥厚させ内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状施文具による連続刺突を加え断面方形に仕上げられている。また口縁部外面は端部から１cmほど下に同じΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消され、境には稜が残されている。	前期Ⅶａ		外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
27	直立する口縁は、端部内面に縄文を施文後、頂部内外面に粘土を貼り付けて肥厚させ内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状施文具による連続刺突を加え断面方形に仕上げている。また口縁部外面は端部から1.5cmほど下に同じΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消さている。	前期Ⅶａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
28	直立する口縁は、端部内面に縄文を施文後頂部内外面に粘土を貼り付けて肥厚させ内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状施文具による連続刺突を加え断面方形に仕上げている。また口縁部外面は端部から１cmほど下に同じΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から５㎜ほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
29	緩やかに内彎する口縁は端部が外方に折り曲げられ、外は端部から１.５cmほど下にΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯が口縁に並行に貼り付けられている。	口縁部内外面と端部頂部ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶｃ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
30	内彎する外面にはΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯を水平に貼り付けている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
31	外反する外面にはΣ状施文具による刺突が加えられた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
32	外方に折り曲げられた頸部と、内彎しながら外上方にのびる口縁部を持っている。	外面には０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
33	筒状の体部には貝殻背圧痕が施文された断面三角形の低い凸帯が２条、間隔をあけて水平に貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
34		外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷ		外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
35	緩やかに外反する体部は内面に丁寧なナデ調整が加えられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 3/2 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
36		外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
37		外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		

第１表　SX1001 出土遺物観察表（土器）（３）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
38		外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
39		外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
40		外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
41	直立する口縁は内面に不規則な貝殻条痕が残され、頂部に貝殻復縁文が施文された端部直下には、外面に細隆起状の粘土の貼り付けが口縁に並行するように施文されている。		前期Ⅰｂ		外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 3/1 黒褐	石英・長石・赤色斑粒	良好	
42	直立する体部内外面には不規則な貝殻条痕が残されている		前期Ⅰｂ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
43	内彎する口縁は端部がにぶく尖らされ、時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。また外面は端部直下に帯状の粘土が薄く貼り付けられ、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して施文されている。	内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部から５㎜ほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
44	内彎する口縁部外面にはＣ字爪形文が施文された低い凸帯を水平に貼り付けている。	縦走する長大な節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
45	内彎する口縁部外面にはＣ字爪形文が施文された低い凸帯が貼り付けられている。	ＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
46	内彎する口縁部外面にはＣ字爪形文が施文された帯状の粘土が薄く貼り付けられている。	縦走する長大な節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
47	膨らみが大きい体部は「く」の字に屈曲する頸部との境に帯状の粘土を薄く貼り付けた上からＣ字爪形文が施文されている。同様の爪形文列は口縁部にも残されている。	口縁部外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
48	膨らみが大きい体部は「く」の字に屈曲する頸部との境にＣ字爪形文が施文されている。	口縁部外面には縦走する長い節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
49	緩やかに内彎する体部には帯状の粘土を薄く貼り付けた上に施文されたＣ字爪形文によって環状のモチーフが描かれている。	外面には縦走する長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：2.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
50	緩やかに内彎する体部には帯状の粘土を薄く貼り付けた上にＣ字爪形文が２条水平に並んで施文されている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・赤色斑粒		
51	内面は横方向のヘラケズリ調整が加えられている	外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
52		外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：5YR 6/8 橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
53	地文の縄文の上に帯状の粘土を縦に薄く貼り付けている。	外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
54	筒状の体部と、「く」の字に屈曲する頸部から上方に大きく開く内彎する口縁部を持った平縁の深鉢形土器、口縁端部外面には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。	外面及び口縁端部内面に節の長いＲＬ縄文が施文されているが、外面は頸部付近が、内面は端部から５㎜ほどの範囲を残してそれぞれ縄文がナデ消されている。	中期Ⅱ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
55	内彎する口縁は端部外面に粘土帯が貼り付けられて肥厚している。にぶく尖らされた口縁端部上面には、時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。また外面は帯状の粘土の貼り付けの上に、幅７㎜ほどのＣ字爪形文が施文されている。	口縁端部内面には節の小さいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱ		外面：5YR 4/8 赤褐 内面：10YR 5/6 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
56	内彎する口縁部を持った平縁の深鉢形土器で、口縁端部外面には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。	口縁部内外面と端部上面には節の小さいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱ		外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		

第１表　SX1001 出土遺物観察表（土器）（４）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
57	強く内彎する口縁を持った緩やかな波状口縁の土器。口縁端部内面に粘土帯を貼り付けて肥厚させ頂部を平坦に仕上げてヘラ先による刻み目が施されている。外面には粘土を帯状に薄く貼り付けた上から幅１～１．５cmほどの爪形文列が口縁に並行して上下２条にわたって施文されている。	口縁端部内面の粘土帯の貼り付けの上には節の小さいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。また外面は縄文施文後にナデ消された可能性がある。	中期Ⅱａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
58	緩やかに内彎する口縁は内外面に縄文を施文後、口縁部外面の端部から２．５cmほど下にＣ字爪形文が施文された凸帯を口縁と並行して貼り付け、口縁と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状の径５mmほどの円形または楕円形の刺突列が施文されている。	口縁部内外面には節が長く撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
59	緩やかに内彎する口縁部外面には先端が円い棒状施文具による押し引きで連弧文が施文されている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ		外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
60	口縁端部外面には、上部に貝殻背圧痕文が連続して施文された１，５cmほどの粘土帯が貼り付けられている。	口縁端部内面および頂部には撚の緩い長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
61	内彎する口縁は端部が円く仕上げられ、凸帯によって上下に対向する位置に連弧状の弧線文が描かれている。連弧文の間には貝殻背圧痕文が縦に付けられ、凸帯に沿って径３mmほどの大きさの巻貝の頂部を使用した円形刺突が施文されている。	口縁端部内面には縦走する長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅲｄ		外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英･結晶片岩･チャート		
62	上方に向かって大きく開く直線的な体部と底部の境は外方に張り出している。				外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
63	緩やかに内彎する上方への開きの大きい体部と上げ底の底部を持っている。				外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 5/1 褐灰	石英･長石･赤色斑粒		
64	底部近くの側縁に指頭による押圧を加え多角底の底部を形成している。	外面には０段多条の可能性がある RL 縄文を施文している。			外面：2.5YR 6/8 橙 内面：2.5YR 6/8 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
65	上方に向かって大きく開く直線的な体部を持った平底の土器。				外面：5YR 6/8 橙 内面：2.5YR 5/8 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	焼成不良	

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（１）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
97	直立する口縁は端部に貝殻復縁による刻み目が施され、内外面には横方向の貝殻条痕文が残されている。		前期Ⅰａ		外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
98	わずかに外反する体部は外面に不規則な貝殻条痕が施文され、内面の指頭圧痕はナデ消されている。		前期Ⅰａ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
99	外反する体部は外面に不規則な貝殻条痕が施文されている。内面は指頭圧痕の他に貝殻条痕が施文されていた可能性が高いがナデ消されている。		前期Ⅰａ		外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 3/2 黒褐	石英・結晶片岩		
100	外面に不規則な貝殻条痕が施文されている。内面には指頭圧痕が加えられていた可能性が高いがナデ消されている。		前期Ⅰａ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
101	外面にはＣ字爪形文で鋸歯文が描かれている。内面はナデあるいは細かい条痕と考えられる横方向の調整が残されている。		前期Ⅰ		外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		
102	外面には細い沈線で格子目文が描かれている。		前期Ⅱｃ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
103	外面には細くて浅い沈線で格子目文が描かれている。		前期Ⅱｃ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・赤色斑粒		
104	緩やかに内彎する口縁は端部に半截竹管を使用したと考えられる刺突が連続して行われ、外面には口縁に並行するように間隔の不規則な沈線が引かれている。		？		外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
105	内彎する口縁は端部が軽く内側に折り曲げられ円く仕上げられた上面には半截竹管による刺突が連続して行われている。口縁部外面には端部から１．５㎝と３㎝ほど下に半截竹管によるＣ字の結節沈線文が口縁に並行して１条ずつ施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・赤色斑粒		
106	屈曲する頸部から外上方に延びる口縁は端部近くで内側に折り曲げられ、薄く仕上げられた口縁端部にはヘラ先による刻み目が連続して加えられている。頸部の屈曲部には半截竹管を使った結節沈線文が１条施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石		
107	内彎する口縁は外面に半截竹管を刺突した結節沈線文で直線的な幾何学文様が描かれている。		前期Ⅲｃ		外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英		
108	内彎する体部は外面に半截竹管状工具の刺突による結節浮線文で直線的な幾何学文様が描かれている。		前期Ⅳｂ		外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
109	外反する体部は外面に半截竹管状工具の刺突による結節浮線文で直線的な幾何学文様が描かれている。		前期Ⅳｂ		外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
110	上方に向かって開く直線的な口縁は途中で短く上方に屈曲している。屈曲部には口縁に並行して低い凸帯が貼り付けられ口縁端部から垂下した棒状の凸帯と交わっている。	外面には撚の方向が異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・チャート		
111	器壁の厚さが４㎜前後のわずかに内彎する口縁は、端部が薄く仕上げられ外面に指頭圧痕が残されている。	外面には０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/1 褐灰	石英・結晶片岩		
112	体部は器壁の厚さが４㎜前後と薄く、外面には羽状縄文が残されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
113	緩やかに外反する体部は外面には羽状縄文が残されている。内面は指頭圧痕がナデ消されている。	外面には条の間隔が開いた撚の方向が異なる縄文を交互に施文している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
114	内彎する体部は内面に横方向のヘラケズリ調整が加えられている。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
115	内面は輪積痕と指頭圧痕が残されている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（２）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
116		外面には端部を他条で縛ったＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英		
117	にぶく尖らされた口縁端部には深い刻み目が施され、外面には結節浮線文をつけた凸帯が間隔をあけて口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｂ		外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石		
118	直立する口縁は端部内外面に粘土帯が貼り付けられ、内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状刺突列が施されて端部が方形に仕上げられている。口縁部外面には端部から１cmほど下にΣ状刺突が加えられた結節浮線文が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英	良好	
119	山形の突起を付けた口縁は端部内外面に粘土帯が貼り付けられ、内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状刺突列が施され端部がΣ状に仕上げられている。口縁部外面にはΣ状刺突が加えられた結節浮線文が水平方向に貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英	良好	
120	直立する口縁は端部内面に幅１cmほどの帯状の粘土を貼り付けて肥厚させ頂部には貝殻背圧痕文が施文されている。外面は口縁端部から約１cmほど下にΣ状刺突列が施文された凸帯が口縁と並行して貼り付けられている。	外面と内面の貼付凸帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	良好	
121	内彎する口縁は外面にΣ状刺突列が施文された凸帯が縦に貼り付けられている。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：5YR 5/3 にぶい赤褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英･長石	良好	
122	大きく膨らんだ体部と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。Ｃ字爪形文が施文された頸部から１．５cmほど下には、Σ状刺突列が施文された凸帯を水平に貼り付けている。	外面には０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート	良好	
123	内彎する口縁部にはΣ状刺突列が施文された凸帯が水平方向に貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英･長石	良好	
124	体部にはΣ状刺突列が施文された凸帯が縦に貼り付けられている。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石	良好	
125	緩やかに外反する筒状の体部を持った深鉢形土器。上部にはΣ状刺突列が施文された凸帯が水平に貼り付けられ、それに直交するように同様の凸帯が貼り付けられている。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	良好	
126	筒状の体部には縄文が施文された低い凸帯が縦に貼り付けられている。	外面には０段多条の可能性がある縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･結晶片岩･チャート	良好	
127	側面から穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器。口縁部内面に帯状の粘土を貼り付けて肥厚させたあと、端部外面にも断面三角形の凸帯を貼り付け拡張している。口縁端部から１．５cmほど下には「く」字状刺突文列が施文された凸帯が２条貼り付けられている。口縁端部は内側が時計回り、外側に反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。	外面と内面の貼付凸帯上には繊維痕が残る節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰａ		外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
128	頂部がくぼむ低い山形突起を付けた波状口縁の土器。側面は穿孔されているが未完通。口縁端部内外面に粘土を貼り付けて拡張し、内側は時計回り、外側には反時計回りの方向の∨状刺突を加え断面方形に仕上げられている。口縁部外面には端部から１cmほど下にＣ字形爪形文が施文された凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１．５cmほどを残してナデ消され、縄文との境には稜が残されている。	中期Ⅰａ		外面：2.5Y 6/3 にぶい黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英		
129	直立する口縁は端部が円く仕上げられΣ状刺突が加えられた長楕円形の突起が貼り付けられている。口縁端部から１cmほど下には「く」字状刺突列が施文された低い凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、口縁端部から１．５cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰａ		外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英		
130	酒杯状突起を持った波状口縁の深鉢形土器。口縁端部には粘土が薄く貼り付けられ、時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。外面には端部直下に薄い帯状の粘土が貼り付けられ同じようにＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･赤色斑粒	良好	
131	Ｃ字爪形文が施文された低い酒杯状突起。		中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英･赤色斑粒･チャート		

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（３）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
132	波状口縁の端部は外面に低い凸帯が貼り付けられ、端部内面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。外面にはこの凸帯に接するように１条、さらに１．５ほど下にもう１条薄く帯状の粘土を貼り付けた上に幅１cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどを残してナデ消され、縄文との境には稜が残されている。	中期Ｉｂ		外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･赤色斑粒		
133	直立する口縁は端部内外面に粘土帯が貼り付けられ、内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の∨状刺突列が施されて端部が方形に仕上げられている。口縁部外面には端部から１cmほど下に「く」状刺突が加えられた結節浮線文が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉａ		外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5YR 6/6 橙	石英	良好	
134	内彎する口縁は端部上面に薄い粘土帯、外面に低い凸帯がそれぞれ貼り付けられ、円く仕上げられた口縁端部上面には時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向の「く」字状刺突列が施されている。口縁部外面には端部から１．５cmほど下に幅１．５cmほどのＣ字状刺突列が施文された薄い粘土帯が口縁に並行して貼り付けられ、一部は分岐して下方にのびている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：2.5Y 8/1 灰白 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英	良好	
135	内彎する口縁は端部上面に薄い粘土帯、外面に低い凸帯がそれぞれ貼り付けられ、円く仕上げられた口縁端部上面には時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向の「く」字状刺突列が施文されている。口縁部外面には端部から１．５cmほど下に幅１．５cmほどのＣ字状刺突列が施文された低い粘土帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
136	内彎する口縁は端部上面に薄い粘土帯、外面に低い凸帯がそれぞれ貼り付けられ、円口縁端部上面には時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向のＣ字状刺突列が施文されている。口縁部外面は凸帯直下に薄い帯状の粘土が貼り付けられ幅１cmほどのＣ字状刺突列が施文されている。	口縁部内面に長い節の中に繊維痕がないＲＬ縄文が施文されているが、口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英	良好	
137	内彎する口縁は端部上面に薄い粘土帯、外面に低い凸帯がそれぞれ貼り付けられ、口縁端部上面には時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向の∨状刺突列が施文されている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に薄い帯状の粘土が貼り付けられ幅１cmほどのＣ字状刺突列が施文されている。	口縁部内外面に長い節の中に繊維痕が残るＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：2.5Y 4/1 黄灰 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石	良好	
138	緩やかに内彎する口縁は端部がにぶく尖らされている。口縁部外面には粘土が薄く帯状に貼り付けられ、その上にＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内面に節の中に繊維痕がないＲＬ縄文が施文されているが、口縁端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英		
139	口縁端部から約１cmほど下にＣ字爪形文が施文された薄い帯状の粘土が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面と口縁端部上面に繊維の痕跡がない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど度の範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石		
140	内彎する口縁と、ゆるやかな膨らみを持った深鉢形土器。強く「く」の字に屈曲する頸部には幅１．２cmほどのＣ字爪形文が施文された薄い帯状の粘土が貼り付けられているが、同様の爪形文は頸部近くの体部にも施文されている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉ		外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･砂岩		
141	内彎する口縁と、大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器。「く」の字に屈曲する頸部直下には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文された薄い帯状の粘土が貼り付けられているが、同様の爪形文は口縁部にもの残されている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、頸部付近の縄文がナデ消されている。	中期Ｉ		外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 6/6 橙	石英･長石		
142	「く」の字に屈曲する頸部直下には幅１cmほどのＣ字爪形文が施文された凸帯が貼り付けられている。		中期Ｉ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･赤色斑粒		
143	「く」の字に屈曲する頸部と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器。頸部直下には幅１．３cmほどのＣ字爪形文が２条施文された薄い帯状の粘土が貼り付けられ、その下には貝殻背圧痕文を施文した垂下する粘土帯が貼り付けられている。	繊維の痕跡が残る長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石		
144	外面には薄い帯状の粘土の貼り付けの上にＣ字爪形文が施文されている。	ＲＬ縄文か？	中期Ｉ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石		
145	体部は「く」の字に屈曲する頸部直下に幅１．２cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い帯状の粘土が貼り付けられている。	繊維の痕跡がない長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石		

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（４）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
146	体部には幅１．２cmほどのＣ字爪形文が施文された薄い帯状の粘土が貼り付けられている。	長い節の中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
147	体部には幅０．８cmほどのＣ字形爪形文を施文した薄い帯状の粘土が水平に貼り付けられている。	節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石		
148	直立する体部には貝殻による短い条線が施文された薄い帯状の粘土が水平に貼り付けられている。	節の中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
149	膨らみを持った体部には、幅１．１cmほどのＣ字爪形文が施文された薄い帯状の粘土が貼り付けられている。	長大な節を持った中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
150	体部にはＣ字爪形文と貝殻背圧痕文がそれぞれ施文された薄い帯状の粘土を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
151		長大な節を持った中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 8/2 灰白	石英		
152		長大な節を持った中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英		
153		縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：2.5Y 8/1 灰白 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石		
154	体部には貝殻背圧痕文が施された薄い帯状の粘土が縦に２条並行して貼り付けられている。	長大な節を持った中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：2.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・チャート		
155		長い節の中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英・長石		
156	緩やかに内彎する口縁は端部が円く仕上げられ、半截竹管による時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。端部から０．５～１cm下には口縁端部同様Ｃ字爪形文が施文された凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。口縁端部とこの凸帯との間のわずかな空間には先端が円い棒を使用して円形刺突がつけられている。同じような円孔文は端部から２cmほど下にも認められる。	口縁部内外面ともＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ		外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
157	緩やかに外反する口縁は端部が平坦に仕上げられヘラ先による浅い刻み目が加えられている。外面には端部直下に貝殻背圧痕文を施文した幅１．５cmほどの凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート		
158	直立する口縁は端部が円く仕上げられている。	内外面に節が長く撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・赤色斑粒		
159	体部にはヘラ先による刻み目が施された薄い帯状の粘土を縦方向に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石		
160	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
161	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。		Ｔ-２	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石		
162	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。		Ｔ-２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
163	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。		Ｔ-２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石		
164	底面が多角底の土器。			Ｔ-２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（５）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
165	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。			T－2	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
166	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。			外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石		
167	底面が多角底の土器。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。		T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
168	底面が５角形の多角底の土器。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。		T－2	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・結晶片岩		
169	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。			T－2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
170	わずかな上げ底の底部と上方への開きが小さい体部を持っている。			T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
171	平底の底部と直線的で上方への開きが大きい体部を持っている。			T－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
172	底部からいったん外上方に開く体部は途中で弱い屈曲部を持ちながら括れている。体部には浅い刻目が施された細い凸帯を並行するように縦に貼り付け、括れ部と屈曲部に施文された水平方向の列点状の刺突列と交わっている。		前期					
173	頂部を平坦に仕上げた 山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。口縁部外面には上からＣ字爪形文を施文した低い凸帯が口縁に並行するように２条貼り付けられている。膨らみが強い体部は、「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁と同じように爪形文を施文した低い凸帯を貼り付け、その下には貝殻背圧痕文を施文した縦方向の凸帯と、Ｃ字爪形文を施文した連弧状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙色 内面：7.5YR 6/3 にぶい橙色	石英・長石・結晶片岩	良好	
174	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部上面に粘土帯を貼り付けて平坦面を作り出し、口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向にＣ字形爪形文が施文されている。口縁部外面は端部から２．５㎝ほど下に幅約１㎝のＣ字形爪形文を上から施文した低い凸帯が間隔をあけながら水平に２条施文されている。膨らみを持った体部は、「く」の字に屈曲する頸部付近に口縁と同じ爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて２条貼り付け、その下にはヘラ先で刻目を加えた縦方向の凸帯とＣ字爪形文を施文した連弧状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面とも縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。施文された縄文は長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文で他の土器に比べて条の間隔が極端に広い。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 6/5 橙色 内面：5YR 7/3 にぶい橙色	石英・長石		
175	低い山形突起を持った緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に断面三角形の低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の粘土帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。口縁部外面には幅１．２㎝ほどのＣ字形爪形文が水平に２条施文されている。膨らみが小さい体部は「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁と同じ爪形文を器面に直接施文したり、爪形文を施文した凸帯を３条貼り付け、その下にはヘラ先で刻目を加えた縦方向の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：5YR 5/3 にぶい赤褐色 内面：５ＹＲ５/３ にぶい赤褐色		良好	
176	酒杯状突起を付けた内彎する口縁は、端部外面に凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。また口縁部外面は幅１．５㎝ほどのＣ字形爪形文が口縁に並行するように器面に直接施文されている。膨らみが小さい体部は「く」の字に屈曲する頸部との境に口縁と同じＣ字爪形文列が２条施文され、その下には縦方向の別の爪形文列が底部に向かって延びている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ		外面：7.5YR 7/3 にぶい橙色 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	

第２表　SX1002 出土遺物観察表（土器）（６）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
177	内彎する口縁は、端部外面に低い凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。また口縁部外面は端部から１cm下に幅１cmほどのＣ字形爪形文が施文された低い凸帯が口縁に並行するように２条、間隔をあけて貼り付けられている。緩やかな膨らみを持つ体部は「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁部と同じ爪形文が施文された凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：2.5YR 5/6 明赤褐色 内面：7.5YR 7/5 橙色	石英･長石･結晶片岩	良好	
178	内彎する口縁は、端部外面に低い凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字形爪形文が施文されている。また口縁部外面は凸帯直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文列が口縁に並行するように器面に直接施文され、途中には環状のモチーフが描かれている。緩やかな膨らみを持つ体部は「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁部と同じ爪形文が２条施文され、その下には貝殻背圧痕文を施文した凸帯が縦に貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ		外面：2.5YR 5/6 明赤褐色 内面：7.5YR 7/5 橙色	石英･長石･結晶片岩	良好	
179	上方への開きが小さい体部はいったん頸部で緩く括れた後、緩やかに外反しながらそのまま口縁端部に向かってのびている。低い山形突起が付けられた口縁は、端部外面に上からＭ字状工具を押し引いた凸帯が口縁に沿って貼り付けられている。同じようなＭ字状工具を使った押し引きは口縁部外面や端部内面にも施されているが、外面の押し引きは山形突起の下に縦に貼り付けられた凸帯と交わるように斜めの方向に押し引かれている。	外面にはＲＬ縄文が施文されている。施文されている。	中期Ⅳｄ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩		

第３表　SX1003 出土遺物観察表（土器）（１）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
198	器壁の厚さが３㎜ほどの薄手の土器で直立する口縁部にはＣ字爪形文を口縁に並行するように施文している。		前期Ⅱａ		外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	長石・結晶片岩		
199	器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。直立する口縁は端部に外側に向かって円い棒状施文具を押しつけた様な刻み目が残されている。内外面とも擦痕状の器面調整が加えられ、全体に凹凸が著しい。		前期Ｉａ		外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	長石・結晶片岩		
200	直立する体部が口縁部付近で上方にわずかに開く土器。器壁の厚さが５㎜ほどで、外面には貝殻条痕が施文され、円く仕上げられた口縁端部には丸棒を上から押しつけたような刻み目が間隔をあけて施されている。内面にはナデ調整が加えられている。		前期Ｉａ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 6/2 灰褐	長石		
201	直立する体部が口縁部付近で上方にわずかに開く土器。器壁の厚さが５㎜ほどで、外面には貝殻条痕が施文され、円く仕上げられた口縁端部には丸棒を上から押しつけたような刻み目が間隔をあけて施されている。内面にはナデ調整が加えられている。		前期Ｉａ		外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	長石・結晶片岩		
202	体部が上方に向かって緩やかに開く器壁の厚さ５㎜ほどの深鉢形土器。内面は横方向、外面は斜方向に条痕が施文されている。条痕は二枚貝の他に、巻貝を使用したような細かいものが部分的に見られる。		前期Ｉａ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石	良好	
203	器壁の厚さが３㎜の薄手の土器で外面には貝殻条痕がつけられている。内面はほとんど未調整で凹凸が著しい。		前期Ｉａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石		
204	緩やかに外反する器壁の厚さが５㎜ほどの土器。外面には貝殻条痕、内面にはナデ調整が加えられている。		前期Ｉａ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	長石		
205	器壁の厚さが５㎜ほどの土器。外面には貝殻条痕、内面にはナデ調整が加えられている。		前期Ｉａ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	長石		
206	器壁の厚さが３㎜の薄手の土器で外面には貝殻条痕がつけられている。		前期Ｉａ		外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石		
207	器壁の厚さが３㎜ほどの薄手の土器。直立する口縁は端部付近でわずかに内彎し、深い刻み目が施されている。	外面には条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：2.5Y 6/2 灰黄	長石		
208	器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。	外面には縄文が施文されているが原体の種類などは不明。	前期Ⅷａ		外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：2.5Y 4/1 黄灰	長石		
209	器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。緩やかに内彎する体部は内面の指頭圧痕を板状工具でナデ消している。	外面には条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	長石		
210	器壁の厚さが３㎜の薄手の土器。	条の間隔が開いた撚の方向が異なる縄文を交互に回転させて羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 4/1 褐灰	長石		
211	器壁の厚さが３㎜の薄手の土器。	斜行するＬＲ縄文。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 4/1 黄灰	長石		
212	器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。	外面には条の間隔が開いたＬＲ、ＲＬ２種類の縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	長石		
213	器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。緩やかに内彎する体部は内面に板状工具のようなものを使用した横方向のナデの痕跡が残されている。	外面には条の間隔が開いた浅いＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ		外面：10YR 6/1 褐灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
214	直立する体部を持った器壁の厚さが４㎜ほどの薄手の土器。	外面には条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：5YR 5/1 褐灰 内面：7.5YR 6/2 灰褐	石英・長石		
215	直立する体部を持った器壁の厚さが３㎜ほどの薄手の土器。内面にはナデ調整が施されている。	条の間隔が開いた浅いＬＲ縄文。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 4/1 褐灰 内面：7.5YR 5/2 灰褐	長石		
216	器壁の厚さが５㎜ほどの比較的厚手の土器。内面にはナデ調整が加えられている。	斜行するＬＲ縄文。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 4/1 褐灰 内面：7.5YR 5/2 灰褐	長石		

第３表　SX1003 出土遺物観察表（土器）（２）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
217	器壁の厚さが３㎜ほどの薄手の土器。	条の間隔が開く浅いＬＲ縄文。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 8/2 浅黄橙	長石･結晶片岩		
218	器壁の厚さが４㎜ほどの土器。内面には丁寧なナデ調整が加えられている。		前期Ⅷａ		外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	長石		
219	直立する体部を持った器壁の厚さが３㎜ほどの薄手の土器。内面にはナデ調整が施されている。	斜行するＬＲ縄文。	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石		
220	器壁の厚さが４㎜ほどの土器。内面にはナデ調整が加えられている。	条の間隔が開いた撚の方向が異なる縄文を交互に回転させ羽状縄文が表出されている。	前期Ⅷａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	長石		
221	器壁が６㎜ほどでやや厚手。	条の間隔が開いたＲＬ縄文か？	前期Ⅷａ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	長石		
222	口縁部内外面とも粘土が貼り付けられ、にぶく尖らされた端部には刻み目が施されている。	内外面とも斜行するＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ		外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石		
223	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器。直線的な口縁は内面に帯状の粘土を貼り付けた後、端部にも粘土を貼り付けている。口縁端部から１㎝ほど下にΣ状刺突列を施文した低い凸帯が貼り付けられている。口縁端部は内側が時計回り、外側が反時計回りのΣ状刺突列がつけられている。	口縁端部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は貼り付けられた帯状の粘土の端をナデた際に一緒に縄文がナデ消されている。	前期Ⅶｂ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石	良好	
224	内彎する口縁は端部内面に粘土帯が貼り付けられ頂部には内側が時計回り、外側が反時計回りの方向のΣ状刺突列をそれぞれ施文している。外面は端部から約１．５㎝ほど下に同じくΣ状刺突列を施文した凸帯が口縁と並行して貼り付けられている。	内外面とも斜行するＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部付近を残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ		外面：2.5Y 4/1 黄灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石	良好	
225	内彎する口縁部と「く」の字に屈曲する頸部を持つ深鉢形土器。円く仕上げられた口縁端部直下にはＣ字爪形文が器面に直接施文されている。同様の爪形文は頸部にも薄く粘土を貼り付けた上に施文されている。	口縁部内外面と端部にはそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部直下付近を残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 8/2 灰白 内面：5YR 7/6 橙	石英･長石	良好	
226	内彎する口縁は端部が円く仕上げられ反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁端部直下には同じくＣ字爪形文が口縁と並行して２条施文されている。	口縁端部内面には節の大きいＲＬ縄文が施文されているが端部直下を残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	長石		
227	外面にはΣ状刺突列が付けられた凸帯を水平に貼り付けている。	斜行するＬＲ縄文	前期Ⅶ		外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	長石		
228	外面にはΣ状刺突列が付けられた凸帯を水平に貼り付けている。	斜行するＬＲ縄文	前期Ⅶ		外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石		
229	わずかに膨らむ体部と「く」の字に屈曲する頸部を持つ深鉢形土器。頸部から１．５㎝ほど下にはΣ状刺突列が施文された凸帯が貼り付けられている。	斜行するＲＬ縄文。	前期Ⅶ		外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	長石		
230	外面にはＣ字爪形文が器面に直接施文されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅰ		外面：5YR 5/3 にぶい赤褐 内面：5YR 5/3 にぶい赤褐	石英･長石		
231		長大な節を持ったＲＬ縄文。	中期Ⅰ		外面：2.5Y 8/2 灰白 内面：2.5Y 8/3 淡黄	長石		
232	球形の体部と外反する短い口縁部を持った壺形土器。円く仕上げられた口縁端部にはヘラ先で細かな刻み目が施され、頸部にも同様の刻み目が加えられた凸帯を水平に貼り付けている。球形の体部にはいったん細い沈線で区画した幾何学文様の中を細かい半截竹管による爪形文列で充填している。		前期Ⅲｅ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石	良好	
233	緩やかに内彎しながら上方に開く体部を持った平底の土器。底部と体部の境はわずかに外方に張り出している。		前期		外面：10YR 6/1 褐灰 内面：7.5YR 7/6 橙	石英･長石		

第４表　SR1001 出土遺物観察表（１）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
241	緩やかに内彎する体部はそのまま口縁部に移行している。口縁端部は上方からの押圧により細かく波打っている。外面には浅い沈線で格子目文が描かれている。		前期Ⅱｃ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英･長石･結晶片岩･砂岩	良好	
242	外反する口縁は端部に半截竹管による連続刺突が加えられ、外面には口縁に並行して同じ半截竹管による結節沈線が間隔をあけながら施文されている。		前期Ⅲｃ		外面：7.5YR 4/3 褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
243	内彎する口縁は端部内外面にそれぞれ粘土帯を貼り付けて段が設けられている。口縁部内外面と外面の段下端部にはΣ状工具が押し引かれている。	口縁部外面はＬＲか？	前期Ⅵｂ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
244	内彎する口縁は緩やかに波打つ端部にそって内外面それぞれ粘土帯を貼り付けている。口縁部外面には粘土帯の下に間隔をあけて並行する凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面にはそれぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｂ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
245	緩やかに内彎する口縁は端部がにぶく尖らされヘラ先で押しつけたような深い刻み目が加えられている。	口縁部内外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
246	端部がにぶく尖らされた内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持っている。	口縁部内外面とも０段多条のＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅵｄ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
247	口縁部外面には端部から５㎜ほど下にΣ状刺突を加えた凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ		外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
248	口縁部は端部外面が粘土帯の貼り付けによって肥厚し、低い段を形成しているが、その段の下にはΣ状刺突列を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ		外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
249	緩やかに外反する体部は、そのまま口縁部に移行している。口縁は端部内外面にそれぞれ粘土帯を貼り付けて段を形成しているが、内面にはさらにΣ状工具による結節浮線文を施した凸帯を貼り付けている。このような凸帯は口縁部と体部との境や、体部にも貼り付けられているが、体部は紡錘状のモチーフが描かれている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
250	内彎する口縁にはΣ状工具による結節浮線文を付けた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ		外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石		
251	緩やかに内彎する口縁は外面に半截竹管による結節浮線文を施した水平方向の凸帯が２条わずかな間隔をあけて貼り付けられている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英		
252	縄文の上に生爪によるＣ字爪形文が施文されている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ		外面：7.5YR 5/1 褐灰 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英･長石･結晶片岩		
253	外面にはΣ状工具による結節浮線文が付けられた並行する凸帯が貼り付けられている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･結晶片岩		
254	緩やかに内彎する体部にはΣ状工具を押し引いて結節浮線文が付けられた凸帯を貼り付けて紡錘形のモチーフが描かれている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
255	緩やかに内彎する体部にはΣ状工具を押し引いて結節浮線文が付けられた凸帯によって紡錘形のモチーフが描かれている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
256	内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて段を設け、さらにその上からΣ状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。同じ凸帯は外面にも口縁に並行するように２条貼り付けられている。	口縁部内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶａ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
257	内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて段を設け、さらにその上から端部上面の内外面にΣ状工具の押し引きによる結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。同じような凸帯は外面にも口縁に並行するように１条貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶａ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石		
258	内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて段が設けられ、外面はぶく尖らされた端部から１cmほど下に上からΣ状工具を押し引いた結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｂ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石	良好	

第４表　SR1001 出土遺物観察表（２）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
259	内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて段が設けられ、外面にはΣ状工具による押し引きが加えられた端部から５㎜ほど下に、同じΣ状工具を押し引いた結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶｂ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・砂岩	良好	
260	山形の突起を付けた外反する口縁は、にぶく尖らされた端部内面に粘土帯を貼り付けた段を設け、さらにその上から端部上面に∨状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられ、外面には端部から１cmほど下に同じような凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｂ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩	良好	
261	山形の突起を付けた内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて肥厚させ、さらに端部上面の内外面にΣ状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられ、外面にも同じような結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｂ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石	良好	
262	端部内面に粘土帯を貼り付けて段を設けた口縁は、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具を押し引いて、断面方形に仕上げている。外面にも同じような結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は粘土帯の端部に行われるナデ調整によって一部が消されている。	前期Ⅶａ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
263	端部内面に粘土帯を貼り付けて段を設けた口縁は、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具を押し引いて、断面方形に仕上げている。外面にも同じような結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は粘土帯の端部に行われるナデ調整によって一部が消されている。	前期Ⅶａ		外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
264	端部内面に粘土帯を貼り付けて段を設けた口縁は、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具を押し引いて断面方形に仕上げられている。外面には同じような結節浮線文を付けた凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面および内面の粘土帯の上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は粘土帯の端部に行われるナデ調整によって一部が消されている。	前期Ⅶａ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英		
265	内彎する口縁は端部近くでわずかに外方に折り返されている。口縁部外面にはにぶく尖らされ端部から１.５cmほど下にΣ状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１.５cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ		外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
266	大きく膨らむ体部は「く」の字に屈曲する頸部から１.５cmほど下に∨状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｃ		外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 5/1 褐灰	石英		
267	大きく膨らむ体部は「く」の字に屈曲する頸部から１.５cmほど下に∨状工具を押し引いて結節浮線文を付けた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
268			前期Ⅶ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・雲母	良好	
269	酒杯状突起を付けた波状口縁の土器は口縁端部上面に粘土を薄く貼り付けＣ字爪形文を時計回りの方向に施文している。また口縁部外面にもＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯を貼り付けている。	口縁部内面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが一部はナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
270	突起が付いた波状口縁の土器は口縁端部上面に粘土を薄く貼り付け、外面には凸帯が貼り付けられている。口縁端部内面は時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。また端部から２cmほど下には薄い粘土帯が貼り付けられ幅１.５cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。	口縁部内外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。また、外面も粘土帯と頸部との間の縄文がナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英		
271	内彎する口縁は端部外面に凸帯が貼り付けられ、内面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。また端部から１.５cmほど下にも低い凸帯が貼り付けられ幅１.５cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内外面には長い節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英		
272	内彎する口縁は端部上面にＣ字爪形文による刻みが残されている。また外面には薄く粘土帯が貼り付けられ、Ｃ字爪形文が２条施文されている。爪形の幅は上部が８㎜ほどに対して下部は１.３cmと幅が大きい。	口縁部内外面には長い節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石		
273	内彎する口縁は端部上面にＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。また、外面には薄く粘土帯が貼り付けられ、幅１.２cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部から５mmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
274	内彎する口縁は端部上面にＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。また、外面には口縁に並行するように間隔をあけて薄い粘土帯が貼り付けられ、それぞれ幅１cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内外面には節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅰｂ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		

第４表　SR1001 出土遺物観察表（３）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
275	内彎する口縁は端部上面にＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。また、外面には口縁に並行するように間隔をあけて薄い粘土帯が貼り付けられ、それぞれ上から幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が施文されている。	不明	中期Ⅱａ		外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英		
276	内彎する口縁部には帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。	ＲＬ縄文か？	中期Ⅰ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・砂岩・チャート		
277	「く」の字に屈曲する頸部は外面にＣ字爪形文が施文されている。	ＲＬ縄文か？	中期Ⅰ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
278	大きく膨らむ体部は、「く」の字に屈曲する頸部直下に帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。	長大な節を持ったＲＬ縄文か？	中期Ⅰ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・砂岩・チャート	不良	
279	内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部にはそれぞれ帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が２条ずつ施文されている。	口縁部内外面には長大な節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
280	大きく膨らんだ体部は「く」の字に屈曲する頸部直下に帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。	口縁部内外面には長大な節の中に繊維痕がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・結晶片岩		
281	膨らみが大きい体部には幅１．４㎝ほどのＣ字爪形文を水平方向に施文している。	外面には長大な節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
282	膨らみが大きい体部には、「く」の字に屈曲する頸部直下に帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・チャート		
283	体部外面には帯状の粘土を薄く貼り付けた上からＣ字爪形文を２条施文している。		中期Ⅰ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英		
284	体部は頸部との境付近に帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。		中期Ⅰ		外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
285	体部外面には帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文している。		中期Ⅰ		外面：2.5Y 8/1 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英		
286	体部外面には幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が２条施文されている。		中期Ⅰ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
287	緩やかに内彎する口縁は端部がにぶく尖らされ、ヘラ先により押しつけたような深い刻み目が加えられている。	口縁部内外面にはＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅰ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
288	体部外面には幅１．７㎝ほどのＣ字爪形文によって水平方向と斜め方向に爪形文列が施文されている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱ？		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
289	体部外面には帯状の粘土を薄く貼り付けた上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を使って曲線が描かれている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱ？		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
290	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面と端部上面にはそれぞれ長い節の中に繊維痕のない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱ？		外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩		
291	内彎する口縁は端部がにぶく尖らされている。	口縁部内外面にはそれぞれ長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｃ		外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石		
292	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持っている。	外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文が施文されているが口縁部の縄文は部分的にナデ消されている。	中期Ⅰｃ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・チャート		
293	屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器。口縁部にはＣ字爪形文が残されている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｃ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・チャート		
294	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰｃ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第４表　SR1001 出土遺物観察表（４）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
295	外反する口縁には頂部が平坦な山形突起が付けられている。		中期Ⅳ		外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
296	山形の突起を付けた波状口縁の土器は、口縁端部外面に貼り付けられた断面三角形の低い凸帯に沿ってM字状刺突列が上下に２条施文され、突起の頂部から垂下する同じM字状刺突列と交差している。	口縁部外面には地文に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ		外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・砂岩		
297	内彎する口縁は端部外面に幅５㎜ほどの低い粘土帯が貼り付けられ、端部内面と頂部にはそれぞれヘラ先により連続するＩ字刺突が加えられている。また、口縁部外面にはヘラ先による連続刺突と、先端が尖らされた棒状施文具を押し引いて鋸歯状の文様が描かれている。	口縁部外面には地文に撚が緩い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ		外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
298	内彎する口縁は端部がわずかに上方に折り曲げられ、内面には粘土帯が貼り付けられている。口縁は端部が平坦に仕上げられ、頂部にはヘラ先による短い刻み目が施されている。また、外面には同じようにヘラ先による短い刻み目が加えられた断面三角形の凸帯を貼り付けて鋸歯状の文様が描かれ、間には楕円形の突起いが貼り付けられている。	口縁端部内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩		
299	緩やかに内彎する口縁部外面には、径１㎜ほどの円形刺突を伴った断面三角形の凸帯を貼り付けて、鋸歯状の文様が描かれている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ？		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・結晶片岩		
300	口縁部外面は端部から３㎝ほど下に断面三角形の凸帯を水平方向に貼り付け、口縁端部直下には指頭圧痕、凸帯上部には貝殻背圧痕文がそれぞれ連続して施文されている。また、凸帯直下には片側を円形の刺突列、もう片側にヘラ先による刻み目が施された凸帯を貼り付けて鋸歯状の文様が描かれている。		中期Ⅳ？		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
301	緩やかに内彎する体部にはM字状工具が水平方向に押し引かれている。	外面には撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ～ｃ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
302	頸部の括れ部から体部にかけてはM字状工具を押し引いて直線と曲線文様が描かれている。		中期Ⅳ？		外面：2.5Y 8/1 灰白 内面：2.5Y 8/1 灰白	石英・長石		
303	緩やかに内彎する口縁部と頸部の括れ部から体部にかけてはそれぞれM字状工具を押し引いて弧線文や直線文様が描かれている。		中期Ⅳ？		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
304	内彎する口縁部には、先端が平らな棒状施文具を使用した刺突列が施文された断面三角形の低い凸帯を貼り付けて、鋸歯状のモチーフが描かれている。		中期Ⅳｄ		外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 6/1 褐灰	石英・チャート		
305	体部外面には、断面三角形の低い凸帯を貼り付けた直線を交差させて幾何学文様が描かれている。凸帯はいずれも片側の側縁にヘラ先による連続する刻み目が施されているが、一部には凸帯に接して径４㎜ほどの先端が円い棒状施文具が押し引かれている。	外面には撚が緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ		外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：10YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
306	外面にはヘラ先による刻み目が加えられた低い凸帯の貼付によって曲線的な幾何学文様が描かれている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
307	低い山形突起を付けた波状口縁の土器。口縁端部は平坦に仕上げられヘラ先による浅い刻み目が施されている。	口縁部内外面にはそれぞれ撚が緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ		外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
308	内面に帯状の粘土を薄く貼り付けた口縁は、端部が指オサエによって細かく波打っている。	口縁部内外面にはそれぞれ縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
309	内彎する口縁は端部内面に帯状の粘土を薄く貼り付けて肥厚し、平坦に仕上げられた頂部にはヘラ先による浅い刻み目が施されている。	口縁部内外面は撚が緩い縦走するＲＬ縄文か？	中期Ⅳｇ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
310	端部内面に帯状の粘土を貼り付けて肥厚する口縁は、外面にＵ字状施文具を水平に押し引いている。	口縁部内外面にはそれぞれ撚が緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
311	内彎する口縁は端部が円く仕上げられ、緩やかな波状を描く口縁に並行するように半截竹管による２本一組の沈線が施文されている。	口縁端部上面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴｂ		外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		

第４表　SR1001 出土遺物観察表（５）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
312	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられ、緩やかな波状を描く口縁に並行するように半截竹管による２本一組の沈線が施文されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴｂ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
313	内彎する口縁は端部が円く仕上げられ、外面には半截竹管による２本一組の沈線で鋸歯状の文様が描かれている。	口縁端部上面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴｂ		外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
314	内彎する口縁は端部外面に半截竹管で弧線文が描かれている。	口縁部外面は縦走するＲＬの撚糸文か？	中期Ⅴｂ		外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英		
315	緩やかに内彎する口縁から頸部の括れ部にかけて半截竹管により不規則な連弧文が描かれている。	外面には節が小さい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴｂ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
316	外面には半截竹管を使用して波状（鋸歯状）文が描かれている。	外面には節が小さい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴｂ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
317		外面には縦走するＲＬの縄巻縄文を施文している。	中期Ⅳ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩		
318	頸部は軽く括れている。	外面には縦走するＲＬの縄巻縄文を施文している。	中期Ⅵ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/1 褐灰	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
319		外面には節が太い縦走するＲＬの縄巻縄文（？）を施文している。	中期Ⅵ		外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩		
320		外面には縦走するＲＬの縄巻縄文を施文している。	中期Ⅵ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石		
321		外面には縦走するＲＬの縄巻縄文を施文している。	中期Ⅵ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･砂岩･チャート		
322	外面には地文の縄文の上から水平方向の沈線を１本施文している。	外面にはＬＲ縄文が施文されている。			外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
323	口縁部には三叉文が施文されている。		中期Ｘ		外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
324	外面には半截竹管を使って半隆帯文が施文されている。		中期Ｘ		外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩		
325	外面には半截竹管を使って半隆帯文が施文されている。		中期Ｘ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･結晶片岩･赤色斑粒		
326	外面には半截竹管を使って半隆帯文が施文されている。		中期Ｘ		外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･雲母･チャート		
327	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面にはＲＬ縄文が施文されている。			外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 8/1 灰白	石英･結晶片岩		
328	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面にはＲＬ縄文が施文されている。			外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
329	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。				外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英		
330	多角底の底部を持っている。				外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
331	上げ底の底部と上方への開きが大きい体部を持っている。				外面：2.5Y 8/2 灰白 内面：2.5Y 8/2 灰白	石英		

第４表　SR1001 出土遺物観察表（６）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
332	突起を付けた内彎する口縁は、端部外面に凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字形爪形文が施文されている。また口縁部外面はＣ字形爪形文を施文した低い凸帯が口縁に並行するように貼り付けられている。大きく膨らんだ体部は「く」の字に屈曲する頸部との境近くに口縁と同じ爪形文列を施文した凸帯が１条貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。			外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
333	山形突起を付けた波状口縁の深鉢型土器は、端部外面に凸帯が口縁に沿って貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。また口縁部外面はＣ字爪形文を施文した低い凸帯が水平方向に貼り付けられている。大きく膨らんだ体部は「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁と同じ爪形文列を施文した凸帯を２条貼り付け、その下には同じ別の凸帯が縦に貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。			外面： 内面：			

第５表　包含層出土遺物観察表（１）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
337	直立する口縁は薄く仕上げた端部上面にヘラ先で刻目を加え、外面はヘラ先を使った連続する刺突を口縁に沿って１条施し、その下には同じ施文具で不規則な刺突が繰り返されている。		不明	A－18	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩	不良	
338	直立する口縁は端部上面にヘラ先で刻目を加え、外面は条痕を施文している。器壁は５～６㎜ほどの厚さがある。		前期Ⅰａ	T－20	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
339	直立する口縁は円く仕上げた端部上面に刻目が加えられている。		前期Ⅰａ	T－20	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
340	わずかに内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、外面には貝殻条痕を施文している。器壁は４㎜ほどの厚さがある。		前期Ⅰａ	T－1	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
341	緩やかに内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられている。		前期Ⅰａ	S－4	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
342	口縁端部上面には棒状工具を押しつけたような幅が広く深い刻み目が加えられている。		前期Ⅰａ		外面：５ＹＲ 5/3 にぶい赤褐色 内面：2.5 ＹＲ 5/6 明赤褐色	石英・長石・結晶片岩・		
343	緩やかに外反する口縁は、端部上面に棒状工具を押しつけたような幅広で深いＵ字状の刻み目が加えられている。		前期Ⅰａ	T－3	外面：５ＹＲ 5/3 にぶい赤褐色 内面：2.5 ＹＲ 5/6 明赤褐色	石英・長石・結晶片岩・		
344	わずかに内彎する口縁は円く仕上げられた端部上面に浅い刻目が施されている。		前期Ⅰａ	S－4	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
345	口縁端部上面はヘラ先で刻目を加えている。器壁は６㎜ほどの厚さを持ち、内面は指オサエの痕を指頭を使ってナデ消している。		前期Ⅱｂ	T－4	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石	良好	
346	にぶく尖らされた口縁端部上面はヘラ先で刻目を加えている。器壁は６㎜ほどの厚さを持ち、内面は指オサエの痕を指頭を使ってナデ消している。		前期Ⅱｂ	T－5	外面：10YR 3/2 黒褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石	良好	
347	直立する口縁は端部上面が円く仕上げられヘラ先で刻目を加えている。器壁は５～６㎜ほどの厚さを持ち、内面は指オサエの痕を指頭を使ってナデ消している。		前期Ⅱｂ	T－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
348	外面には施文具不明の条痕が施文されている。		前期Ⅰａ	不明	外面：10YR 6/3 にぶい黄褐色 内面：10YR 6/3 にぶい 黄褐色	石英・長石・結晶片岩		
349	外面には条痕を施文する。		前期Ⅰａ	T－20	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
350	外面には幅の狭い条痕を間隔をあけて施文する。内面は粗いヘラミガキを施している。		前期Ⅰａ	S－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
351	外面には施文具不明の工具を押し引いている。内面はハケ状工具を使ったナデ調整が施されている。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅱａ	S－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
352	外面には連続するＣ字爪形文を施文している。		前期Ⅱａ	A－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
353	外面には連続するＣ字爪形文を施文している。		前期Ⅱａ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
354	外面には連続するＣ字爪形文で直線と曲線文を描いている。		前期Ⅱａ	T－2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
355	外面には連続するＣ字爪形文を水平方向に３条施文している。		前期Ⅱａ	A－18	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
356	緩やかに内彎する口縁は端部上面に上から棒状工具を押しつけたような浅い刻目を加え、外面には半截竹管を使ったＣ字爪形文列と波状文が描かれている。		前期Ⅱａ	R－19 A－1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（２）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
357	外面には連続するＣ字爪形文を施文している。	爪形文列の下には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅱａ	R－19 A－1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
358	直立する口縁は端部上面に縄文を施文し、外面にはＣ字爪形文列で直線と曲線文を描いている。	口縁端部にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅱｂ	B－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
359	外面は連続するＣ字爪形文列で曲線が描かれている。		前期Ⅱｂ	S－20	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
360	外面は連続するＣ字爪形文列で直線が描かれている。		前期Ⅱｂ	B－1	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英		
361	外面は連続するＣ字爪形文列で曲線が描かれている。		前期Ⅱｂ	B－1	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英		
362	半截竹管の区画内にＣ字爪形文列を施文している。		前期Ⅱｂ	A－1	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
363	半截竹管の区画内にＣ字爪形文列を施文している。		前期Ⅱｂ	T－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
364	外面は浅い沈線で不規則な格子目文を描いている。内面は指頭圧痕の上から粗いヘラミガキ調整を加えている。		前期Ⅱｃ	R－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
365	外面は浅い沈線で平行線文を描いている。		前期Ⅱｃ	不明	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
366	外面は浅い沈線で格子目文を描いている。		前期Ⅱｃ	不明	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
367	外面は浅い沈線で平行線文を描いている。		前期Ⅱｃ	T－1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
368	外面は浅い沈線で不規則な格子目文を描いている。		前期Ⅱｃ	R－19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・赤色斑粒		
369	外面は浅い沈線で平行線文を描いている。		前期Ⅱｃ	B－1	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	長石		
370	外面は浅い沈線で不規則な格子目文を描いている。内面はハケ状工具を使ってナデ調整を加えている。		前期Ⅱｃ	T－1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
371	器壁が３㎜ほどの厚さの土器。直立する口縁は端部がわずかに外反し、外面には口縁に並行するようにヘラ先を押し引いて平行線文を施文している。		前期Ⅲａ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石	良好	
372	器壁が３㎜ほどの厚さの土器。直立する口縁は端部がわずかに外反し、外面には口縁に並行するようにヘラ先を押し引いて平行線文を施文している。		前期Ⅲａ	A－3	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石	良好	
373	直立する口縁は端部上面を円く仕上げ、外面は叉状または半截竹管状工具を口縁に沿って１条押し引いている。		前期Ⅲａ？	T－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	長石・結晶片岩		
374	緩やかに外反する口縁は端部を平坦に仕上げ、叉状または半截竹管状工具を口縁に沿って押し引いている。		前期Ⅲａ？	T－2	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石	良好	
375	器壁が４～５㎜ほどの厚さを持った土器。直立する口縁は端部が平坦に仕上げられ，外面に竹管状または叉状の刺突具を連続して押し引いている。内面は指オサエの痕跡を指頭でナデ消している。		前期Ⅲａ？	A－5	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石	良好	
376	器壁が４㎜ほどの厚さを持った土器。直立する口縁は端部が平坦に仕上げられ，外面には地文の縄文の上からヘラ状工具を押し引いて口縁に並行する直線を施文している。	地文の縄文ＲＬか？	前期Ⅲｂ	S－4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（３）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
377	直立する口縁は口縁端部を円く仕上げ、外面には半截竹管状工具を押し引いて直線文と波状文を描いている。厚さ４㎜ほどの器壁の薄い土器。		前期Ⅲａ	S－4 T－4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：2.5Y 5/3 黄褐	石英・長石		
378	器壁が６㎜ほどの厚さを持った土器。直立する口縁は端部上面にヘラ先で刻目を施し、外面にはヘラまたは叉状工具を押し引いて口縁に並行する直線を３条施文している。内面は指オサエの痕を指頭でナデ消している。		前期Ⅲｂ	S－4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
379	直立する口縁は端部を円く仕上げ、外面にはヘラ状工具を押し引いて、口縁に並行する直線を３条施文している。内面はハケ状工具でナデ調整を加えている。		前期Ⅲｂ	T－1 T－2 B－19	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩	不良	
380	端部を円く仕上げた口縁は、外面に半截竹管状または叉状工具を口縁に沿って押し引いている。		前期Ⅲｂ	S－4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	長石		
381	わずかに内彎する口縁は、外面に半截竹管状工具を押し引いている。		前期Ⅲｂ	S－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
382	口縁は端部付近が折り曲げられ、上面に半截竹管を押し引いた刻目が加えられている。外面は同じ半截竹管を口縁に並行するように１条押し引いている。		前期Ⅲｂ	S－20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
383	わずかに外反する口縁は端部上面に半截竹管状工具を押し引いた刻目が加えられている。外面は同じ半截竹管状工具を口縁に並行するように１条押し引き、その下には縄文を施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅲｂ	T－2	外面：2.5YR 5/8 明赤褐 内面：2.5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
384	わずかに外反する口縁は端部上面に半截竹管状工具を押し引いて刻目を加えている。外面は地文の縄文の上から同じ半截竹管状工具を口縁に並行するように２条押し引いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅲｂ	B－19	外面：5YR 4/1 褐灰 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
385	緩やかに内彎する口縁は端部上面に縄文を施文し、外面は半截竹管状または叉状工具を口縁に並行するように３条押し引いている。	口縁端部上面にはＬＲ縄文を施文する。	前期Ⅲｂ	S－4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
386	緩やかに内彎する口縁は端部上面に縄文を施文し、外面は半截竹管状または叉状工具を口縁に並行するように３条押し引き、その下に縄文を施文している。	口縁端部上面にはＬＲ縄文を施文する。	前期Ⅲｂ	T－5	外面：5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
387	外面は条痕の上から半截竹管状または叉状工具を水平方向に１条押し引いている。		前期Ⅲａ	T－5	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩	良好	
388	外面は半截竹管状または叉状工具を押し引いて曲線文を描いている。		前期Ⅲａ	T－2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	長石	良好	
389	外面はヘラまたは叉状工具を並行するように２条押し引いている。		前期Ⅲｂ	不明	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
390	外面は半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に２条押し引いている。内面は丁寧なナデ調整が施されている。		前期Ⅲｂ	T－5	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩		
391	外面は半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に３条押し引いている。		前期Ⅲｂ	S－4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
392	外面は半截竹管状または叉状工具を水平方向に１条押し引いている。		前期Ⅲｂ	不明	外面：5YR 6/3 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石		
393	外面は半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に２条押し引いている。内面は指オサエをハケ状工具でナデ消している		前期Ⅲｂ	不明	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
394	外面は半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に４条押し引いている。		前期Ⅲｂ	T－4	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	長石・結晶片岩		
395	外面は地文の縄文の上から半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に３条押し引いている。		前期Ⅲｂ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石		
396	外面は半截竹管状または叉状工具を並行するように水平方向に２条押し引いている。		前期Ⅲｂ	T－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（４）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
397	内彎する口縁は端部上面に半截竹管を使った刺突を連続して加え、外面は端部から斜め下方に向かって細い凸帯を貼り付け、３cmほど下に口縁と並行するように貼り付けた別の凸帯とつなげている。口縁端部と凸帯との間は同じ半截竹管を押し引いた結節沈線を４条施文している。		前期Ⅲｃ	Ｔ－４	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
398	頸部の括れ部から外上方に向かってのびる直線的で短い口縁は端部上面に半截竹管を使った刺突を連続して加え、外面には同じ半截竹管を押し引いた結節沈線を口縁に並行するように２条施文し、さらに上から半截竹管文を付けた低い凸帯を縦に貼り付けている。		前期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
399	内彎する口縁は端部上面に半截竹管を使った刺突を連続して加え、外面は端部直下に１cmほどの幅で縄文を施文し、その下に半截竹管を使った結節沈線で幾何学文様を描いている。	口縁部外面の縄文はＬＲか？	前期Ⅲｃ	Ｔ－５	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
400	上から半截竹管を押し引いた細い凸帯を間隔をあけて縦方向に貼り付け、その間に半截竹管を押し引いた結節沈線を３条施文している。	結節沈線の下にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
401	内彎する口縁部には半截竹管を押し引いた結節沈線を２条施文している。		前期Ⅲｃ	Ａ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩		
402	内彎する口縁部には半截竹管を押し引いた沈線と結節沈線を施文している。		前期Ⅲｃ	Ａ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
403	外面は地文の縄文の上から半截竹管を押し引いた結節沈線を並行するように水平方向に２条施文している。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
404	外面には半截竹管を押し引いた結節沈線を２条施文している。		前期Ⅲｃ	Ａ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
405	外面は地文の縄文の上から半截竹管を押し引いた結節沈線を２条施文している。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
406	外面は地文の縄文の上から半截竹管を押し引いた結節沈線を並行するように水平方向に２条施文している。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
407	外面は地文の縄文の上から半截竹管を押し引いた結節沈線を施文している。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
408	外面は沈線の区画の中を半截竹管を押し引いた結節沈線を施文している。		前期Ⅲｃ	Ｓ－20	外面：7.5YR 3/2 黒褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
409	外面には半截竹管を押し引いた結節沈線を２条施文している。		前期Ⅲｃ	Ｓ－４	外面：2.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 7/8 黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
410	球形の体部には半截竹管を使った結節沈線で直線と弧状文を施文している。	外面には地文に縄文を施文しているが原体の種類は不明。	前期Ⅲｃ	Ｓ－２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
411	球形の体部には地文の縄文の上から半截竹管を使った結節沈線で並行する水平方向の直線を施文している。	ＲＬ縄文を施文しているが、結節沈線の間は縄文をナデ消している。	前期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
412	球形の体部には半截竹管を使った結節沈線で並行する水平方向の直線を施文している。	撚の方向が異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出しているが、結節沈線の間は縄文をナデ消している。	前期Ⅲｃ	Ｓ－１	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
413	球形の体部には半截竹管を使った結節沈線でコまたはロの字状の文様を描いている。		前期Ⅲｃ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
414	「く」の字状に内屈する口縁部は外面に細い凸帯を一条貼り付け、その下には細い沈線の区画の中に細かいＣ字爪形文を施文している。		前期Ⅲｅ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
415	「く」の字状に内屈する口縁部は外面に細い凸帯を一条貼り付け、その下には細い沈線で描いた曲線文の区画の中に細かいＣ字爪形文を施文している。		前期Ⅲｅ	Ｔ－１	外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（５）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
416	内彎しながら上方に大きく開く体部は、外面に凸帯を水平に貼り付け、上部に沈線とＣ字爪形文を使って入組木葉文状の文様を描いている。		前期Ⅲｅ	R－19	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
417	緩やかに内彎しながら上方に大きく開く体部は、そのまま端部が円く仕上げられた口縁に移行している。口縁部と体部には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に１条ずつ施文されている。		前期Ⅲｆ	S－4	外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
418	体部は外反しながら上方に大きく開いている。外面には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に２条施文されている。		前期Ⅲｆ	T－3	外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
419	体部は外反しながら上方に大きく開いている。外面には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に２条施文されている。		前期Ⅲｆ	T－1	外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
420	体部は上方に大きく開いている。外面には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に１条施文されている。		前期Ⅲｆ	S－1	外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
421	内彎する体部は上方に大きく開き、外面は半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に２条施文されている。		前期Ⅲｆ	B－1	外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
422	体部外面には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に１条施文されている。		前期Ⅲｆ		外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
423	体部外面には並行する沈線の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文が水平方向に１条施文されている。		前期Ⅲｆ		外面：2.5ＹＲ 5/6 明赤褐色 内面：5ＹＲ 6.6 橙色	石英・長石・結晶片岩	軟質	赤彩
424	内彎する口縁は端部上面に縄文を施文し、外面は地文の縄文の上から半截竹管を押し引いた結節浮線文を貼り付けている。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅳａ	A－1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
425	頸部の括れ部から外上方にのびる短い口縁部は、端部を上方に折り曲げて半截竹管を押し引いた刻目を加え、外面には上から∨状工具を押し引いた結節浮線文を貼り付けている。		前期Ⅳａ	A－3	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石		
426	外面は上から半截竹管状工具を押し引いた結節浮線文を貼り付けて幾何学文様を描いている。		前期Ⅳａ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄橙 内面：10YR 4/1 褐灰	石英･長石		
427	端部をにぶく尖らせた直立する口縁は、外面にヘラの角を押し引いて＜状の刺突列を口縁に沿って２条施文し、さらにその下には同じ施文具を使って曲線？を描いている。		不明	A－1	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石		
428	端部を平坦に仕上げた直立する口縁は、外面にヘラの角を押し引いて＜状の刺突列を口縁に沿って２条施文している。		不明	T－3	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩		
429	わずかに内彎する口縁は端部上面に間隔をあけて浅い刻目を加え、外面には半截竹管を使って半円形の刺突列を３条施文している。		不明	A－4	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英･長石･結晶片岩		
430	山形の波状口縁の土器は、緩やかに内彎する口縁の端部外面に、縄文を施文した凸帯を口縁に沿って２条貼り付け、波頂部から縦に貼り付けられた別の凸帯とつなげている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴａ	S－4	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石	良好	
431	緩やかに外反する口縁は、端部上面に縄文を施文し 外面には縄文を施文した凸帯を口縁に沿って２条貼り付けている。	外面には撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴａ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・チャート	良好	
432	緩やかに外反する口縁は、端部上面に縄文を施文し、外面には縄文を施文した凸帯を口縁に沿って２条貼り付けている。	外面には撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴａ	S－4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石	良好	
433	わずかに外反する口縁は、端部上面に半截竹管を使った刻目を加え、外面には縄文を施文した凸帯を口縁に沿って１条貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅴａ	A－6	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	良好	
434	外反する口縁は端部外面に縄文を施文した凸帯を口縁に沿って１条貼り付けている。	凸帯上はＬＲ、外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴａ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英		
435	外反する口縁は端部外面にヘラ状工具を使った刻目を加えた凸帯を口縁に沿って１条貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴａ	S－5	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英･チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（６）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
436	外反する口縁は端部をわずかに上方に折り曲げ縄文を施文している。外面には縄文を施文した凸帯を口縁に沿って２条貼り付けている。	口縁端部上面および凸帯上にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｔ-５	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英･長石･結晶片岩･チャート		
437	外反する口縁は端部を内側に折り曲げている。外面には縄文を施文した凸帯を口縁に沿って２条貼り付けている。	凸帯上にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｓ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
438	緩やかな波状口縁の土器は波頂部から体部に向かって縄文を施文した凸帯を縦に貼り付け、口縁に並行するように貼り付けられた別の凸帯とつなげている。	外面及び凸帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｔ-５	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
439	外反する口縁部には縄文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面及び凸帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ｖａ	不明	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 4/6 赤褐	石英・長石・チャート		
440	外面には縄文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面はＬＲ、凸帯上はＲＬ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ｖａ	Ｂ-19	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英・長石・チャート		
441	外面には縄文を施文した凸帯を縦に２条貼り付けている。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
442	外面には縄文を施文した凸帯を３条貼り付けている。	凸帯上の縄文はＲＬ縄文か？	前期Ｖａ	Ａ-18	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英･長石	不良	
443	外面には縄文を施文した凸帯を３条貼り付けている。	外面及び凸帯上はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	不明	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
444	外面には縄文を施文した凸帯を２条貼り付けている。	外面及び凸帯上はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英･長石･結晶片岩		
445	外面には縄文を施文した凸帯を３条貼り付けている。	外面及び凸帯上はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ａ-５	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
446	外面には縄文を施文した凸帯を２条貼り付けている。	外面はＬＲ、ＲＬ縄文、凸帯上はＲＬ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ｖａ	Ａ-18	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
447	外面には縄文を施文した凸帯を２条貼り付けている。	外面及び凸帯上はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ｔ-５	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
448	外面には縄文を施文した凸帯を１条貼り付けている。	外面はＲＬ、凸帯上はＬＲ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ｖａ	Ｓ-４	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石		
449	内彎する口縁部には上から縄文を施文した幅広の凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖａ	Ａ-18	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･赤色斑粒		
450	わずかに内彎する口縁は端部上面にＶ字状の刻目が加えられ、外面には竹管状工具を押し引いた結節沈線を３条施文している。		前期Ｖｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
451	わずかに内彎する口縁は端部上面にＶ字状の刻目が加えられ、外面には竹管状工具を押し引いた結節沈線を３条施文している。		前期Ｖｂ	Ｓ-５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･結晶片岩		
452	わずかに内彎する口縁は端部上面に半截竹管状工具を刺突した刻目を加え、外面には細い沈線を口縁に並行するように３条施文している。		前期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石		
453	わずかに内彎する口縁は端部上面に半截竹管状工具を刺突した刻目を加え、外面には細い沈線を口縁に並行するように２条施文している。		前期Ｖｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
454	緩やかな波状口縁の土器は端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面は端部直下に細い沈線を口縁に沿って施文している。	外面は縄文が施文されているが、原体の種類は不明。	前期Ｖｂ	Ｓ-４	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（７）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
455	口縁は端部上面に棒状工具を押しつけたような刻目を加え、外面には細い沈線を口縁に並行するように１条施文している。		前期Ｖｂ	R-19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英･長石		
456	外反する口縁は平坦に仕上げられた口縁端部上面にヘラ状工具で浅い刻目を加え、外面は凹線状の太い沈線を口縁に沿って施文した後で、細い凸帯を斜めに貼り付けている。		前期Ｖｂ	T-2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
457	外面にはヘラ状工具を使った並行する水平方向の沈線を３条施文している。		前期Ｖｂ	A-5	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
458	わずかに括れた頸部から外上方に向かってのびる直線的な口縁は、端部上面に浅い刻目が加えられ、外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート･赤色斑粒		
459	直立する口縁は、端部上面に縄文を施文し、外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：2.5Y 4/1 黄灰	石英･結晶片岩		
460	わずかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面には地文の縄文の上から太くて浅い沈線を口縁に沿って４条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を施文している。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・チャート		
461	わずかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面には地文の縄文の上から太くて浅い沈線を口縁に沿って４条施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
462	わずかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面には地文の縄文の上から太くて浅い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	T-5	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英		
463	直立する口縁は、端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面には地文の縄文の上から太い沈線を口縁に沿って２条施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	T-5	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：2.5Y 2/1 黒	石英		
464	直立する口縁は、端部上面にヘラ先で浅い刻目を加え、外面には地文の縄文の上から太い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面はＲＬ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	T-5	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石		
465	直立する口縁は、端部外面に地文の縄文の上から太い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	R-19	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石		
466	大きく内彎する口縁は、端部上面に縄文を施文し、外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を口縁に沿って３条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ｖｂ	T-5	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英		
467	内彎する口縁部近くの破片。外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を水平方向に６条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を施文している。	前期Ｖｂ	T-5	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英･長石		
468	外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を水平方向に５条施文している。	外面は撚の方向の異なる縄文を施文している。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
469	外面には水平方向の沈線が３条並行して施文されている。		前期Ｖｂ	R-19	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石	良好	
470	外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を水平方向に５条施文している。	縄文の原体は不明。	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・チャート		
471	外面には地文の縄文の上から比較的太い沈線を水平方向に２条施文している。	外面の縄文はＲＬか？	前期Ｖｂ	S-4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英･長石		
472	外面は地文の縄文の上から浅くて太い沈線を水平方向に３条施文し、その上から凸帯を縦に貼り付けている。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	A-7	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
473	外面にはヘラ先を押し引いた結節沈線を２条施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ｖｂ	B-6	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英･長石･結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（８）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
474	外面にはヘラ先で並行する沈線を水平方向に２条施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴｂ	S-4	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石		
475	外面は地文の縄文の上から並行する細い沈線を水平方向に３条施文している。	外面はＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴｂ	T-1	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英･長石･結晶片岩･チャート		
476	直立する口縁は端部上面にハケ状工具で浅い刻目を加え、外面には上からヘラ状工具を使った刻目を施した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。		前期Ⅴｃ	S-5	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩	不良	
477	外面には上から半截竹管状工具を刺突した凸帯を２条間隔をあけて水平方向に貼り付けている。	凸帯の下にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅴｃ	T-5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩	不良	
478	外面は地文の縄文の上からヘラ先を押し引いた結節沈線を水平方向に施文している。	外面はＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅴｄ	S-4	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
479	外面は地文の縄文の上から半截竹管状工具を水平方向に連続して刺突している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｄ	S-4	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
480	外面は地文の縄文の上から半截竹管状、または先端を叉状に加工した工具を水平方向に連続して刺突している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｄ	不明	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石		
481	端部近くがわずかに内彎する口縁は外面に半截竹管状または叉状工具を口縁に並行するように２条押し引き、その下には同じ工具で重弧文が描かれている。		前期Ⅲａ	S-4 S-5 T-2 T-5	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石		
482	直立する口縁は端部上面が細かく波打ち、外面はヘラ状工具を３条並行するように押し引き、その下に縄文を施文している。	外面の縄文は０段多条のＲＬか？	前期Ⅴｂ	T-4 T-5	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
483	直立する筒状の体部は、途中から緩やかに外反しながら口縁部に向かってのび、端部近くで内彎している。緩やかな波状口縁には端部外面に凹線状の浅い沈線が１条口縁に沿って施文されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｂ		外面：5YR 5/4 にぶい赤褐色 内面：5YR5/6 明赤褐色	石英･長石		
484	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、突起部に縄文を施文した短い凸帯を縦に貼り付け、口縁に沿って貼り付けられた別の２条の凸帯とつなげられている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｂ	S-4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石	良好	
485	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁に沿ってヘラを使った結節沈線を４条、地文の縄文の上から押し引いている。	外面はＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅴｂ	T-5	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
486	緩やかに内彎する口縁は端部上面に縄文を施文し、外面は口縁に沿ってヘラを使った結節沈線を３条、地文の縄文の上から押し引いている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｂ	S-4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：5YR 4/6 赤褐	石英・長石・チャート		
487	緩やかに外反する口縁は、外面にヘラを使った結節沈線を２条、地文の縄文の上から口縁に並行するように押し引いている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅴｂ	S-4 T-4	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
488	内彎する口縁は端部を内方に拡張し小突起を付けている。外面は端部に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、口縁部の突起から延びる結節浮線文を凸帯に沿って貼り付けている。凸帯の下には縄文を施文した別の細い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。内面には生爪痕が残されている。	口縁端部外面の凸帯上はＲＬ、口縁端部上面の拡張部にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	S-4	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石･赤色斑粒		
489	内彎する口縁は端部を内方に拡張し平坦に仕上げられた端部上面に小突起を付けている。外面は端部に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、口縁部の突起から延びる、半截竹管で上部をなぞる浮線文を縦に貼り付けている。凸帯の下には縄文を施文した別の細い凸帯を口縁に並行するように間隔をあけて貼り付けている。内面には指頭圧痕と生爪痕が残されている。	口縁端部外面の凸帯上はＲＬ、外面の凸帯と口縁端部上面の拡張部にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	S-4	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（９）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
490	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、上部を半截竹管でなぞった浮線文を縦に貼り付けている。この凸帯の下には断面三角形の低い凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように貼り付けている。	口縁端部外面の帯状の凸帯上はＲＬ、その凸帯の下から断面三角形の凸帯までの間と口縁端部上面の拡張部にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英		
491	内彎する短い口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅７㎜ほどの帯状の凸帯を貼り付け、上部を半截竹管でなぞった浮線文を縦に貼り付けている。凸帯の下には縄文を施文した細い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。頸部の括れ部にも細い凸帯を貼り付けているが上部が半截竹管でなぞられている。内面は頸部の括れ部近くに×状に交差した生爪痕が残されている。	口縁部外面の凸帯上、および端部上面にはそれぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ａ－５	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
492	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅７㎜ほどの帯状の凸帯を貼り付け、半截竹管で上部をなぞった浮線文を縦に貼り付けている。この凸帯の下には縄文を施文した別の低い凸帯を、間隔をあけながら口縁に並行するように貼り付けている。	口縁端部外面の凸帯上はＬＲ、口縁端部上面の拡張部にはＲＬ縄文を施文している。口縁部の２条の凸帯は、凸帯ごとに撚の方向の異なる縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
493	内彎する口縁は端部を内方に拡張し、上面には棒状工具を垂直に押し付けたような刻み目を施している。外面は端部から２cmほど下に低い凸帯を貼り付け、縄文を施文している。	口縁部外面は端部付近と凸帯上で撚の方向が異なる縄文を施文している。端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
494	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅７㎜ほどの帯状の凸帯を貼り付け、その下にはやや間隔をあけて縄文を施文した別の帯状の低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面は、凸帯ごとに撚の方向が異なる縄文を施文している。端部上面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石		
495	内彎する口縁は端部上面をにぶく尖らせ、外面は端部直下に縄文を施文した低い帯状の凸帯を３条貼り付け、その下は無文のまま残されている。内面には生爪痕が水平に残されている。	口縁部外面は、凸帯ごとに撚の方向が異なる縄文を施文している。端部内面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	側溝	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
496	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は縄文を施文した凸帯を口縁に並行するように間隔をあけながら貼り付けている。	口縁部外面は、凸帯ごとに撚の方向が異なる縄文を施文している。端部上面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
497	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅１cmほどの帯状の低い凸帯を口縁に沿って貼り付け、さらに１cm下にも同じような凸帯を貼り付けている。	口縁部外面は、凸帯ごとに撚の方向が異なる縄文を施文している。端部上面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 8/3 淡黄	石英・長石・結晶片岩		
498	内彎する口縁は端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。外面は端部に幅７㎜ほどの帯状の低い凸帯を口縁に沿って貼り付け、さらに下にも同じような幅広で低い凸帯を貼り付けている。	口縁部外面は、凸帯ごとに撚の方向が異なる縄文を施文している。端部上面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 4/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩		
499	内彎する口縁は端部上面をにぶく尖らせ、外面は端部に縄文を施文した幅７㎜ほどの低い帯状の凸帯を口縁に沿って貼り付けている。さらに１cmほど下にも同じような凸帯を口縁と並行するように貼り付けている。内面には指頭圧痕が水平に残されている。	外面の凸帯上にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｔ－４	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
500	内彎する口縁と大きく括れる頸部を持った深鉢形土器は、端部外面に帯状の低い凸帯を貼り付け、半截竹管で上部をなぞった浮線文を縦に貼り付けている。この他にも端部から２cmほど下と、頸部にもそれぞれ細い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。口縁部側の凸帯には縄文を施文しているが、頸部の凸帯は上からΣ状工具を押し引いている。	口縁の凸帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｔ－４	外面：5YR 3/1 黒褐 内面：5YR 4/2 灰褐	石英・長石		
501	括れが小さい頸部と内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面に刻み目を施し、外面には半截竹管を使った弧線状の結節浮線文を３条横に貼り付け、端部に縦に貼り付けた別の結節浮線文をつなげている。		前期Ⅵａ	Ａ－２	外面：5YR 4/1 褐灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
502	括れが小さい頸部と内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、にぶく尖らされた口縁端部上面に半截竹管で連続する刻み目を施文し、外面は半截竹管を使った結節浮線文を２条、口縁に並行するように貼り付けている。頸部の括れ部には同じ半截竹管で結節沈線文が施文されている。		前期Ⅵａ	Ｓ－４	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（10）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
503	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文した後で端部上面にヘラで深い刻目を加えている。外面は端部から１cmほど下に半截竹管を押し引いた結節浮線文を口縁に並行するように貼り付け、その下には∨状工具を押し引いた弧線状の凸帯を貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｂ－19	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
504	口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文した後で端部上面にヘラで深い刻目を加えている。外面は端部から１cmほど下に半截竹管を押し引いた結節浮線文を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｂ－19	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
505	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文した後で端部上面にヘラで深い刻目を加えている。外面は端部直下に帯状の粘土を薄く貼り付け、その下には∨状工具を押し引いた凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｔ－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
506	内彎する口縁は端部内面に幅７㎜ほどの凸帯を貼り付け縄文を施文している。外面は端部から１cmほど下に∨状工具を押し引いた凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ａ－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
507	内彎する口縁は端部内面に幅１cmほどの凸帯を貼り付け縄文を施文している。外面には上から半截竹管を押し引いた凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように３条貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｓ－4	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
508	口縁端部上面はにぶく尖らされＶ字状の深い刻目を加えている。内面には幅１cm足らずの凸帯を貼り付けた上から縄文を施文し、外面は端部からやや離れた位置に半截竹管を押し引いた凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	不明	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石		
509	内彎する口縁は端部内面に幅１cmほどの凸帯を貼り付け縄文を施文している。外面には上からＶ状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように２条貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｓ－20 Ｔ－20	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
510	内彎する口縁は端部内面に幅５㎜ほどの凸帯を貼り付け縄文を施文している。外面には上から半截竹管を押し引いた凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように２条貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｔ－3	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	長石・結晶片岩		
511	内彎する口縁は端部内面に幅５㎜ほどの凸帯を貼り付け縄文を施文している。外面には上から半截竹管を押し引いた凸帯を間隔をあけながら口縁に並行するように３条貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｓ－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
512	内彎する口縁はにぶく尖らされた端部上面と内面の幅５㎜ほどの範囲に縄文を施文している。外面には幅１cmほどの帯状の粘土を薄く貼り付け、その下には上から半截竹管を押し引いた凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	口縁部内外面にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｔ－3	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
513	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文した後で端部上面に棒状工具を押しつけた様な刻目を加えている。外面は端部から１cmほど下に半截竹管とＶ状工具を押し引いた結節浮線文を口縁に並行するように２条貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｂ	Ｔ－4	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
514	口縁端部には内外面にそれぞれ幅１cmほどの帯状の粘土を貼り付け、内面は縄文、外面はヘラ先で刺突を加えている。外面は粘土帯の下にさらに半截竹管を押し引いた凸帯を貼り付けている。	内面の凸帯上にＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｔ－3	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
515	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．２cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文した後で端部上面にヘラで深い刻目を加えている。外面は端部から１cmほど下に∨状工具を押し引いた凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵａ	Ｔ－2	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
516	緩やかに内彎する口縁は、内外面にそれぞれ幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させた端部をにぶく尖らせ、外面に半截竹管文を使った連続する刺突を施した結節浮線文を凸帯の下に貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ａ－4	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
517	口縁は内面に幅１．７cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させた端部をわずかに上方に折り曲げている。外面は上から半截竹管を押し引いた弧線状の結節浮線文を貼り付けている。	内面の凸帯上にＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ａ－3	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（11）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
518	波状口縁の深鉢形と考えられる土器は口縁部に上から∩状の粘土帯を貼り付けて肥厚させ半截竹管を連続して押し引いている。外面には上から半截竹管を押し引いた結節浮線文を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩		
519	口縁は内面に断面三角形の凸帯を貼り付けて肥厚させた端部に上から棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻目を加えている。外面には上からΣ状工具を押し引いた結節浮線文を斜めに貼り付けている。		前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	長石・結晶片岩		
520	上方に大きく開いた口縁は、端部内面に帯状の凸帯を貼り付け、内方に拡張している。外面は端部から１cmほど下に上からΣ状工具を押し引いた凸帯を口縁と並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/3 にぶい赤褐	石英・長石		
521	口縁は端部内面に帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面には∪状工具を斜めに押し引いて刻目を施している。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－２	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
522	内彎する口縁は、端部内外面にそれぞれ帯状の凸帯を貼り付けている。端部上面には棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻目を加えている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
523	緩やかな波状口縁の土器は、端部内面に帯状の凸帯を貼り付けている。端部上面にはＭ字状工具を使った深い刻目が施されている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－４	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
524	口縁は端部内面に帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面にはＭ字状工具を斜めに押し引いて深い刻目を施している。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
525	上方に大きく開く口縁は、端部内面に帯状の凸帯を貼り付け、拡張されている。端部上面には棒状工具を上から押しつけたような深い刻目を加えている。外面には幅１cmほどの薄い粘土帯が口縁に沿って貼り付けられている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
526	低い山形突起を持った波状口縁は、端部に∩状の粘土を上から貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
527	上方に大きく開く口縁は端部内外面にそれぞれ幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
528	緩やかに内彎する口縁は、端部内外面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
529	緩やかに内彎する口縁は、端部内外面に幅１．５cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－５	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
530	緩やかに内彎する口縁は、端部内外面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させている。端部上面にはヘラ先で浅い刻み目を施している。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
531	緩やかに内彎する口縁は、端部内外面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面をにぶく尖らせている。外面の凸帯の下には縦方向の生爪痕が間隔をあけながら残されている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－５	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
532	口縁は、端部内面に幅２cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて肥厚させ、さらに幅６mmほどの凸帯を貼り付けている。にぶく尖らされた口縁端部上面にはＭ字状工具を連続して押し引いている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
533	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面に棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻み目を施し、内面には幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｓ－20	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
534	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、口縁端部内面に幅７mmほどの帯状の凸帯を貼り付けている。外面は端部から１cmほど下から頸部との境にかけてヘラ先を使った１字状の刺突列を３段施文している。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－３	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
535	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．３cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面はにぶく尖らされている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（12）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
536	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１～１．３㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面を円く仕上げている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
537	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．２㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面を円く仕上げている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－２	外面：7.5YR 8/2 灰白 内面：5YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
538	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．５㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面に棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻目を施している。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｒ－19	外面：2.5Y 8/4 淡黄 内面：2.5Y 8/3 淡黄	石英・長石・結晶片岩		
539	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．２㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、上面を円く仕上げている。	口縁部外面と内面の凸帯上には、それぞれＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
540	緩やかに内彎する口縁は、端部近くでわずかに外側に折り返されている。、端部上面はにぶく尖らされている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は口縁の屈曲部でナデ消されている。	前期Ⅵｃ	Ｔ－１	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
541	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、内面に粘土帯を貼り付けて肥厚させた口縁端部を円く仕上げている。	口縁部外面はＬＲ、端部内面にはＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵｃ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
542	緩やかに内彎する上方への開きが大きい口縁は、端部上面に粘土帯を貼り付けて内方に拡張している。内面には指頭圧痕とともに生爪痕が残されている。	口縁部外面と拡張された端部上面にはそれぞれＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅵｃ	Ｔ－４	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
543	頸部の括れ部かれ緩やかに内彎しながら上方に大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、端部上面を内側に拡張し、平坦面を作り出している。内外面とも指頭圧痕が明瞭に残されている。	口縁部外面と拡張された端部上面にはそれぞれＲＬ縄文が施文されている。	前期Ⅵｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
544	外反しながら上方に大きく開く口縁は、端部内面に幅５㎜ほどの凸帯を貼り付けている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。（結節縄文か？）	前期Ⅵｃ	Ｔ－４	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
545	緩やかに内彎しながら上方に大きく開く口縁は、端部内面に幅５㎜足らずの凸帯を貼り付けている。円く仕上げた口縁端部には浅い刻み目を施している。内外面とも器面の凹凸が著しい。		前期Ⅵｄ	不明	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/1 灰白	石英・長石		
546	頸部の括れ部から緩やかに内彎しながら上方に大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、端部上面を平坦に仕上げている。内外面とも指頭圧痕が明瞭に残され、器面の凹凸が著しい。		前期Ⅵｄ	Ｂ－19	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石		
547	緩やかに内彎する口縁は端部から１㎝ほど下に断面三角形の凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から５㎜ほど下でナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
548	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土を貼り付けて肥厚させている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｓ－１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
549	上方に開く直線的な口縁は、端部上面に棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻目を施している。内外面とも器面の凹凸が著しい。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｔ－４	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
550	緩やかに内彎する口縁は、端部上面に貝殻背圧痕文を施文している。内面には縦方向の生爪痕がわずかな間隔をあけながら連続している。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から５㎜ほどのところでナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
551	上方に開く直線的な口縁は、端部上面に棒状工具を垂直に押しつけたような深い刻目を施している。内外面とも器面の凹凸が著しい。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｔ－４	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
552	内彎する口縁は、端部がわずかに上方に折り曲げられている。外面は端部に沿って貼り付けた細い凸帯から下に向かって、∨状工具を上から押し引いた結節浮線文を貼り付けている、		前期Ⅵａ	Ｔ－４	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
553	内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされ、長楕円形の突起を貼り付けている。突起の頂部には施文具不明の櫛歯状の刺突が加えられている。外面には環状の細い凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵａ	Ｔ－2a－3	外面：5YR 5/2 灰褐 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（13）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
554	筒状の体部は、頸部で括れることなく、上方への開きが小さく緩やかに内彎する口縁に移行している。口縁は端部内外面に帯状の凸帯を貼り付け、内面にはさらに上からM字状工具を押し引いた結節浮線文を貼り付けている。外面は端部から１．５cmほど下に、結節浮線文を口縁に並行するように貼り付け、その下には、同じ浮線文で紡錘状文が描かれている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ｔ－１ Ｔ－20	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩		
555	上方に向かって大きく開く直線的な体部を持った鉢形土器は、口縁端部がにぶく尖らされている。	口縁部外面と端部内面には、それぞれＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	前期Ⅵｄ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
556	内彎しながら上方に大きく開く体部は、外面に上から半截竹管を押し引いた凸帯と、縄文を施文した扁平な凸帯を貼り付けている。内外面とも生爪痕が残されている。	外面はＲＬ、凸帯上はＬＲ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ⅵ	Ｓ－４	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
557	内彎する体部は、外面に上から半截竹管を押し引いた凸帯と、縄文を施文した扁平な凸帯を貼り付けている。内面には生爪痕が残されている。	外面はＲＬ、凸帯上はＬＲ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
558	内彎する体部は、外面に上から半截竹管を押し引いた凸帯と、縄文を施文した扁平な凸帯を貼り付けている。	外面はＲＬ、凸帯上はＬＲ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ⅵ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
559	内彎する体部は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯と、縄文を施文した扁平な凸帯を貼り付けている。	外面はＲＬ、凸帯上はＬＲ縄文をそれぞれ施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－３	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
560	外反する体部には上から縄文を施文した水平に貼り付けた低い凸帯に沿って生爪痕が残されている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｓ－４	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
561	外面は地文の縄文の上に生爪痕と縄文を施文した扁平な凸帯を水平方向に貼り付けている。	外面、凸帯上ともＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｓ－５	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
562	内彎する体部は、外面に上から半截竹管を押し引いた凸帯を水平方向に貼り付けている。	外面は地文にＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－２ Ｔ－３	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
563	内彎する体部は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	外面は地文にＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－３	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
564	外面は上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて曲線を描いている。	外面は地文にＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｓ－４	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
565	外面は上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて環状の文様を描いている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅵ	Ｂ－１	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
566	内彎する体部は、地文の縄文の上に水平方向に並行する沈線を引き、上から半截竹管を押し引いた縦方向の貼付凸帯とつなげている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅵ	Ｔ－３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
567	内彎する体部は、上から半截竹管を押し引いた凸帯を直交するように貼り付けている。		前期Ⅵ	Ｓ－４	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
568	内彎する体部は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－20	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
569	内彎する体部は、外面に地文の縄文の上から∨状工具を押し引いた水平方向と連弧状の凸帯を貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－２	外面：7.5YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
570	内彎する口縁は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｓ－４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
571	内彎する口縁は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて弧線文を描いている。凸帯の間には生爪痕が残されている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｂ－６	外面：7.5YR 3/1 黒褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
572	内彎する口縁は、外面に上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて工字文風の文様を描いている。凸帯の下には円形の突起も貼り付けられている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	Ｔ－２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（14）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
573	内彎する口縁は、外面に上から半截竹管状工具を引きずった凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。		前期Ⅵ	A－1 B－19	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
574	内彎する口縁は、頸部との境近くに上から半截竹管状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	０段多条の可能性がありＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	A－18	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
575	内彎する口縁は、頸部との境近くに上から半截竹管を刺突した凸帯と半截竹管状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけて水平に貼り付け、凸帯の間には縄文の他に生爪痕が残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－3	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
576	口縁と頸部との境近くには、上から半截竹管状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて弧状文が描かれている。		前期Ⅵ	T－3	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
577	内彎する口縁は、頸部との境近くに上から半截竹管状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－5	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
578	内彎する口縁は、頸部との境近くに上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて直線や弧状文を描いている。凸帯の間には地文の縄文の上に指頭圧痕が連続して残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	S－4	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
579	内彎する口縁は、上から半截竹管状工具を引いた凸帯を貼り付けて連弧状の文様を描いている。		前期Ⅵ	A－1	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石	不良	
580	内彎する口縁は、上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて幾何学的なモチーフを描いている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－3	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
581	内彎する口縁は、上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けて幾何学的なモチーフを描いている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	S－4	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
582	頸部の屈曲部には上から半截竹管状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－3	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
583	外面には、上から半截竹管状工具を引いた凸帯を水平に貼り付けている。		前期Ⅵ	T－5	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
584	外面には、上から∨状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	A－18	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩	不良	
585	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けている。	０段多条の可能性がありＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	A－1	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
586	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を貼り付けて幾何学文様を描いている。	０段多条の可能性がありＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	S－4	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
587	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。		前期Ⅵ	A－2	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石		
588	外面には上から半截竹管状工具を引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	不明	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
589	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を貼り付けている。		前期Ⅵ	S－1	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
590	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を貼り付けて直線や波状の文様を描いている。凸帯の間には生爪痕が残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－3	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
591	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を貼り付けて直線や波状の文様を描いている。		前期Ⅵ	S－20	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
592	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（15）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
593	外面には上から∨状工具を引いた凸帯を間隔をあけながら水平に貼り付けている。		前期Ⅵ	T－3	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
594	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら縦に貼り付けている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：10YR 8/4 浅黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
595	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を縦に貼り付けている。	０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	S－4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
596	直立する体部外面には上から半截竹管状工具を押し引いた凸帯を水平に貼り付けている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
597	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら縦に貼り付けている。		前期Ⅵ	T－3	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
598	外面には上から∨状工具を押し引いた凸帯を間隔をあけながら縦に貼り付けている。		前期Ⅵ	A－3	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
599	外面は凸帯を貼り付けて直線や曲線のモチーフを描いている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－3	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
600	内彎する口縁には縄文と共に連続する生爪痕が水平方向に残されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅵ	T－4	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
601	内彎する口縁は内面に生爪痕がわずかに残されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅵ	S－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート		
602	内彎する口縁には縄文と共に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	S－20	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石・結晶片岩		
603	内彎する口縁には縄文と共に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅵ	不明	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
604	内彎する口縁には生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。		前期Ⅵ	T－2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
605	内彎する口縁には縄文と共に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄褐	石英・長石		
606	頸部には縄文と共に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
607	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵ	A－2	外面：7.5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
608	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	不明	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石	不良	
609	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄褐	石英・長石	不良	
610	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石	不良	
611	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	A－1	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石	不良	
612	体部には縄文の上に生爪痕が間隔をあけて水平方向に残されている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅵ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（16）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
613	底部には生爪痕が同心円状に残されている。		前期Ⅵ	B－19	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：7.5YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩	不良	
614	緩やかな波状口縁の土器は、口縁端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け内外面とも縄文を施文後、∨状工具を使って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の刺突を加えて断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した低い凸帯を貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅵａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
615	緩やかな波状口縁の土器は、口縁端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、内外面ともいったん縄文を施文したうえで、∨状工具を使って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の刺突を加え、断面を方形に仕上げている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅵａ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
616	端部がわずかに外反する口縁は、端部内面に幅１．５cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面に粘土を貼り付け∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の刺突を加えて断面方形に仕上げている。外面は端部直下にΣ状工具を刺突した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅵａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
617	口縁は端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面に粘土を貼り付け、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部直下にΣ状刺突列を施文した凸帯をわずかな間をあけながら口縁に並行するように２条貼り付け、さらにその下には別の凸帯が右下に向かって延びている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅵａ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
618	口縁は端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面に粘土を貼り付け、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－５	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩		
619	口縁は端部内面に幅１．３cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面に粘土を貼り付け、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を１条、口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＬＲ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｓ－４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
620	口縁は端部内面に幅１～1.5cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面に粘土を貼り付け、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にヘラを使用したＩ字刺突列を口縁に並行して施文している。	口縁端部内面の粘土帯上にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/8 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
621	口縁は端部内面に幅1.2cmほどの帯状の凸を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面に粘土を貼り付け、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
622	小突起を付けた口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けて内外面ともいったん縄文を施文したうえで、Ｖ字状工具を使って内面は時計回り、外面は反時計回りの方向の刺突を加え、断面を方形に仕上げている。外面は端部から２cmほど下に同じＶ条工具が口縁に並行するように押し引柘れている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	不明	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
623	口縁は端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面にも粘土を貼り付け、∨状工具で内面が時計回り、外面が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にΣ刺突列を施文した凸帯を口縁に並行して２条貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は一部が凸帯との境をナデた際に一緒にナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/8 橙	長石・結晶片岩		
624	口縁は端部内面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付け∨状工具で内面が時計回り、外面が反時計回りの方向の刺突を加え断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字（Ｉ）爪形文列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２ Ｔ－３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（17）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
625	緩やかな波状口縁の土器は、端部内面に幅１～１．５㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突列を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下とそれより５㎜ほど下にそれぞれΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、部分的にナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
626	直立する口縁は、端部内面に幅１．２㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて拡張し、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１㎝ほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶａ	T－1 T－2	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・赤色斑粒		
627	口縁は端部内面に幅１～１．５㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。。口縁部外面は端部から１．５㎝ほど下に半截竹管を使用したＣ字刺突列を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶａ	B－19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		口縁端部の貼付は長楕円形の突起の可能性がある。
628	小突起を付けた口縁は、端部内面に幅１㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１㎝ほど下にΣ状刺突を施文した凸帯を口縁と並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－2	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
629	口縁は、端部外面に幅１㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内面を時計回り、外面は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１．３㎝ほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－20	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
630	口縁は、端部内面に薄い帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内方に拡張し、∨状工具で内側を時計回り、外側を反時計回りの方向の連続する刺突を加えている。。口縁部外面には端部直下にΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部が丁寧にナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－20	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
631	小突起を付けた口縁は、端部内面に幅１㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にヘラによるＩ字状刺突列を施文した粘土帯を貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－4 T－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
632	低い山形突起を付けた口縁は、端部内面に幅１㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側に時計回り、外側に反時計回りの方向に連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にΣ状刺突列を施文した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－2	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
633	山形突起を付けた波状口縁の土器は、口縁端部内面に幅１．５㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付けいったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側が反時計回りの方向に連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は口縁端部からそれぞれ１㎝と２㎝ほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を２条貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部が丁寧にナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
634	低い山形突起を付けた波状口縁の土器は、口縁端部内面に幅１㎝足らずの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向に連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	A－4	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（18）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
635	口縁端部は内面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にΣ状刺突列が施文された凸帯を１条口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－4 T－3	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		断面２個あり
636	口縁は端部内面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下にΣ状刺突列を施文する凸帯を１条、口縁に並行して貼り付けられている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－4 T－3	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		断面２個あり
637	口縁は、端部内面に幅1.5cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列が施文された凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－1	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
638	口縁は端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	B－19	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
639	口縁端部は内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、いったん縄文を施文したうえで、頂部にも粘土を貼り付けて内方に拡張し∨状工具で外側は時計回り、内側は反時計回りの方向に連続する刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部近くにΣ状刺突列を施文した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。	内面の粘土帯上にはＬＲ縄文が施文され一部はナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－1	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
640	口縁は、端部内外面に縄文を施文した後で、頂部に粘土帯を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で外面は時計回り、内面は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されていが、内面の縄文は端部から１．５cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－2	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
641	端部近くでわずかに外側に折り曲げられた口縁は、内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側が時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	S－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
642	口縁は、端部内面に帯状の凸帯を貼り付け縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し∨状工具で内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
643	内彎する口縁は、端部内面に凸帯を貼り付けて拡張し、∨状工具で外側は反時計回り、内側の凸帯は時計回りの方向に連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	縄文の有無は不明。	前期Ⅶａ	B－19	外面：10YR 6/1 褐灰 内面：10YR 6/1 褐灰	長石・結晶片岩		
644	口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で内側を時計回り、外側を反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１．５cmほど下に連続してΣ状刺突を加えた凸帯を１条口縁に並行して貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－2 A－3	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
645	内彎する口縁は、端部内面に幅１cm足らずの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付け、∨状工具で内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部直下にΣ状刺突列を付けた凸帯が、さらにその下には同様の凸帯で弧状の文様を描いている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、外面は頸部近くの縄文がナデ消されている。	前期Ⅶａ	T－3	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（19）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
646	内彎する口縁は、端部内面に幅１cmほどの帯状の凸帯を貼り付け、縄文を施文したうえで、端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、∨状工具で外面に反時計回り、内側の凸帯には時計回りの方向の連続する刺突を加え、断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、外面は頸部近くの縄文がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ａ－２	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
647	内彎する口縁は端部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Ｃ字刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面は口縁端部から１cmほどの範囲を残して縄文がナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｓ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･赤色斑粒		
648	膨らみが小さい筒状の体部と内彎する口縁を持った深鉢形土器。口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Ｃ字刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。同様の凸帯は体部にも水平に貼り付けられている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部のわずかな範囲を残しナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･赤色斑粒	不良	
649	内彎する口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に、Ｃ字刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石･砂岩	不良	
650	膨らみが小さい筒状の体部と内彎する口縁を持った深鉢形土器。口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に、Ｃ字刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けるほか、体部にも水平方向に１条貼り付けられている。また、頸部外面には薄く粘土が貼り付けられた上に１cm近い幅のＣ字形爪形文が施文されている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石	不良	
651	緩やかに内彎する口縁は端部近くがわずかに外反している。口縁は内外面に縄文を施文したあと端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯が口縁に並行して１条貼り付けられ、さらにその下には同じ様な凸帯を貼り付けて鋸歯文を描いている。	外面と内面の口縁端部直下にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１．５cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｓ－20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
652	内彎する口縁は端部内面に３cm程度の粘土を薄く帯状に貼り付けた上に縄文を施文したあと、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｓ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
653	口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した低い凸帯を水平方向に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
654	口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から２cmほど下に、Σ状刺突列を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部のわずかな範囲を残しナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･チャート		
655	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部のわずかな範囲を残しナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（20）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
656	波状口縁の土器は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cm前後下にΣ状刺突列を施文した凸帯を１条貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１～１．５cmくらいの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
657	波状口縁の土器は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続するＣ字状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１～１．５cm前後下にＣ状刺突列を施文した凸帯を水平に１条貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１～１．５cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
658	内彎する口縁は端部内面に幅２cm程度の粘土を薄く帯状に貼り付けた上に縄文を施文し、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張している。次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から５mmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ａ－６	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
659	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmくらいの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
660	口縁は端部内面に粘土を薄く帯状に貼り付けた上に縄文を施文し、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張している。次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続するΣ状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 3/2 黒褐	石英・長石		
661	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から５mmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
662	波状口縁の土器は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続するＣ字状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cm前後下にΣ状刺突列を施文した凸帯を水平方向に１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文はほとんどがナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
663	口縁は端部内面に帯状の粘土を薄く貼り付けた上に縄文を施文し、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張している。次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
664	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cm前後下にくΣ状刺突列を施文した凸帯を水平に１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
665	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cm前後下にくΣ状刺突列を施文した凸帯を水平に１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文はほとんどがナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
666	口縁は端部内面に幅１cm程度の帯状の粘土を薄く貼り付けた上に縄文を施文し、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張している。次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を拡張部に加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に、Σ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文はほとんどナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（21）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
667	口縁は内外面に縄文を施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側が反時計回りの方向の連続する∨状刺突を拡張部に加えて断面方形に仕上げている。	外面と内面の口縁端部直下にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶａ	Ｔ－３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
668	口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から２cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－１	外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・チャート		
669	口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から２cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	不明	外面：2.5Y 6/3 にぶい黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・チャート		
670	口縁は端部内面に幅１cm程度の粘土帯を貼り付け縄文を施文したあと、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した幅広の凸帯を貼り付けている。	口縁部外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｂ	Ｂ－19	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
671	内彎する口縁は端部近くで上方に折り曲げられ、内面に幅１．５cm程度の薄い帯状の粘土を貼り付けている。粘土帯上には縄文を施文したあと、さらに端部上面近くに凸帯を貼り付けている。口縁端部には反時計回りの方向、内面の凸帯上には時計回りの方向の連続する∨状刺突をそれぞれ加えてにぶく尖らせている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文が施文されているが、外面の端部から凸帯までの間は縄文がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
672	山形突起を付けた波状口縁の土器。内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付け縄文を施文したあとで、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げられている。口縁部外面は端部から１．２cmほど下に∨状刺突列を施文した凸帯を水平方向に貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部を残してがナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２ Ｔ－３	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		断面２個あり
673	山形突起を付けた波状口縁の土器。内彎する口縁は端部内面に粘土帯を貼り付け縄文を施文したあとでさらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を水平方向に貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部を残してがナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２ Ｔ－３	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
674	山形突起が付けられた波状口縁の土器。内彎する口縁は端部内面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｂ－19	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
675	山形突起が付けられた波状口縁の土器。内彎する口縁は端部内面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面上にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を水平方に貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
676	山形突起が付けられた波状口縁の土器。内彎する口縁は内外面に縄文を施文したあと、端部上面上に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から０．５～１．５cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（22）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
677	山形の突起（？）が付けられた波状口縁の土器。内彎する口縁は端部内面に１．５cmほどの粘土帯を貼り付け、縄文を施文したうえで端部上面にさらに粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を２条口縁に並行に貼り付け、さらにそれから１cm下に同様の凸帯を貼り付けて曲線文を描いている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	S－1 T－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
678	内彎する口縁は端部内面に幅１～１．５cmほどの薄い帯状の粘土を貼り付け縄文を施文したあとで、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側に時計回りの方向に連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
679	口縁は端部内面に幅２cmほどの薄い帯状の粘土を貼り付け縄文を施文したあとで、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、口縁に沿って外側が反時計回り、内側が時計回りの方向に連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と口縁端部直下の内面にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は部分的にナデ消されている。	前期Ⅶｂ	B－19	外面：7.5YR 5/1 褐灰 内面：7.5YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
680	口縁は端部内面に幅２cmほどの粘土帯を貼り付け縄文を施文したあとで、さらに頂部内面に凸帯を貼り付けて内側に拡張し、口縁に沿って外側が反時計回り、内側が時計回りの方向に連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯をわずかな間隔をあけながら口縁に並行するように２条貼り付けている。	内面の粘土帯上にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
681	口縁は端部内面に幅２cmほどの薄い帯状の粘土を貼り付け縄文を施文したあとで、さらに端部上面の内側に細い凸帯を貼り付け時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面三角形に仕上げている。また、同じような∨状刺突列を反時計回りの方向に施文した端部外面から１．５cmほど下にはＣ字状刺突列が施文された凸帯を水平に２条貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	S－1	外面：5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
682	内彎する口縁は内外面に縄文を施文したあとで、端部上面の内側に凸帯を貼り付け時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面三角形に仕上げている。また、口縁部外面は同じような∨状刺突列を反時計回りの方向に施文し、にぶく尖らせた端部から１．５cmほど下にはΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部近くにＲＬ１縄文を施文している。内面の縄文は端部直下を残して丁寧にナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－2	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート	不良	
683	口縁は内外面に縄文を施文したあとで、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向に連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
684	内彎する口縁は端部内面に粘土を薄く貼り付けて縄文を施文したあとで、さらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。また、口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－2	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
685	内彎する口縁は端部内面に粘土を薄く貼り付けて肥厚させ、縄文を施文したあとさらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。また、口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－1 T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
686	内彎する口縁は端部内面に粘土を薄く貼り付けて肥厚させ、縄文を施文したあとさらに端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。また、口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように１条貼り付けている。	外面と内面の口縁端部付近にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	前期Ⅶｂ	T－1 T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（23）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
687	低い山形の波状口縁の土器。口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、口縁に沿って外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。	口縁部内外面外面にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文が施文される範囲は比較的広い。	前期Ⅶｂ		外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石・石英・結晶片岩？・赤色斑粒		
688	低い山形の波状口縁の土器。口縁端部内外面は縄文を施文したあと内面に凸帯が貼り付けられ、にぶく尖らされた口縁端部には時計回り、内面の凸帯上には反時計回りの方向の連続して∨状刺突を加えている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は他と比較して広い範囲に及んでいる。	前期Ⅶｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
689	低い山形の波状口縁の土器。口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 4/1 褐灰	長石・結晶片岩		
690	低い山形の波状口縁の土器。口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。		前期Ⅶｂ	Ｓ－１	外面：7.5YR 7/8 黄橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
691	低い山形の波状口縁の土器。口縁は端部内面に粘土帯を貼り付けて縄文を施文したあと、さらに端部上面にも粘土を貼り付けて内外方に拡張し、外側は反時計回り、内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ａ－１	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
692	緩やかな波状を呈する口縁は内外面に縄文施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面には無節のＲＬ縄文が施文されるが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
693	わずかに内彎しながら外上方にのびる口縁は内外面に縄文施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向に連続する∨状刺突を加えている。口縁部外面は口縁端部から２．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－２	外面：10YR 5/6 黄褐 内面：10YR 5/6 黄褐	長石・結晶片岩	不良	
694	緩やかな波状を呈する口縁は内外面に縄文施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。	口縁部内外面には無節のＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
695	緩やかな波状を呈する口縁は内外面に縄文施文後、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｂ	Ａ－６	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
696	口縁は端部内外面とも幅１cmほどの薄い粘土帯を貼り付け、縄文を施文している。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	Ｔ－３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
697	口縁は端部内面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付け縄文を施文したあと、端部上面に長楕円形の低い突起を貼り付けている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
698	口縁は端部内面に幅１～１．５cmほどの粘土帯を貼り付け縄文を施文したあと、端部上面に３．５cmほどの長楕円形の低い突起を貼り付けている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の凸帯上の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	Ｔ－３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
699	低い山形突起を持った緩やかな波状口縁の土器。口縁端部は内外面とも幅１cmほどの薄い帯状の粘土を貼り付けて肥厚させている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と口縁端部内面の粘土帯上にはＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	Ｓ－20	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩	良好	
700	緩やかに内彎する口縁は端部内外面に幅１cmほどの薄い帯状の粘土を貼り付けて肥厚させている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と口縁端部それに端部直下の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	Ｔ－６	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
701	緩やかに内彎する口縁は端部内外面に幅１cm程度の薄い帯状の粘土を貼り付けて肥厚させている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と口縁端部それに内面の粘土帯上にはＲＬＬＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	Ｔ－２ Ａ－３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（24）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
702	緩やかに内彎する口縁は端部内外面に幅１～１．５cm程度の薄い粘土帯を貼り付け、肥厚させている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	外面と口縁端部それに端部直下の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	不明	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
703	「く」の字に屈曲する頸部と、緩やかに内彎しながら上方に大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、にぶく尖らせた口縁端部外面に幅１．５cm、内面に７mmほどの帯状の凸帯を貼り付け、頂部には長楕円形の低い突起を付けている。外面の凸帯の下には上からΣ状工具を押し引いた結節浮線文を凸帯に沿って貼り付けている。	口縁部外面と内面の凸帯上にはＬＲ縄文が施文されている。	前期Ⅶｃ	T-1	外面：10YR 4/4 褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
704	口縁は端部内外面に幅１cm程度の粘土帯を貼り付け縄文を施文したあと、端部上面に長さ４cmの長楕円形の低い突起を貼り付けている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と口縁端部それに端部直下の内面にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－18	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
705	緩やかに内彎する口縁は端部内面に幅１cm程度の粘土帯を貼り付け縄文を施文したあと、端部上面に長さ２．５cmの長楕円形の低い突起を貼り付けている。口縁部外面は端部から１．５～２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と口縁端部それに端部直下の内面にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－18	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
706	口縁は端部内面に１．５～２cm程度の幅の薄い粘土帯を貼り付けている。口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面と端部上面にＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－2	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
707	内彎する口縁はにぶく尖らされた端部内面に１．５cm程度の幅の薄い粘土帯を貼り付けている。口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面に０段多条の可能性のあるＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－1	外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石・結晶片岩		
708	内彎する口縁は、にぶく尖らされた端部内面に１．５cm程度の幅の薄い粘土帯を貼り付けている。口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面にＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	T－20	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩	不良	
709	内彎する口縁は、にぶく尖らされた端部内面に１．５cm程度の幅の粘土帯を貼り付けている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。		前期Ⅶｃ	A－1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
710	緩やかに内彎する口縁は鈍く尖らされた端部内面に２cm程度の幅の粘土帯が貼り付けられている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－18	外面：2.5Y 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
711	緩やかに内彎する口縁は端部がにぶく尖らされている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にＣ字形爪形文が施文された低い凸帯を口縁と並行するように貼り付け、さらにその下には同様の凸帯の貼り付けによって連弧文が描かれている。	外面と口縁端部、それに端部直下の内面には０段多条の可能性があるＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１cm程度を残してナデ消されている。	前期Ⅶｃ	A－18	外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
712	緩やかに内彎する口縁は端部外面は１．３cm、内面が２．５cm程度の幅の薄い粘土帯を貼り付けている。また、口縁部外面は端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面はＲＬ縄文、端部上面と端部内面の粘土帯上にはＬＲ縄文がそれぞれ施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	T－1	外面：10YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
713	口縁は端部内面に幅２cm程度の薄い粘土帯を貼り付けている。口縁部外面は平坦に仕上げられた端部から２cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と端部上面および端部内面の粘土帯にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	T－2	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
714	緩やかに内彎する口縁は端部内面に幅１cm程度の粘土帯が貼り付けられ、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部が丁寧にナデ消されている。	前期Ⅶｃ	T－3	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
715	口縁は端部内外面に幅０．８～１．３cm程度の粘土帯を貼り付けて肥厚させ、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え断面方形に仕上げている。口縁部外面は粘土帯の貼り付けの下にΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	外面と内面の粘土帯上にＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶｃ	T－3	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
716	口縁は端部に上から棒状施文具を押しつけたような刻み目が加えられている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面と口縁端部直下の内面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部をナデ消している。	前期Ⅶｃ	T－20	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（25）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
717	緩やかに内彎する口縁はにぶく尖らされた端部上面に、棒状施文具を上から押しつけたような刻み目が残されている。口縁部外面は端部から２．５cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を貼り付けている。	口縁部外面、端部直下の内面にはＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は１．５cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶc	B－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
718	内彎する口縁は端部内面に幅１cm足らずの粘土帯を薄く貼り付け縄文を施文している。口縁部外面は端部から５mmほど下に半截竹管によるＣ字状刺突列が施文された凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	口縁部外面と内面の粘土帯上にＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶc	T－1 T－2 T－3 A－3	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
719	内彎する口縁は端部が鈍く尖らされ内面に幅１．３cm程度の粘土帯を貼り付け縄文を施文している。口縁部外面は端部から１cmほど下にΣ状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付け、さらに下側には同じような特徴を持った別の凸帯が斜下方に貼り付けられている。	外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶc	A－1	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
720	短く外反する口縁は端部内面に幅１cm程度の粘土帯を貼り付け、上面に∨状刺突を反時計回りの方向の連続して加え、にぶく尖らせている。口縁部外面は端部直下にΣ状刺突列を施文した凸帯を１条貼り付け、わずかな間隔を置いてさらにもう１条、貼り付けられている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１．５cmほどを残してナデ消されている。	前期Ⅶd	S－20	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
721	内彎する口縁は外面にΣ状刺突列を施文した直線的な凸帯を並行して２条貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
722	内彎する口縁は外面にΣ状刺突列を施文した凸帯を直交させ直線的な幾何学文様を描いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－3	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
723	内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。口縁部には連続するΣ状刺突を施文した凸帯を貼り付けて曲線を描いている。同じような凸帯は頸部の屈曲部にも貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	B－19	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
724	内彎する口縁にはΣ状工具による結節浮線文が付けられた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	S－20	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
725	内彎する口縁には端部近くにΣ状刺突列を施文した凸帯で直線と曲線を交えた幾何学的な文様が描かれている。	口縁部外面ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・金雲母・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
726	内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。頸部には連続するＣ字状刺突を施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	A－1	外面：5YR 4/3 にぶい赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
727	内彎する口縁と膨らみが小さい筒状の体部を持った深鉢形土器。「く」の字に屈曲する頸部には、Ｃ字爪形文を施文した薄い粘土帯を貼り付け、その下には粘土帯に接するようにΣ状刺突列を施文した凸帯が貼り付けらている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
728	内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。頸部にはΣ状刺突列を施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
729	内彎する口縁部と「く」の字に屈曲する頸部には、それぞれ連続するΣ状刺突を加えた凸帯と、Ｃ字状刺突列を施文した低い粘土帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
730	「く」の字に屈曲する頸部にはヘラを使用したＣ字状刺突列を施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	B－19	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
731	「く」の字に屈曲する頸部にはヘラを使用したＣ字状刺突列を施文した低い粘土帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－3	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
732	「く」の字に屈曲する頸部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文が施文されているが、口縁部の縄文は一部がナデ消されている。	前期Ⅶ	T－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
733	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部には、連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	I－2 R－20	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
734	「く」の字に屈曲する頸部には半截竹管を使用した密なＣ字爪形文を施文した凸帯を貼り付けている。	体部外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	S－1	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（26）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
735	「く」の字に屈曲する頸部には半截竹管を使用した密なＣ字爪形文を施文した凸帯を貼り付けている。	体部外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－２	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
736	「く」の字に屈曲する頸部から外方に向かって大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	体部外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－18	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
737	Σ状刺突列が施文された「く」の字に屈曲する頸部から、外方に向かって大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	体部外面には条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
738	Ｃ字爪形文を施文した「く」の字に屈曲する頸部から外方に向かって大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｓ－１	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
739	大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯が水平方向に貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－18	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
740	「く」の字に屈曲する頸部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－１ Ｂ－１	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
741	体部外面には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を２条平行して貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｓ－20	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
742	大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平方向に貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－２	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩		
743	「く」の字に屈曲する頸部にはＣ字爪形文を施文した低い粘土帯がまわされ、大きく膨らむ体部に縦に貼り付けられた連続するΣ状刺突を加えた凸帯とつながっている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｓ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
744	「く」の字に屈曲する頸部から外方に向かって大きく膨らむ体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯によって直線と曲線を交えた幾何学文様が描かれている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石		
745	「く」の字に屈曲する頸部にはＣ字刺突列が施文され、大きく膨らむ体部に縦に貼り付けられた連続するΣ状刺突を加えた凸帯とつながっている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
746	緩やかに膨らむ体部と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。頸部の屈曲部にはＣ字爪形文が施文された帯状の粘土が薄く貼り付けられ、そこからΣ状刺突列が施文された凸帯が下方にのびている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－３	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
747	連続するＣ字刺突が加えられた凸帯を貼り付けて直線や弧線文が描かれている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/4 浅黄 内面：2.5Y 8/3 淡黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
748	体部には連続するＣ字刺突を加えた凸帯が水平方向に貼り付けられる。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	不明	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
749	「く」の字に屈曲する頸部と筒状の体部との境にはＣ字爪形文が施文された幅広の低い粘土帯が貼り付けられている。		前期Ⅶ	Ｔ－３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
750	「く」の字に屈曲する頸部と直立する筒状の体部の境には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付けている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
751	直立する筒状の体部には、「く」の字に屈曲する頸部との境に、連続するΣ状刺突を加えた凸帯を１条貼り付け、さらに１．５cmほど下にも同じような凸帯を貼り付けている。また下の凸帯からは貝殻背圧痕文を施文した凸帯が底部に向かって延びている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－18	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
752	筒状の体部と、緩やかに内彎する口縁部との境のわずかな括れ部に沿ってΣ状刺突列を施文した低い凸帯を貼り付けている。	口縁部と体部では方向が異なるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ａ－18	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
753	筒状の体部にはやや間隔をあけて連続するΣ状刺突を加えた並行する凸帯を２条貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	S-1	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（27）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
754	直立する体部には、連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平方向に貼り付けている。		前期Ⅶ	A－1	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
755	頸部との境近くの体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。		前期Ⅶ	T－2	外面：7.5YR 3/3 暗褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
756	直立する体部には、連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	B－6	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
757	体部外面には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	A－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
758	筒状の体部には２cmほどの間隔をあけて連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－2	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
759	直立する体部には、連続するΣ状刺突を加えた直交する２条の凸帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
760	外面には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
761			前期Ⅶ	T－2	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 4/6 褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
762	連続するΣ状刺突を加えた直線の凸帯をつないで幾何学文様を描いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	不明	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
763	体部にはＣ字爪形文を施文した直線状の凸帯をつないだ幾何学文様を描いている。		前期Ⅶ	T－2	外面：5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
764	体部にはＣ字爪形文を施文した環状の凸帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
765	筒状の体部は頸部との境近くに連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付け、それから別の凸帯が２条、ハの字状に開きながら下方に延びている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	S－4	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
766	筒状の体部は頸部との境近くに連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	体部外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
767	直立する体部は、連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅶ	A－5	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
768	体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－3	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
769	筒状の体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を間隔をあけて縦方向に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	S－4 S－5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
770	体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付けて曲線文様を描いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
771	体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付けた直線や曲線を組み合わせて幾何学文様を描いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
772	体部には連続するΣ状刺突を加えた凸帯を貼り付けた直線や曲線を組み合わせて幾何学文様を描いている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	T－1	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
773	外面には貝殻背圧痕文を連続して施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	A－1	外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（28）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
774	外面にはヘラによる刻み目を間隔をあけて施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
775	外面には貝殻背圧痕文を連続して施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｒ-20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
776	外面には貝殻背圧痕文を間隔をあけて施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
777	外面には貝殻背圧痕文を間隔をあけて施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅶ	Ｓ-１	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
778	直立する口縁は端部上面にヘラ先を押し引いて刻目を施している。	外面には０段多条と考えられる撚の方向の異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ	Ｂ-１	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	長石		
779	わずかに内彎する口縁は端部上面に棒状工具を押しつけたような刻目を施している。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ｓ-４	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石	不良	
780	直立する口縁は端部上面にヘラ先を押し引いて刻目を施している。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	長石		
781	直立する口縁は端部上面にヘラ先を押し引いた細かい刻目を施している。	外面には０段多条と考えられる条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ	Ｂ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
782	直立する口縁は内外面に指オサエによる凹凸が著しく残され、端部上面に縄文を施文している。	外面には０段多条と考えられる条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ａ-５	外面：5YR 5/2 灰褐 内面：5YR 5/2 灰褐	長石		
783	緩やかに内彎する口縁は端部上面にヘラ先を使った刻目を施している。	外面には０段多条と考えられる条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ｂ-１	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
784	わずかに外反する口縁は内外面に指オサエによる凹凸が著しく残され、端部上面にはヘラ先を押し引いて刻目を施している。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。		Ｓ-１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石	不良	
785	直立する口縁は端部上面に貝殻腹縁？で浅い刻み目が施されている。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ａ-１	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石	不良	
786	直立する口縁は端部上面が平坦に仕上げられている。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ｂ-１	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
787	わずかに内彎する口縁は端部上面にヘラ先で浅い刻目が施されている。	外面には付加縄文を施文している。	前期Ⅷａ	Ｂ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石	不良	
788	緩やかに内彎する口縁は端部上面にヘラ先で浅い刻目を施している。内面には粗いヘラミガキを施している。	外面には０段多条の可能性がある、条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ	不明	外面：5YR 6/2 灰褐 内面：5YR 4/1 褐灰	長石	不良	
789	直立する口縁は端部上面に半截竹管状工具を斜めに押し引いた刻目を施している。	外面にはＬＲ縄文を使って縄文の施文方向を変えて羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰			
790	上方に開く口縁は端部が内側に折り返され上面に縄文を施文している。	弧円端部上面と外面にはそれぞれ撚の方向が異なる縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英	不良	
791	緩やかに外反する口縁は端部上面に貝殻復縁、または竹管状工具を斜めに押し引いて刻目を施している。	外面には節の小さいＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石		
792	緩やかに外反する口縁は端部上面に貝殻復縁、または竹管状工具を斜めに押し引いて刻目を施している。	外面には節の小さいＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石		
793	内彎する口縁は端部上面に縄文とヘラ先を使った浅い刻目を施文している。	端部外面には幅１㎝ほどの無文帯が残され、その下には原体不明の縄文を使った羽状縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	不明	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（29）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
794	上方に開く直線的な口縁は、端部近くで上方に折り曲げられている。内面には指オサエの痕跡が残されている。	外面には撚の方向が異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。（結節縄文の可能性がある。）	前期Ⅷｂ	S－1	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
795	内面にはヘラミガキを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	S－20	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
796	内面にはヘラミガキを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英・長石		
797		外面には条の間隔が開いた浅いＬＲ縄文を浅く施文している。	前期Ⅷａ	T－2	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
798		外面には条の間隔が開いた撚の方向の異なる浅い縄文で羽状縄文を施文している。	前期Ⅷａ	R－19	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
799		外面には条の間隔が開いた浅いＲＬ縄文を浅く施文している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
800	外面には縄文の他に施文具不明の爪形文を施文している。	外面には条の間隔が開いた浅いＬＲ縄文を浅く施文している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
801		外面には０段多条の可能性がある、条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：2.5Y 4/1 黄灰 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・結晶片岩		
802	内面にはハケ状工具を使った横ナデが施されている。	外面には０段多条の可能性がある、条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷａ	R－19	外面：5YR 7/3 にぶい橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
803	内面には横方向の粗いヘラミガキを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	S－20 T－20	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
804	内面にはハケ状工具を使った横ナデを施している。	外面には０段多条の可能性があるＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	A－1	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
805	内面には横方向の粗いヘラミガキを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	T－1	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
806	内面には条痕またはハケ状工具を使った横ナデが施されている。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｃ	B－19	外面：5YR 8/2 灰白 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石	不良	
807	内面には条痕またはハケ状工具を使った横ナデを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｃ	R－20	外面：2.5Y 4/2 暗灰黄 内面：2.5Y 4/2 暗灰黄	長石		
808	内面にはハケ状工具を使った横ナデを施している。	外面には条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・結晶片岩		
809		外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ	S－1	外面：5YR 7/3 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
810		外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｃ	不明	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：5YR 6/3 にぶい橙	長石		
811	内面にはハケ状工具を使った横ナデを施している。	外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｃ	B－1	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石		
812	内面には指オサエの痕跡を条痕またはハケ状工具を使ってナデ消そうとしている。	外面には条の間隔が開いたＬＲ、ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｃ	S－1	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 4/1 黄灰	石英・長石	不良	
813	内面にはハケ状工具を使った横ナデを施している。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（30）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
814		外面には０段多条の可能性がある条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-３	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石		
815		撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｂ-５	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
816	わずかな括れ部を持った体部は内面の指頭圧痕をナデ消そうとしている。	撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石		
817	括れを持った体部内面には粘土帯の接合痕と指頭圧痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
818	体部内面には指頭圧痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･結晶片岩･チャート		
819	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕をナデ消そうとしている。	外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
820	頸部の括れ部から緩やかに外反する口縁部は内面の指頭圧痕をハケ状工具でナデ消そうとしている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英･結晶片岩		
821	内面の指頭圧痕を粗いヘラミガキを加えて消そうとしている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	側溝	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英･長石		
822		外面には条の間隔が開いたＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･結晶片岩･赤色斑粒		
823	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：2.5YR 5/8 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
824		外面は条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：2.5Y 4/1 黄灰	石英･長石		
825	内面は粘土帯の接合痕をナデ消そうとしている。	外面は撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 3/2 黒褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･雲母		
826	内面には指頭圧痕をナデ消した痕と条痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･赤色斑粒		
827	内面には指頭圧痕をナデ消した痕と条痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-４	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石		
828	体部内面には指頭圧痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
829	内面には板またはハケ状工具を横方向にナデている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
830	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石		
831		外面は条の間隔が開いた撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｓ-４ Ｔ-２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英･長石		
832	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕を板またはハケ状工具でナデ消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ａ-18	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･長石		
833	内彎する体部内面には指頭圧痕をナデ消した痕と条痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	Ｔ-２	外面：5YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（31）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
834	内面には指頭圧痕をナデ消した痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
835	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕をナデ消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	B－5	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
836	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕をナデ消した痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	T－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
837	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕をナデ消した痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	T－3	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・結晶片岩・チャート		
838	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	T－4	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・結晶片岩		
839	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
840	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	T－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
841	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕を条痕またはヘケ状工具でナデ消そうとしている。	ＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	B－5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
842		０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
843		０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	T－2	外面：10YR 3/2 黒褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
844	内面には指頭圧痕をナデ消した痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	A－18	外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石		
845	内面は指頭圧痕を板またはヘケ状工具でナデ消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・赤色斑粒		
846	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート		
847	内面は指頭により丁寧な横ナデ調整が施されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
848	内面の指頭圧痕を丁寧にナデ消している。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
849	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕を条痕またはヘケ状工具でナデ消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
850	内彎する体部内面には輪積痕と指頭圧痕が残されている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	T－1	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・チャート・結晶片岩		
851	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕を横ナデ調整でナデ消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	A－1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石		
852	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕を条痕またはヘケ状工具でナデ消そうとしている。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石		
853	内面は粘土帯の接合痕と指頭圧痕をナデ消そうとしているが充分消し切れていない。	ＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	T－1 A－1	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（32）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
854	「く」の字に内屈する底部近くの破片。内面は指頭圧痕を条痕？でナデ消そうとしている。	ＲＬ縄文を横方向に施文している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
855	「く」の字に内屈する底部近くの破片。内面は指頭圧痕を条痕？でナデ消そうとしている。	ＲＬ縄文を横方向に施文している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・チャート		
856	「く」の字に内屈する底部近くの破片。内面は接合痕を粗いヘラミガキで消そうとしている。	０段多条の可能性がある撚の方向の異なる縄文を横方向に交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	R－19	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
857	底部近くの破片。内面は接合痕をナデ調整で消そうとしている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ	S－4	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		
858	頸部の括れ部から内彎しながら上方に大きく開く口縁は、内面に幅の狭いヘラミガキ調整を施して平滑に仕上げている。	０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	R－19	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
859	内彎しながら上方に大きく開く口縁は、内面に幅の狭いヘラミガキ調整を施して平滑に仕上げている。	外面には条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	A－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
860	緩やかに内彎する上方への開きが大きい口縁と、強く「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。内面にはハケ状工具を使った横ナデ調整加えられ平滑に仕上げられている。	０段多条のＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ	T－20	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
861		無節のＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ?	不明	外面：5YR 5/3 にぶい赤褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
862	内面は横ナデ調整で平滑に仕上げられている。	条の間隔が大きく開く無節のＲＬ縄文を施文する。	前期Ⅷａ?	T－20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
863	内面の接合痕を横ナデでナデ消そうとしている。	無節のＲＬ縄文を施文している。	前期Ⅷａ?	T－20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石		
864		０段多条の可能性のある縄文で結節羽状縄文を施文している。	前期Ⅷｅ	B－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
865	内面は指頭により丁寧なナデ調整が加えられている。	結節部を持った羽状縄文を施文している。	前期Ⅷｅ	R－19	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英		
866		０段多条の可能性のある縄文で結節羽状縄文を施文している。	前期Ⅷｅ	T－2	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・結晶片岩		
867	内面の接合痕を横ナデでナデ消そうとしている。	結節部を持った羽状縄文を施文している。	前期Ⅷｅ	T－4	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・赤色斑粒		
868	内面は接合痕と指頭圧痕を条痕？でナデ消そうとしている。	条の間隔が開くＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ?	T－5	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
869	内面には接合痕と指頭圧痕が残されている。	条の間隔が開くＬＲ縄文を施文している。	前期Ⅷｂ?	S－4	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
870	内面は指頭圧痕がナデ消されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ?	S－4	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
871	内面は指頭圧痕がナデ消されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。縄末端の結束部が残されている。	前期Ⅷｂ?	B－1	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
872	内面には粘土帯の接合痕と指頭圧痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を交互に施文して羽状縄文を表出している。	前期Ⅷｂ?	T－4	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
873	底部との境の屈曲部近くには粘土帯の接合痕が残されている。	撚の方向の異なる縄文を横方向に施文して羽状縄文を表出している。縄の末端には結束部が残されている。	前期Ⅷｂ?	T－5	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（33）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
874	上げ底の底部と体部の境は外方に突出している。	外面はＬＲ縄文を施文している。		R-19	外面：10ＹＲ 6/2 灰黄褐色 内面：10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色	石英・長石		
875	底部はわずかに上げ底に仕上げられている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		T-2	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐色 内面：5YR5/6 明赤褐色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
876	平底の底部と緩やかに外反しながら外上方にのびる体部を持っている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		不明	外面：10ＹＲ 6/2 灰黄褐色 内面：7.5ＹＲ 6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
877	平底の底部と上方への開きが小さい体部を持っている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T-2	外面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
878	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面には０段多条の可能性があるＲＬ縄文を施文している。		T-2	外面：7.5ＹＲ 8/6 浅黄橙色 内面：7.5ＹＲ 8/6 浅黄橙色	石英・長石		
879	平底の底部と緩やかに外反する上方への開きが小さい体部を持っている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		S-4	外面：10ＹＲ 5/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
880	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		B-19	外面：10ＹＲ 5/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
881	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T-1	外面：7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色 内面：7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
882	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T-1	外面：10ＹＲ 5/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩		
883	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		T-2	外面：10ＹＲ 8/4 浅黄橙色 内面：10ＹＲ 8/4 浅黄橙色	石英・長石		
884	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T-1	外面：10ＹＲ 8/2 灰白色 内面：10ＹＲ 8/2 灰白色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
885	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		A-1	外面：10ＹＲ 8/2 灰白色 内面：10ＹＲ 6/2 灰黄褐色	石英・長石・結晶片岩		
886	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		S-20	外面：5ＹＲ 6/6 灰黄褐色 内面：5ＹＲ 6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
887	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		T-3 C-1	外面：5ＹＲ 6/6 橙色 内面：5ＹＲ 6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
888	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		B-19	外面：10ＹＲ 7/1 灰白色 内面：10ＹＲ 7/1 灰白色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
889	底部は体部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		不明	外面：10ＹＲ 8/4 浅黄橙色 内面：7.5ＹＲ 7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
890	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。体部には生爪痕が残されている。			T-2	外面：7.5ＹＲ 7/6 橙色 内面：7.5ＹＲ 7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩		
891	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。体部には生爪痕が残されている。			T-2	外面：10ＹＲ 7/4 浅黄橙色 内面：7.5ＹＲ 7/4 橙色	石英・長石・結晶片岩		
892	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		T-1	外面：7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色 内面：7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
893	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		S-20	外面：10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/2 灰黄褐色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（34）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
894	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		A－2 T－2	外面：10ＹＲ 8/3 浅黄橙色 内面：7.5ＹＲ 6/3 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
895	底部は底部との境を側面から押さえて７角形の多角底に仕上げている。	外面はＬＲ縄文を施文している。		T－2 S－4	外面：2.5ＹＲ 5/4 黄褐色 内面：2.5ＹＲ 5/4 黄褐色	石英・長石・結晶片岩		
896	平底の底部と上方に大きく開く体部を持っている。			T－3	外面：10ＹＲ 5/4 にぶい黄褐色 内面：10ＹＲ 5/4 にぶい黄褐色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
897	上げ底の底部と体部の境は外方に突出している。			S－4	外面：5ＹＲ 6/6 橙色 内面：5ＹＲ 6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
898	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		B－19	外面：10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 7/2 灰黄褐色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
899	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T－3	外面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色 内面：5ＹＲ 6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
900		外面はＲＬ縄文を施文している。		A－1	外面：5ＹＲ 6/4 にぶい橙色 内面：5ＹＲ 7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
901	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T－2	外面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色 内面：7.5ＹＲ 7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
902	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		S－4	外面：10ＹＲ 5/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
903	底部は底部との境を側面から押さえて多角底に仕上げている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T－1	外面：10ＹＲ 6/2 灰黄褐色 内面：10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩		
904	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		B－6	外面：5ＹＲ 7/6 橙色 内面：10ＹＲ 5/2 灰黄褐色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
905	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から刻目を施した凸帯を貼り付けている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		A－18	外面：10ＹＲ 7/1 灰白色 内面：10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
906	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面はＲＬ縄文を施文している。		T－2	外面：10ＹＲ 8/4 浅黄橙色 内面：2.5Ｙ 5/2 暗灰黄色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
907	頂部がくぼむ山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて内外方に拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＶ状刺突を加え、拡張部を方形に近い断面に仕上げている。口縁部外面は連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を貼り付けて曲線的な文様が描かれている。	口縁部外面と端部内面にそれぞれ節の中に繊維の痕跡が残るＲＬ縄文を施文するが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。。	中期Ｉａ	T－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石	良好	
908	二つ一組の山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＶ状刺突を加え拡張部を方形に近い断面に仕上げている。口縁部外面は端部から１～１．５cmほど下に連続するＣ字刺突を加えた凸帯が貼り付けられている。	口縁外面と端部内面にそれぞれ節の中に繊維の痕跡が残るＲＬ縄文を施文するが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。。	中期Ｉａ	A－1 A－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英	良好	
909	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側に時計回り、外側に反時計回りの方向の連続するＶ状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から２cmほど下に「く」字状刺突が施文された凸帯が口縁に並行するように貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面には節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	T－5	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（35）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
910	頂部がくぼむ山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面には「く」字状刺突列を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面と端部内面には節の中に繊維痕が残るＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・チャート	良好	
911	頂部が平坦な山形突起を持った波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は「く」字状刺突が施文された凸帯を貼り付けて曲線が描かれている。	口縁部外面と端部内面には長い節の中に繊維痕が残るＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は一部がナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
912	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器はいったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１；５cmほど下に「く」字状刺突を施文した凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。、	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	不明	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
913	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器はいったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１；５cmほど下に「く」字状刺突を施文した凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石		
914	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器はいったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するΣ状刺突を加え、拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に薄い粘土帯を貼り付けた上に、「く」字状刺突を２条施文している。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１ Ｔ-２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩	良好	
915	側面から穿孔が加えられた山形突起を付けた波状文の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を連続して加え断面方形に仕上げている。外面は端部から２cmほど下に口縁に並行するようにＣ字形爪形文を施文した凸帯を２条貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡が残る節の大きいＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
916	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字刺突を施文した低い凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は施文後端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２?	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
917	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字刺突を施文した低い凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・チャート		
918	側面に穿孔を加えた山形突起を持った波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＭ字状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」状刺突を施文した低い凸帯を１条、１cmほどの間隔をあけて口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（36）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
919	側面に未完通の穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するΣ状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突を施文した低い凸帯を２条口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩	不良	
920	緩やかな波状口縁は端部が平坦に仕上げられる。口縁部外面には断面三角形の低い貼り付け凸帯が付けられその上にＣ字の爪形が連続してつけられる。		中期Ｉａ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･チャート		
921	側面に穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩		
922	側面に穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は「く」字状刺突列を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長い節の中に繊維の痕跡がなく状の間隔がひらいたＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石		
923	側面に穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩		
924	側面に穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付け、口縁部内面から山形突起を通って垂下する凸帯とつなげられている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：2.5Y 7/4 浅黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石		
925	側面に穿孔を加えた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を２条、１cmほどの間隔をあけて口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石		
926	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字刺突文を施文した低い凸帯が口縁に並行して２条貼り付けられている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部付近を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･チャート	良好	
927	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を２条１cmほどの間隔をあけながら水平方向に貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれ長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部付近をわずかに残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英･長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（37）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
928	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：5YR 6/2 灰黄褐 内面：5YR 6/2 灰黄褐	石英		
929	緩やかな波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１；３cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡の残る長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・チャート		
930	緩やかな波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英・長石		
931	山形突起を持った波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を２条わずかな間隔をあけて水平に貼り付けている。	内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-４	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
932	緩やかな波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・チャート		
933	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くのわずかな範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石		
934	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-１ Ｔ-２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英		
935	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くのわずかなか範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
936	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．３cmほど下に「く」字状刺突列文を施文した低い凸帯を貼り付けている。	内外面とも節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くのわずかなか範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（38）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
937	低い山形突起を付けた波状口縁の土器。円く仕上げられた口縁端部は内側が時計回り、外側が反時計回りの方向のＣ字爪形文が残されている。緩やかに内彎する口縁は端部からやや離れた位置に低い帯状の凸帯が貼り付けられその上にＣ字形爪形文が施文されている。		中期Ｉａ	Ｔ-５	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英		
938	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁と並行して貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英		
939	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を２条口縁と並行して貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
940	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁と並行して貼り付けている。	内外面とも節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 4/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩		
941	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１～１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
942	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁と並行に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部直下を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｓ-20	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・長石		
943	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
944	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
945	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/3 にぶい橙	石英・長石		
946	内彎する口縁は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 7/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（39）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
947	内彎する口縁は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの幅を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英		
948	内彎する口縁は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付け、「く」の字に屈曲する頸部には幅１.２cm以上のＣ字形爪形文が施文された粘土帯が貼り付けられている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部直下を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
949	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡がない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
950	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行するように２条貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部直下を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・赤色斑粒		
951	内彎する口縁は平坦に仕上げられた端部から１cmほど下にＣ字形爪形文を施文した凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面と端部上面にはそれぞれ長大な節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどの幅を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
952	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に１cm程度の間隔をあけて「く」字状刺突文を施文した凸帯を２条口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
953	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に１cm程度の間隔をあけて「く」字状刺突列を施文した凸帯を、口縁に並行するように２条貼り付けている。	口縁部外面と端部内面にそれぞれ長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・チャート		
954	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下にＣ字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部外面及び端部内面にはそれぞれ長大な節のなかに繊維の痕跡が残るＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から５㎜ほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｓ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英	良好	
955	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡の残る大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
956	緩やかな波状口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下にＣ字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１.５cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（40）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
957	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ｉａ	S－1	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
958	緩やかな波状口縁を持った深鉢と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文はほとんどがナデ消されている。	中期Ｉａ	A－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
959	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下にＣ字状刺突列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも節の大きいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ｉａ	A－1	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
960	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を２条、１cmほどの間隔をあけて口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉａ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
961	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１．３cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	T－6	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英		
962	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも節の大きなＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	T－3	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
963	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にくΣ字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも節の大きなＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	B－6	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
964	緩やかな波状口縁を持った深鉢と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	T－2	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英		
965	緩やかな波状口縁を持った深鉢と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から２cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	A－1	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石		
966	緩やかな波状口縁を持った深鉢と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	A－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（41）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
967	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から５mmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英･結晶片岩		
968	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部は外面と内面の端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石		
969	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部は外面と内面の端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｂ-19	外面：2.5Y 7/1 灰白 内面：2.5Y 8/2 灰白	石英･長石･結晶片岩		
970	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石		
971	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･チャート		
972	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１.５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
973	低い山形突起を付けた口縁の可能性がある深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突列を施文した薄い粘土帯が口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面端部直下にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文はそのほとんどがナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･チャート		
974	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡のない長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英･長石･結晶片岩		
975	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも繊維の痕跡の残る長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･結晶片岩		
976	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	内外面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１～１.５cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	？	外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（42）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
977	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する∨状刺突を加えて拡張部を断面方形に仕上げている。口縁部外面は端部から１．５cmほど下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部外面と内面端部直下にそれぞれ長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英		
978	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回りの方向の連続する∨状刺突、外側は貝殻背圧痕文をそれぞれ施文している。口縁部外面は端部から１cm足らずの下にＣ字爪形文を施文した低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文はそのほとんどがナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石		
979	内彎する口縁は平坦に仕上げられた端部から１cmほど下にＣ字爪形文を施文した粘土帯を口縁に並行して貼り付けている。	口縁部内外面と端部上面にはそれぞれ長大な節のなかに繊維の痕跡が残るＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩		
980	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文が施文された凸帯を水平に貼り付けている。	外面には節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・チャート		
981	体部外面には「く」字状刺突文が施文された凸帯を水平に貼り付けている。	外面には縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
982	内彎する口縁は外面にＣ字爪形文が施文された低い凸帯を２条、１cmほどの間隔をあけて水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文が施文されているがほとんどナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
983	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・チャート		
984	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩		
985	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には繊維の痕跡が残る節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英･長石		
986	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文が施文されているがほとんどナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･雲母･チャート		
987	内彎する口縁は頸部近くに「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
988	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-５	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
989	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
990	外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けて曲線が描かれている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｓ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
991	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突列を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英･長石･結晶片岩		
992	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･結晶片岩･砂岩		
993	内彎する口縁は外面にＣ字状刺突列を施文した凸帯を貼り付けて曲線文様を描いている。	外面には節の大きな縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
994	内彎する口縁は外面に「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（43）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
995	内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部にはそれぞれＣ字爪形文を施文した凸帯を１条ずつ貼り付けている。	外面には節の大きな縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英		
996	「く」の字に屈曲する頸部にはそれぞれ「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｂ-19	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
997	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面にＣ字爪形文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英		
998	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面にＣ字爪形文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩		
999	膨らみが小さい体部は、「く」の字に屈曲する頸部に接するようにＣ字爪形文を施文する凸帯を２条水平に貼り付けている。	外面には節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
1000	体部は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くに「く」字刺突文を施文する凸帯を１条水平に貼り付けている。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｓ-20	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1001	膨らみが小さい体部は、「く」の字に屈曲する頸部に接するようにＣ字爪形文を施文する凸帯を２条水平に貼り付けている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート		
1002	体部は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くに「く」字刺突文を施文する凸帯を１条水平に貼り付けている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-２	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1003	体部は、「く」の字に屈曲する頸部に接するように「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1004	内彎する口縁と頸部には「く」字状刺突文を施文した凸帯を１条ずつ貼り付けている。	外面には長大な節の中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	？	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石		
1005	内彎する頸部と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、口縁部と頸部にそれぞれ「く」字状刺突列を施文した凸帯を１条ずつ貼り付けている。	外面には長大な節の中に繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-18	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1006	筒状の体部と、「く」の字に屈曲する頸部から内彎しながら外上方に大きく開く口縁部を持った深鉢形土器は、体部上半に「く」字状刺突文を施文した水平方向の凸帯を１cmほどの間隔をあけて２条貼り付けている。	体部には長い節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｓ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1007	体部は、大きく張った肩部にＣ字爪形文を施文した低い凸帯を水平に貼り付け、上部には弧線文を描き、下には直線を縦に垂下させている。	体部には長い節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	不明	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
1008	肩部に水平に貼り付けられたＣ字爪形文を施文した凸帯の上に、同じ特徴を持った凸帯で連弧文を描いている。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石		
1009	大きく膨らむ体部は「く」の字に屈曲する頸部との境近くに「く」字状刺突文を施文した凸帯を貼り付けて弧線文を描いている。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
1010	体部外面は地文の縄文の上にＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	体部には長い節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英		
1011	膨らみを持った体部は地文の縄文の上に「く」字刺突列を施文した凸帯を縦に貼り付けている。	体部には０段多条の可能性がある縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1012	膨らみを持った体部は地文の縄文の上に「く」字刺突文を施文した凸帯を縦に貼り付けている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・チャート		
1013	筒状の体部から弱く括れた頸部にかけては、Ｃ字爪形文を施文する凸帯を２条水平に貼り付け、その下には同じ凸帯で弧線文を描いている。	体部には長い節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1014	筒状の体部には「く」字状刺突文を施文した水平方向の凸帯を間隔をあけて２条、並行して貼り付けている。	縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（44）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1015	筒状の体部には「く」字状刺突文を施文した水平方向の凸帯を間隔をあけて３条、並行して貼り付けている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1016	筒状の体部と「く」の字に屈曲する頸部にはそれぞれ連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を１条ずつ貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1017	筒状の体部には連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を間隔をあけて水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-３	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：2.5Y 5/3 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1018	筒状の体部には連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を間隔をあけて水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡のない節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・雲母・チャート		
1019	直立する筒状の体部は、「く」の字に屈曲する頸部に接して、連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を水平方向に２条貼り付けられ、さらに下方にも１条のびている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1020	筒状の体部は頸部近くに「く」字状刺突文を施文した凸帯を２条貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-２	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1021	筒状の体部には「く」字状刺突文を施文した薄い粘土帯を水平方向に２条貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｓ-４	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1022	筒状の体部には「く」字状刺突文を施文した凸帯帯を水平方向に２条貼り付けている。		中期Ｉａ	不明	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英・長石・チャート		
1023	頸部の括れ部から体部にかけて連続する「く」字状刺突を加えた凸帯を２条水平に貼り付けている。	縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-１	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・チャート		
1024	膨らみが小さい体部にはＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を貼り付けて直線や環状などの文様が描かれている。	縦走する節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1025	体部には「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡が残る大きいい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英		
1026	体部には「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない大きいい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-３	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英		
1027	体部には「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面は縄文施文後、ナデ調整が加えられている。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英		
1028	筒状の体部にはＣ字爪形文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない大きいい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1029	体部には「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない大きい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
1030	外面には「く」字状刺突文を施文した凸帯を斜めに貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない大きい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1031	体部外面には「く」字状刺突列を施文した凸帯を水平に貼り付け、それと直交する同じような凸帯が下方にのびている。	外面には繊維の痕跡がない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1032	体部にはＣ字爪形文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・赤色斑粒		
1033	直立する体部には「く」字状刺突文を施文した薄い帯状の粘土帯が水平に貼り付けられている。	外面には繊維の痕跡がない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-20	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1034	直立する体部にはＣ字爪形文を施文した帯状の粘土帯が水平に貼り付けられている。	外面には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ａ-５	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（45）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1035	体部外面には「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付け、それと直交する同じような凸帯が下方にのびている。	外面には繊維の痕跡がない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英		
1036	地文の縄文の上にＣ字爪形文を施文した凸帯を縦に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡がない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	不明	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
1037	地文の縄文の上に「く」字状刺突文を施文した凸帯を水平に貼り付けている。	外面には繊維の痕跡が残る長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｓ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1038	筒状の体部にはＣ字爪形文を施文した環状の凸帯が貼り付けられている。	外面には繊維の痕跡がない長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉａ	Ｔ-４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		
1039	頂部が平坦な山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＣ字爪形文を加えている。外面は端部から１．５㎝ほど下にＣ字爪形文を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも節の中に繊維痕がない長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
1040	頂部が平坦で正面に円孔が穿たれた長楕円形の突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、突起の下にＣ字爪形文を施文した凸帯を２条貼り付けて曲線を描いている。	内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消され、境には稜が残されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1041	酒杯状突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向の連続するＣ字爪形文を施文し、口縁端部を円く仕上げている。外面は凸帯に接して薄い粘土帯を貼り付け波状のＣ字爪形文が２条施文されている。	内外面とも繊維痕がない長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1042	酒杯状突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を連続して施文し端部を円く仕上げている。凸帯の下には凸帯に接して１条、やや間隔をあけてもう１条幅１㎝から１．５㎝ほどのＣ字爪形文によって波状文が描かれている。	内外面とも長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1043	酒杯状突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部上面から外面にかけて帯状の粘土を薄く貼り付けて肥厚させ上面には反時計まわりの方向にＣ字爪形文を施文し、端部を円く仕上げている。外面の粘土帯上にはこの端部上面の爪形文列に接してさらに幅が広いＣ字爪形文を１条施文している。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：7.5YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1044	側面に未完通の穿孔が加えられた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付けて肥厚させ、次いで端部上面は時計回り、外側の凸帯には反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文し端部を円く仕上げている。外面には薄い帯状の粘土帯を２条、間隔をあけて貼り付けた上にＣ字爪形文を施文している。	内外面とも長大な節のＲＬ縄文が施文されているが、外面の縄文は粘土帯を貼り付ける際に加えられたナデによってナデ消され内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・チャート	不良	
1045	側面から未完通の穿孔を加えた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は凸帯に接するように施文されたＣ字爪形文が１条確認できる。	口縁部内面には節の長いＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ					
1046	側面から未完通の穿孔を加えた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から１㎝ほど下に口縁と並行するように帯状の粘土を薄く貼り付けた上に「く」字状刺突列を１条施文している。	口縁部内面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ-20	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
1047	側面に未完通の穿孔を加えた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から２㎝ほど下に口縁と並行するように帯状の粘土を薄く貼り付けた上にＣ字爪形文を１条施文している。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｒ-20	外面：2.5Y 8/3 淡黄 内面：2.5Y 8/3 淡黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（46）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1048	側面に未完通の穿孔を加えた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から２cmほど下に口縁に並行するようにＣ字爪形文が１条施文されている。	内外面とも非常に長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、外面の縄文はほとんどナデ消され、内面の縄文も端部近くを残すだけである。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1049	中央部に円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は口縁端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。外面には、突起中央部の円孔の下に幅１cmほどのＣ字爪形文が水平方向に残されている。	口縁部内面にはＲＬ縄文を施文している。。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩		
1050	一対の円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は口縁端部外面に低い凸帯を貼り付け、内側は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。外面には、円孔の下にＣ字爪形文が残されている。	口縁部内外面とも長い節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-18	外面：5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1051	中央部に円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、次いで端部上面に時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。	内外面とも節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1052	中央部に円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部上面に時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。		中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1053	中央部に円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付け、次いで端部上面は時計回り、外面は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。同じ爪形文は端部から２cmほど下に水平に貼り付けられた薄い粘土帯上にも施文される。	口縁部内外面とも長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英	不良	
1054	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付けた上に反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面には水平にＣ字爪形文を１条施文している。	口縁部内外面とも長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1055	平坦な口縁の深鉢形土器はいったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側が時計回り、頂部から外面の凸帯にかけては反時計回りの方向にＣ字爪形文を施文している。また端部から１cmほど下には同様の爪形文が施文された薄い粘土帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・赤色斑粒		
1056	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に凸帯を貼り付けて拡張し、次いで口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続する「く」字状刺突を加え断面方形に仕上げている。外面は端部から１cmほど下にＣ字爪形文列が施文された薄い粘土帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面とも節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・赤色斑粒		
1057	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英		
1058	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から１．５cmほど下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1059	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部の凸帯直下にＣ字爪形文を２条口縁に並行するように施文している。	口縁部内外面とも長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（47）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1060	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部は外面と内面の端部直下にそれぞれＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石		
1061	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部の凸帯直下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：2.5Y 3/1 黒褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石		
1062	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部の凸帯直下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･結晶片岩		
1063	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から１．５cmほど下にＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 6/1 褐灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･雲母		
1064	平坦な口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するよう貼り付けている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英		
1065	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部の凸帯から５㎜程度下にＣ字爪形文を２条、口縁に並行するように施文されている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：5YR 5/3 にぶい赤褐 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1066	山形突起を持った波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面にはＣ字爪形文で曲線が描かれている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/8 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1067	平坦な口縁の深鉢形土器は、端部内外面にそれぞれ凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文を口縁に並行するように施文している。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消さている。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1068	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、次に端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部の凸帯直下にＣ字爪形文が２条、口縁に並行するよに施文されている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消さている。	中期Ｉｂ	不明	外面：2.5Y 5/8 明赤褐 内面：2.5Y 5/8 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1069	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面にはＣ字爪形文列を施文した薄い粘土帯が２条、１cmほどの間隔をあけて水平に貼り付けられている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、外面の縄文はＣ字形爪形文の間、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
1070	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部から２cmほど下にＣ字爪形文列を施文した薄い粘土帯が１条貼り付けられている。	口縁部は内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消さている。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1071	平坦な口縁の深鉢形土器は端部外面に低い粘土帯を貼り付け端部上面には時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面は端部から２．５cmほど下に幅１．５cmのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するように貼り付けている。	内外面とも長大な節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（48）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1072	口縁は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。		中期Ｉｂ	Ｂ-６	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
1073	内彎する口縁は端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。また凸帯直下にも幅１．５㎝ほどの爪形文列が残されている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1074	内彎する口縁は端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面は凸帯の下に端部から２㎝ほど下に幅１．３㎝ほどの爪形文が１条残されている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 8/3 淡黄	石英・長石・結晶片岩		
1075	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は凸帯直下に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を１条施文している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1076	低い山形突起を付け緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に薄い粘土帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の粘土帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面は端部から２㎝ほど下に幅２㎝のＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ-４	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1077	内彎する口縁は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。また口縁部外面は端部から２㎝ほど下に幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が施文された低い凸帯が口縁に並行するように貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1078	口縁は端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部から２㎝ほど下に刺突列を１条施文している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	不明	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英		
1079	平坦な口縁は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。		中期Ｉｂ	T-2	外面：5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1080	口縁は端部外面に凸帯が貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部から２㎝ほど下に爪形文を１条施文している。	口縁部内面には長大な節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1081	山形突起を付けた波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は凸帯直下にＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	口縁部内面には繊維痕のない長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1082	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に凸帯が貼り付けられ、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は凸帯直下に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯が水平に貼り付けられている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1083	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯が貼り付けられ、端部上面は時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面は凸帯直下にＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1084	緩やかな波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部から０．５～１㎝ほど下に幅１㎝ほどのＣ字爪形文を１条施文した低い粘土帯を水平に貼り付けている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ-４	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/1 黄灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1085	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は凸帯直下にＣ字爪形文を２条口縁に並行するように施文している。	口縁部内面には節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
1086	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（49）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1087	円孔が穿たれた低い突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部外面に反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文し、その直下には幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文した低い粘土帯を水平に貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ					
1088	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に薄い粘土帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の粘土帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。	口縁部内面には節の大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-６	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 2/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1089	緩やかな波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部外面に凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部の凸帯直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条施文している。	口縁部内面には節の大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２ Ｔ-３	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・赤色斑粒		
1090	山形突起を付けた波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面はＣ字爪形文の下に細い結節沈線を２条水平方向に引き、さらにその下にはＣ字爪形文を施文した凸帯を環状に貼り付けたと思われる痕跡が残されている。	口縁部内外面には長い節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ-20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1091	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部上面に時計回り、外面は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部に施文された爪形文列の直下に、幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面には節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1092	内彎する口縁は端部から１cmほど下に口縁に並行して「く」字状の刺突列を施文した凸帯が１条貼り付けられ、さらにその下には曲線を描くように別の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内面には長大な節のＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1093	緩やかな波状口縁の深鉢と考えられる土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面はこの凸帯直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯が水平に貼り付けられている。	内面には節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1094	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部上面に時計回り、外面は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部に施文された爪形文列の直下に、幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ-１	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1095	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に薄い凸帯を貼り付け、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石		
1096	内彎する口縁は端部外面に薄い粘土帯を貼り付け、粘土帯上に反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内外面とも節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ-５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1097	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面に時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部の凸帯直下に、幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：10YR 7/1 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1098	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。口縁部外面は端部の凸帯直下に、幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条施文した粘土帯を口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1099	平坦な口縁を持った深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付け、端部上面に時計回り、外面の凸帯上には反時計回りの方向のＣ字爪形文を施文している。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1100	内彎する口縁は端部外面に凸帯が貼り付けられ、端部上面は時計回り、外面の凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面は端部の凸帯直下に幅１cmほどのＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	口縁端部内面に長大なＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1101	内彎する口縁は端部がにぶく尖らされ、外面には凸帯が貼り付けられ幅１cmほどのＣ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。また凸帯直下には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（50）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1102	円孔が穿たれた低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は口縁の端部上面がにぶく尖らされ、外面には凸帯が貼り付けられている。端部上面には時計回り、凸帯上は反時計回りの方向のＣ字爪形文がそれぞれ施文されている。口縁部外面は凸帯直下にＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内面には節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1103	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁部外面に幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した連弧状の薄い粘土帯を２条貼り付けている。	口縁部内外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ－20	外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 5/3 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1104	内彎する口縁は、Ｃ字形爪形文を施文した凸帯が環状に貼り付けられ、Ｃ字爪形文が施文された粘土帯とつなげられている。		中期Ｉｂ		外面：5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1105	内彎する口縁はにぶく尖らされた端部上面に貝殻背圧痕文が施文されて、端部外面には幅１．５cmを越えるＣ字爪形文を口縁に沿って施文している。口縁部外面には同じＣ字爪形文を施文した環状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1106	「く」の字に屈曲する頸部から内彎しながら外上方にのびる口縁部にはＣ字爪形文を施文した環状の凸帯の貼り付けと、Ｃ字爪形文が施文されている。	口縁部外面には長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－１	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1107	内彎する口縁部にはＣ字爪形文を施文した環状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－３	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1108	「く」の字に屈曲する頸部と、上方へ大きく開く内彎する口縁を持った深鉢形土器で、頸部外面にはＣ字爪形文、口縁部外面には環状の凸帯とＣ字爪形文がそれぞれ施文されている。	口縁部外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－18	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1109	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器で、頸部外面にはＣ字爪形文、口縁部外面には連続する刺突を加えた環状の凸帯とＣ字爪形文がそれぞれ施文されている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1110	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部近くの外面にＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1111	内彎する口縁は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くにＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。また同じような爪形文列は頸部にも施文されている。	外面には節の長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1112	内彎する口縁は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くにＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	外面には節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1113	内彎する口縁は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くにＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯を水平に貼り付けている。また同じような爪形文列は頸部にも施文されている。	外面には縦走する節の大きなＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ		外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石		
1114	内彎する口縁は、「く」の字に屈曲する頸部との境近くにＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯を水平に貼り付けている。また同じような爪形文列は頸部にも施文されている。	外面には縦走する節の大きなＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－３	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1115	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面にＣ字爪形文で緩やかな波状文を描き、頸部にはＩ状とＣ字爪形文が１条ずつ施文されている。	外面には縦走する節の大きなＲＬ縄文が施文されているが、大部分はナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1116	内彎する口縁部外面には、幅１．３cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－20	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1117	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面にＩ字状の刺突列を施文した薄い粘土帯を貼り付けている。頸部には口縁部と同じくＩ状刺突列が施文されている。		中期Ｉｂ	Ａ－1a	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1118	内彎する口縁部外面には、幅１．３cmほどのＣ字爪形文を施文した粘土帯が貼り付けられている。	外面には長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－20	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（51）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1119	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面から頸部にかけて幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が水平に３条施文されている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 4/6 褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1120	内彎する口縁は外面に上からＣ字爪形文が施文された低い凸帯を水平に貼り付けている。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1121	内彎する口縁は、「く」の字に強く屈曲する頸部との境に幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を貼り付けている。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－20	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1122	「く」の字に屈曲する頸部は、外面に粘土帯を貼り付け、幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ					
1123	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面のほか、頸部から体部にかけてもＣ字爪形文を２条施文している。	外面には節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1124	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、口縁部と頸部にそれぞれＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	縦走する長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｒ－19 Ｔ－20 Ｂ－19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1125	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎しながら外上方へ大きく開く口縁を持った深鉢形土器は、頸部にＣ字爪形文を施文している。	外面の縄文はナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｓ－20	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1126	内彎しながら外上方へ大きく開く口縁と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、「く」の字に屈曲する頸部から体部上半にかけて幅１，４㎜ほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を２条水平に貼り付けている。。	口縁部には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、部分的にナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1127	内彎しながら上方へ開く口縁と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけて、幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を貼り付けている。	口縁部外面は縄文がナデ消された可能性がある。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1128	内彎しながら上方へ開く口縁と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけて、幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を施文した粘土帯を水平に貼り付けている。	口縁部には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、部分的にナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1129	「く」の字に屈曲する頸部と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、頸部との境にＣ字爪形文を水平に２条施文した粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1130	「く」の字に屈曲する頸部と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、頸部近くの口縁と、頸部から体部にかけて幅１．３㎝ほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	外面は縄文がナデ消された可能性がある。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1131	大きく膨らむ体部は、「く」の字に屈曲する頸部に接して幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された、薄い粘土帯が貼り付けられ、さらにその下には別の爪形文列が下方に向かってのびている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－３	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：2.5Y 5/6 明赤褐	石英・赤色斑粒		
1132	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて、幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられている。同じような爪形文列は口縁部にも施文されている。	口縁部には長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1133	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて、幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が施文された粘土帯が貼り付けられている。	口縁部外面はＲＬ縄文を施文後、ナデ調整が加えられる。	中期Ｉｂ	Ａ－18	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1134	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけては、幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられてい。		中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
1135	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけては、幅１㎝ほどのＣ字爪文が水平に２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられてい。	節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－20	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1136	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１．５㎝ほどのＣ字爪文が水平に２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられている。	節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（52）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1137	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１cmほどのＣ字爪形文が施文された粘土帯を水平に貼り付け、その下には同じ特徴を持つ粘土帯によって曲線が描かれている。	縦走する長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1138	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
1139	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。		中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1140	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１．２cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1141	「く」の字に屈曲する頸部から大きく膨らむ体部にかけて幅１．２cmほどのＣ字爪形文が１条ずつ施文された粘土帯がわずかな間隔をあけて２条貼り付けられている。	頸部外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ-１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1142	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．２cmほどのＣ字爪形文が水平に施文された粘土帯が貼り付けられている。	頸部外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1143	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１cmほどのＣ字爪形文が施文された粘土帯を水平に貼り付けている。	大きな節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1144	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	縦走する長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1145	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文され、さらに下方にも施文されている。	ＲＬ縄文か？	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1146	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平に２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられている。下方には同じようなＣ字爪形文で曲線が描かれている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
1147	「く」の字に屈曲する頸部から膨らみが小さい筒状の体部にかけては幅１．２cmほどのＣ字爪形文を１条水平に施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	節の中に繊維痕のない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-３	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1148	「く」の字に屈曲する頸部には、幅１．２cmほどのＣ字爪形文を１条施文した粘土帯が貼り付けられている。	長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩		
1149	体部は「く」の字に屈曲する頸部との境に薄い帯状の粘土を貼り付け、幅１．４cmほどのＣ字形爪形文を並行して２条施文している。	長い節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ		外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・結晶片岩		
1150	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．２cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。下方には同じような粘土帯が縦に貼り付けられ、貝殻背圧痕文が施文されている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1151	「く」の字に屈曲する頸部から、大きく膨らむ体部にかけて幅１．３cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられ、その下には二枚貝の背面を使用した条線が縦に施文されている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1152	「く」の字に屈曲する頸部から、大きく膨らむ体部にかけて、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、水平に施文されている。		中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1153	「く」の字に屈曲する頸部から、大きく膨らむ体部にかけて幅１．２cmほどのＣ字爪形文が２条、水平に施文されている。		中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1154	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1155	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．３cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。下方には同じような粘土帯が縦に貼り付けられ、貝殻背圧痕文が施文されている。	縦走する長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（53）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1156	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文が２条、水平に施文されている。		中期Ｉｂ	Ａ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1157	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｂ－19	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1158	「く」の字に屈曲する頸部には上から二枚貝の背面を使用した短条線が施文された薄い帯状の粘土を貼り付け、体部にはＣ字爪形文が施文されている。	長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1159	頸部との境に近い体部には幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を２条、水平に貼り付け、その下には同じＣ字爪形文で曲線が描かれている。		中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：10YR 7/1 灰白 内面：7.5YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
1160	体部にはＣ字爪形文を施文した低い凸帯の貼り付けによって曲線が描かれている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1161	体部にはＣ字爪形文を施文した低い凸帯の貼り付けによって曲線が描かれている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1162	頸部との境に近い体部には上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条、水平に施文した薄い粘土帯を貼り付け、その下には同じようにＣ字爪形文を施文した粘土帯で環状の文様が描かれている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1163	体部には上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を施文した粘土帯を水平方向と垂直方向に交差するように貼り付けている。	ＲＬ縄文か？	中期Ｉｂ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1164	頸部から体部にかけてはＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯を２条、５㎜ほどの間隔で水平に貼り付け、その下には同じように爪形文が施文された粘土帯が下方にのびている。	長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1165	頸部との境に近い体部には、上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯を貼り付け、その下に同じような爪形文列を縦に施文している。	節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1166	頸部との境に近い体部には、上から幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯を貼り付けている。		中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1167	体部に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文している。		中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：2.5YR 5/8 明赤褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1168	体部に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文している。	ＲＬ縄文か？	中期Ｉｂ	Ａ－５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・角閃石		
1169	体部に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文している。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔv2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1170	体部に幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を水平方向に２条施文し、その下には貝殻背圧痕文が縦に施文されている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1171	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯が貼り付けられている。	繊維の痕跡がない節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1172	体部は頸部との境近くに、上から幅１．８㎝ほどのＣ字爪形文を水平に２条施文した薄い粘土帯を貼り付けている。		中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1173	体部は頸部との境近くに、幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を１条水平に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ－２ Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1174	体部には幅１㎝ほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を１条水平に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ－１	外面：5YR 6/8 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1175	体部には上から幅１．３㎝ほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（54）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1176	体部には上から幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1177	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、上から幅１．２cmほどのＣ字爪形文を１条ずつ施文した凸帯が、間隔をあけて２条水平に貼り付けられている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石		
1178	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては上から幅１cmほどのＣ字爪形文を１条ずつ施文した低い凸帯がわずかな間隔をあけて２条水平に貼り付けられている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｒ-20	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1179	体部には、上から幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を水平に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1180	体部には、２cmほどの間隔をあけて、上からＣ字爪形文を施文した低い凸帯を、水平に貼り付けている。	長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1181	体部には、１．５cmほどの間隔をあけて、上から連続するＣ字爪形文を施文した低い凸帯を、水平に貼り付けている。	大きな節のなかに繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：7.5YR 5/8 明褐 内面：7.5YR 5/8 明褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1182	体部には、上から幅１．５cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1183	体部には、幅１．３cmほどのＣ字爪形文を２条施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1184	筒状の体部には上から幅１．３cmほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯を２条、１cmほどの間隔をあけて水平に貼り付けている。	長大な節のなかに繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1185	体部には、幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が１cmほどの間隔をあけて水平に貼り付けられている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・赤色斑粒		
1186	体部には幅１cmほどのＣ字爪形文が１条、水平に施文されている。	長大な節のなかに繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｓ-１	外面：5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
1187	体部には幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯を水平に貼り付けている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1188	体部には、幅１．３cmほどのＣ字爪形文が２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1189	頸部から体部にかけては幅１．４cmほどのＣ字爪形文が３条施文されている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：10YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1190	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文された薄い粘土帯が貼り付けられている。		中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1191	体部には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平２条に施文されている。	細かい節のなかに繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-20	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・赤色斑粒		
1192	体部には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が１条、水平に施文されている。	細長い節のなかに繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-１ Ｔ-１ Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1193	体部には幅１．５cmほどのＣ字形爪形文が１条、水平に施文されている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1194	体部のわずかな括れ部には地文の縄文の上に貝殻を使用した縦方向の条線が連続して施文されている。	長大な節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1195	体部にはＣ字爪形文を施文した低い凸帯が水平に貼り付けられ、その下には貝殻を使用した縦方向の条線が連続して施文されている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（55）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1196	体部には薄い粘土帯を水平に貼り付けた上から、貝殻による縦方向の条線が連続して施文されている。	大きい節のなかに繊維の痕跡が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-３	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1197	体部には幅１cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文し、その下には長い貝殻条線を縦に引いている。	長い節の中に繊維痕のない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1198	地文の縄文の上に直接Ｃ字形爪形文を縦方向に施文する。		中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1199	体部には幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した低い凸帯が縦に貼り付けられている。	長大な節のなかに繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-４	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1200	体部には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が１条、縦に施文されている。	長い節のなかに繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-20	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1201	体部には幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が縦に貼り付けられている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1202	体部には幅１．５cmほどのＣ字爪形文をつないで幾何学文様が描かれている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｒ-20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1203	体部には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が、縦に３条施文されている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1204	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-２	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1205	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1206	体部には地文の縄文の上にヘラ先で長さ１cmほどの斜め方向の刻み目を施した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａ-１	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1207	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を施文した幅の狭い断面三角形の粘土帯を縦方向に貼り付けている。	ＲＬ縄文を縦方向に施文している。	中期Ｉｂ	Ｂ-19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩		
1208	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ａv1	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1209	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1210	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1211	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した凸帯を縦に貼り付けている。	長大な節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1212	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1213	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｒ-20	外面：5YR 6/8 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1214	地文の縄文の上に貝殻背圧痕文を連続して施文した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-２	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1215	地文の縄文の上に、Ｃ字爪形文を施文した環状の粘土帯と、貝殻背圧痕文を連続して施文する縦方向の粘土帯を貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	Ｔ-１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（56）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1216	地文の縄文の上に、Ｃ字爪形文を施文した環状の粘土帯と、貝殻背圧痕文を連続して施文した縦方向の粘土帯を貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	S-20 R-20 T-2	外面：5YR 6/8 橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1217	地文の縄文の上に貝殻を使用した長い条線が縦方向に引かれている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-1	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：5YR 4/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩		
1218	地文の縄文の上に貝殻を使用した条線が縦方向に引かれている。	大きい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	B-19	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒		
1219	地文の縄文の上に水平に薄い粘土帯を貼り付け、上から貝殻を使用した長い条線を縦に引いている。	大きい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-1	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 3/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1220	地文の縄文の上に貝殻を使用した条線が縦に引かれている。	長大な節の中に繊維痕が残る縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-3	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1221	体部には地文の縄文の上にヘラ先で長さ１cmほどの斜め方向の刻目を施した薄い粘土帯を縦に貼り付けている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1222	地文の縄文の上に貝殻を使用した条線が縦に引かれている。	長大な節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1223	地文の縄文の上に貝殻を使用した条線が縦に引かれている。	大きい節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｂ	T-2	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1224	内彎する口縁は端部が円く仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	S-20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・チャート		
1225	強く内彎する口縁は端部が円く仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-20	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1226	強く内彎する口縁は端部が円く仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：10YR 6/8 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1227	内彎する口縁は端部が円く仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1228	頸部の括れが弱く、上方への開きが小さい内彎する口縁を持った深鉢形土器。口縁端部は円く仕上げられている。	内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	B-19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1229	強く内彎する口縁は端部が円く仕上げられている。	口縁部内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-2	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1230	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1231	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	B-19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1232	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1233	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	S-20	外面：5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（57）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1234	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	?	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1235	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-20	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1236	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	A-18	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1237	強く内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面ともＲＬ縄文が施文されているが、外面は口縁端部付近の縄文がナデ消され、内面は逆に端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	S-4	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩		
1238	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･赤色斑粒		
1239	括れが小さい頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器で口縁端部上面は平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	B-19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1240	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	A-6	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1241	緩やかに内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられている。	口縁部内外面、および端部とも節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-5	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1242	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、外面にはＣ字爪形文が施文されている。	口縁部内外面、および端部上面とも節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：5YR 6/6 橙	石英		
1243	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する短い口縁部を持った深鉢形土器で、端部上面は平坦に仕上げられ、外面と頸部の屈曲部にはそれぞれＣ字爪形文が施文されている。頸部の屈曲の度合いは他の土器と比較して小さい。	口縁部内外面、端部上面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/8 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1244	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、外面には幅１cmほどのＣ字爪形文を２条施文している。	口縁部内外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	B-5	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英		
1245	内彎する口縁は外面にＣ字爪形文が２条施文されている。		中期Ｉｃ	S-1	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩		
1246	内彎する口縁は、端部上面が平坦に仕上げられ、外面にはヘラ先による粗い刻目が加えられた環状の粘土帯が貼り付けられている。	口縁部内外面、端部上面とも節の長いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	S-4	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1247	内彎する口縁は、いったん内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで上から貝殻背圧痕を施文し、細かく波打つように仕上げている。	口縁部内外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉｃ	A-1	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1248	内彎する口縁は、いったん内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで上から貝殻背圧痕を施文し、細かく波打つように仕上げている。		中期Ｉｃ	T-2	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		断面２個あり
1249	内彎する口縁は、いったん内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次いで上から貝殻背圧痕を施文し、細かく波打つように仕上げている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面は口縁端部から１cmほどの範囲を残して縄文がナデ消され稜が残されている。	中期Ｉｃ	T-1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･結晶片岩		
1250	大きく内彎する口縁部を持った深鉢形土器。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、頸部近くには横ナデが加えられている。	中期Ｉｃ	B-19	外面：5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英･長石･赤色斑粒		
1251	「く」の字に屈曲する頸部と大きく内彎する口縁部を持った深鉢形土器。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、頸部の縄文は横ナデによってナデ消されている。	中期Ｉｃ	T-20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（58）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1252	「く」の字に屈曲する頸部と大きく内彎する口縁部を持った深鉢形土器。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、頸部の縄文は横ナデによってナデ消されている。	中期Ｉｃ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1253	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器。	外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、頸部付近の縄文は横ナデによってナデ消されている。	中期Ｉｃ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1254	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器で、体部の膨らみは小さい。	外面には縦走する節の大きなＲＬ縄文が施されているが、口縁部の縄文は部分的にナデ消されたようになっている。	中期Ｉｃ	Ａ－18	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1255	「く」の字に屈曲する頸部にはＣ字爪形文が１条施文されている。	外面には長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ｉｃ	Ａ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1256	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＶ字状の刺突を加えている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付け、その下にはＣ字爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて並行するように貼り付けている。同様の凸帯は「く」の字に屈曲する頸部にも貼り付けられている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・結晶片岩		
1257	平坦な口縁を持った深鉢形と考えられる土器は、いったん口縁部内外面に縄文を施文したあと、端部上面に粘土を貼り付けて拡張し、次に口縁に沿って内側は時計回り、外側は反時計回りの方向の連続するＶ字状の刺突を加えている。口縁部外面は端部直下に「く」字状刺突文を施文した低い凸帯を水平に貼り付け、その下にはＣ字爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて並行するように貼り付けている。同様の凸帯は「く」の字に屈曲する頸部にも２条貼り付けられ、その下には短条線が縦に施文されている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉａ	Ｔ－２ Ｓ－１	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・結晶片岩・チャート		
1258	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付けたうえで、口縁に沿って内側は時計回り、外側の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面には幅１．５cmほどのＣ字爪形文を上から施文した低い凸帯が間隔をあけながら水平に２条施文されている。膨らみを持った体部は、「く」の字に屈曲する頸部付近に口縁と同じ爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて２条貼り付け、その下には貝殻背圧痕文を施文した縦方向の凸帯が底部に向かって縦に貼り付けられている。	内外面とも長大な節を持ったＲＬ縄文が縦に施文されているが、口縁部外面の縄文は爪形文列に沿ってナデ消され、内面の縄文も口縁端部から１;２cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ－１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐			
1259	頂部が平坦な台形状の突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付けたうえで、口縁に沿って内側は時計回り、外側の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面には幅１．５cmほどのＣ字爪形文を上から施文した低い凸帯が２条施文されている。大きく膨らんだ体部は、「く」の字に屈曲する頸部付近に口縁と同じ爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて２条貼り付け、その下には同じ爪形文を上から施文した縦方向の凸帯が底部に向かって縦に貼り付けられている。	内外面とも大きな節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 5/6 明褐			
1260	内彎する口縁は、端部上面に粘土帯を貼り付けて拡張し、内側は時計回り、外側は反時計回りの方向にＣ字爪形文を施文して断面方形に仕上げられている。また口縁部外面は端部から１cmほど下にはＣ字爪形文が施文された低い凸帯が２条口縁に並行するように貼り付けられている。膨らみが小さい体部は「く」の字に屈曲する頸部に沿って口縁部と同じ爪形文が施文された凸帯が２条貼り付けられている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１．２cmほどを残してナデ消されている。	中期 Ｉａ？ Ｉｂ？	Ｔ－２	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙			
1261	波状口縁の深鉢形土器は、端部外面に低い凸帯を貼り付けたうえで、口縁に沿って内側は時計回り、外側の凸帯上は反時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。口縁部外面には幅１．２cmほどのＣ字爪形文を上から施文した低い凸帯が間隔をあけながら水平に２条施文されている。膨らみを持った体部は、「く」の字に屈曲する頸部付近に口縁と同じ爪形文を施文した凸帯を間隔をあけて２条貼り付け、その下には貝殻背圧痕文を施文した縦方向の凸帯とＣ字爪形文を施文した低い凸帯を貼り付けて連弧文と環状文が描かれている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１.cmほどを残してナデ消されている。	中期Ｉｂ	Ａ－１ Ｔ－１ Ｔ－２ Ｔ－３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙			

第５表　包含層出土遺物観察表（59）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1262	「く」の字に屈曲する頸部と、端部が円く仕上げられた内彎する口縁部を持つ深鉢形土器。	内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅰ	S-20 T-20	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1263	「く」の字に屈曲する頸部と、端部が平坦に仕上げられた内彎する口縁部を持つ深鉢形土器。	内外面、端部上面とも長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅰ	T-2	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･チャート		
1264	「く」の字に屈曲する頸部と、端部がにぶく尖らされた内彎する口縁部を持つ深鉢形土器。頸部の屈曲の度合いは他の土器と比較して弱い。	内外面、端部上面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅰ	A-6	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石		
1265	「く」の字に屈曲する頸部と、端部がにぶく尖らされた内彎する口縁部を持つ深鉢形土器。頸部の屈曲部には貝殻を使った短条線が施文されている。	内外面、端部上面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅰ	A-1 T-2	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1266	「く」の字に屈曲する頸部と、上方に大きく開く直線的で短い口縁部を持った平縁の深鉢型土器。口縁端部は平坦に仕上げられ縄文が施文されている。	口縁部内外面及び端部上面にはそれぞれ節が大きいＲＬ縄文を施文しているが、端部内面の縄文はわずかな範囲を残してナデ消されている。		A-1 T-1 T-2	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1267	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	不明	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1268	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。		中期Ⅰ	A-2	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1269	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻を使用した条線を施した凸帯を貼り付けている。	外面には縦走する節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	T-2	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐色 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐色	石英･長石･結晶片岩･		
1270	底部は五角形の多角底に仕上げている。	外面には縦走する節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	A-1	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1271	底部は多角底に仕上げている。	外面には端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	A-3	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1272	底部は五角形の多角底に仕上げている。		中期Ⅰ	T-20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙色 内面：10YR 7/2 にぶい 黄橙色	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1273	底部は五角形の多角底か？	外面には縦走する節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	R-20	外面：5YR 6/6 橙色 内面：5YR 6/6 橙色	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1274	底部は四角形の多角底か？	外面にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅰ	B-19	外面：10YR 8/3 浅黄橙色 内面：10YR 8/3 浅黄橙色	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1275	底部は多角底に仕上げている。		中期Ⅰ	T-2	外面：5YR 8/4 淡橙色 内面：7.5YR 8/4 浅黄橙色	石英･長石･結晶片岩･		
1276	底部は多角底に仕上げている。	外面には縦走する節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	T-2	外面：10YR 6/2 灰黄褐色 内面：10YR 6/3 にぶい 黄橙色	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1277	底部は多角底に仕上げられ、体部から多角形の頂部に向かって、上から貝殻背圧痕文を施文した凸帯を貼り付けている。	外面には縦走する節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅰ	T-2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1278	酒杯状突起が付けられた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先による連続する刺突が加えられているが、刺突の方向は一定していない。外面には幅１．４cmほどのＣ字爪形文が２条口縁に沿って施文されている。	内面は長い節のＲＬ縄文を施文しているが口縁端部付近を残して丁寧にナデ消されている。	中期Ⅱａ	A-1 T-1	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1279	酒杯状突起が付けられた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面にＣ字爪形文によって連続する刺突が加えられている。外面は幅１．７cmほどのＣ字爪形文が口縁に沿って施文されている。	口縁部内外面には長い節の中に繊維痕がないＲＬ縄文を施文しているが内面の縄文は口縁端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	S-20	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（60）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1280	酒杯状突起が付けられた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部外面に低い凸帯が貼り付けられ、上から反時計まわりの方向のＣ字爪形文列が施文されている。外面はＩ字状の刺突列が口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面には細かい節のＲＬ縄が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：5YR 4/6 赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1281	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は端部上面が平坦に仕上げられ、時計回りの方向にＣ字爪形文が付けられている。外面は口縁に並行してＣ字爪形文が２条、器面に直接施文されている。	口縁端部内面には長い節のＲＬ縄を施文している。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート	不良	
1282	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、内彎する口縁の端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先を使用した時計回りの方向の刺突を連続して加えている。外面は口縁に並行するように幅１．５cmほどのＣ字爪形文を２条わずかな間隔をあけて器面に直接施文している。「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけても、同様の爪形文列が２条施文されている。	外面は無文だが縄文施文後にナデ消された可能性がある。口縁端部内面には長い節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
1283	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられヘラ先による時計回りの方向の刺突が連続して加えられている。外面は幅１cmほどのＣ字爪形文を２条、口縁に並行するように器面に直接施文されている。	内面には長い節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－18	外面：10YR 6/1 褐灰 内面：10YR 6/1 褐灰	石英		
1284	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられ、時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。外面は幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が口縁に沿って貼り付けられているが、さらにその下にも別のＣ字爪形文が１条、水平に施文されている。	口縁端部内面には無節のＲＬ縄文が施文されているが、端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1285	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、突起の頂部が縦に深く切り込まれている。口縁端部上面は平坦に近くヘラによる反時計方向の刻み目を連続して加えている。外面は幅１．８cmほどのＣ字爪形文が２条口縁に並行するように施文されている。	口縁部外面はいったん縄文を施文したあと丁寧にナデ消された可能性がある。口縁端部内面には細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－１ Ｂ－19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1286	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、突起の頂部が縦に深く切り込まれている。口縁端部上面は平坦に近くヘラ先を使った反時計方向の刻み目が連続して加えられている。外面は幅１．８cmほどのＣ字爪形文が２条口縁に並行するように施文されている。	口縁部外面はいったん縄文を施文したあと丁寧にナデ消された可能性がある。口縁端部内面には細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1287	山形突起を付けた波状口縁と考えられる深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられ、時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。外面は幅１cmほどのＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が口縁に沿って貼り付けられているが、さらにその下にも別のＣ字爪形文が１条水平に施文されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文を施文しているが内面の縄文は口縁端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1288	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、時計回りの方向の連続する刺突がヘラ先により加えられている。口縁部外面にはＣ字爪形文が３条施文されているが、そのうち最も口縁端部に近いものは他の爪形より幅が約半分ほどしかない。		中期Ⅱａ	Ｓ－４	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1289	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は幅１．７cmほどのＣ字爪形文が２条口縁に並行するように器面に直接施文されている。	口縁端部内面には節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・赤色斑粒		
1290	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられヘラ先による時計回りの方向の刺突が連続して加えられている。外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように器面に直接施文されている。	口縁端部内面には細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩		
1291	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面をにぶく尖らせ、ヘラ先による刻み目が施されている。外面には幅１．３cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面には節の小さなＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩		
1292	山形突起を持った波状口縁の深鉢形と考えられる土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先による連続する時計回りの方向の刺突が加えられている。外面は幅１cmと１．５cmほどのＣ字爪形文が１条ずつ口縁に沿って施文されている。	口縁端部内面には節の小さなＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：7.5YR 5/1 褐灰 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1293	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられＣ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文列が口縁に並行して２条器面に直接施文されている。	口縁端部内面は節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部付近を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（61）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1294	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形と考えられる土器は口縁端部上面にヘラ先による時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は幅１cmほどのＣ字爪形文が水平に２条、器面に直接施文され、その下にはＣ字爪形文が施文された環状の凸帯が貼り付けられている。	口縁端部内面には細長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ-２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1295	内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされ時計回りの方向に短いＣ字爪形文が施文されている。外面は端部直下に低い凸帯を貼り付け、Ｃ字爪形文を施文している。その下にも同じようなＣ字爪形文が２条器面に直接施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文後、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ-１	外面：10YR 5/8 黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1296	内彎する口縁は端部上面に時計回りの方向の爪形文列が施文されている。外面は端部直下に幅の異なるＣ字爪形文を２条、口縁に並行するように器面に直接施文している。	口縁部内外面には細かい節を持った縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ-３	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1297	内彎する口縁は端部上面に時計回りの方向の爪形文列が施文されている。外面は端部直下に貝殻背圧痕文を施文しさらに口縁に並行して幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条施文している。	口縁部外面は縄文施文後ナデ調整が加えられ、内面はＲＬ縄文施文後、端部近く残して縄文をナデ消している。	中期Ⅱａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 3/1 黒褐	石英・長石		
1298	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、ヘラ先で刻み目が施されている。外面は端部から１cm足らずのところに幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1299	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられている。外面は端部直下に貝殻背圧痕文が施文され、さらにその下にはＣ字爪形文が１条残されている。	口縁端部内面には細かい節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｓ-４	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1300	内彎する口縁は端部が円く仕上げられ、外面には幅１．３cmと１．８cmほどのＣ字爪形文が１条ずつ口縁に並行して施文されている。	口縁端部内面には細かい節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ-３	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・結晶片岩		
1301	内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされ、時計回りの方向に短いＣ字爪形文を１条施文している。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字形爪形文が２条口縁に並行して施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文施文後、非常に丁寧な横ナデによって端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ-１ Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1302	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が施文されている。外面は口縁端部から１cm足らずのところに幅１．５cmほどＣ字爪形文が２条器面に直接施文されている。	口縁端部内面には細長い節の中に繊維の痕跡のないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ-１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・赤色斑粒		
1303	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面が円く仕上げられ短いＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。口縁部外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	内面は細かい節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ-４	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1304	緩やかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で刻み目が加えられ、外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ-１	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
1305	緩やかに内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされる。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を２条施文した、薄い粘土帯が貼り付けられている。	口縁部内面には長い節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ-19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1306	内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされ、Ｃ字爪形文を時計回りの方向に連続して施文している。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が施文された薄い粘土帯が口縁に並行して貼り付けられている。	口縁端部内面には細長い節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ-６	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1307	緩やかな波状口縁と考えられる深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられヘラ先で時計回りの方向に連続する刺突を加えている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に沿って貼り付け、その下には１．５cmを越えるＣ字形爪形文を１条、器面に直接施文している。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・チャート		
1308	緩やかに内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、刻み目が加えられている。外面は端部直下にＣ字爪形文が３条施文されている。		中期Ⅱａ	不明	外面：2.5Y 4/1 黄灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英		
1309	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部直下のわずかな範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ-20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（62）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1310	口縁端部は平坦に仕上げられヘラ先で時計回りの方向の連続刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．３cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部直下のわずかな範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	S－4 T－1	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・赤色斑粒		
1311	緩やかに内彎する口縁は、端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で反時計回りの方向に連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して２条施文され、その下は頸部まで無文のまま残されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部直下のわずかな範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱａ	A－1 T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1312	口縁は端部上面がにぶく尖らされ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．２cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面は長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	T－1	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1313	緩やに内彎する口縁は、端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯が口縁に沿って貼り付けられ、その下には１．２cmほどのＣ字爪形文が１条、器面に直接施文されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	B－19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1314	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で刻み目が加えられている。外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	B－6	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1315	緩やかに内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、短いＣ字爪形文を時計回りの方向に施文している。外面は端部直下に幅１cmと２cmほどのＣ字爪形文が１条ずつ口縁に並行するように施文されている	口縁部内外面とも長い節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－1	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1316	「く」の字に屈曲する頸部と、大きく内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文を反時計回りの方向に連続して施文している。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁部内外面には端正な撚の縦走するＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－2	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1317	緩やかに内彎する口縁は端部上面にＣ字爪形文を時計回りの方向に連続して施文している。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	A－18	外面：10YR 6/1 褐灰 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1318	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラで時計回りの方向に連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．２cmから１．５cmのＣ字爪形文がわずかな間隔をあけて口縁に並行するように２条施文されている。	口縁部内外面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－1	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1319	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられヘラ先で連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．５cmのＣ字爪形文がわずかな間隔をあけて口縁に並行するように３条施文され、同じような爪形文の刻目が残る環状の凸帯の貼り付けとつなげられている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	A－18	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1320	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に幅１．５から１．８cmのＣ字爪形文を口縁に並行するように２条施文している。	口縁端部内面には長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	A－18	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1321	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して施文され、その下には断面三角形の凸帯が冂状に貼り付けられ周囲にはヘラ先による連続刺突が加えられている。	口縁端部内面は長大な節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文しているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－5	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1322	口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文がわずかな間隔をあけて２条施文されている。	口縁端部内面には節が大きなＲＬ縄文を施文しているが、端部から１．５cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－2	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩		
1323	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向の刻み目が加えられている。外面は端部直下に幅１．２cmほどのＣ字爪形文を１条施文した薄い粘土帯を口縁に沿って貼り付け、さらにその下に同じＣ字爪形文を１条器面に直接施文している。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	A－6	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1324	口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	T－1 T－2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・結晶片岩・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（63）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1325	口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．２から１．５cmほどのＣ字爪形文が３条施文されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 8/6 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1326	口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．２から１．５cmほどのＣ字爪形文が３条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英		
1327	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられヘラ先で連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．５cmのＣ字爪形文がわずかな間隔をあけて口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から５㎜ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－６	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1328	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．２cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して２条施文されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｓ－４	外面：10YR 5/6 黄褐	長石・結晶片岩		
1329	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から５㎜ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1330	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で反時計回りの方向の刻目が加えられている。外面は口縁端部に薄い粘土帯が貼り付けられ、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して施文されている	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1331	緩やかな波状口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で反時計回りの方向の刻目が加えられている。外面は端部直下に幅１．２～１．３cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して２条施文されている。	口縁端部内面は端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1332	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に粘土帯が薄く貼り付けられ、その上から幅１～１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して２条施文されている。	口縁端部内面は端正な撚で節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｓ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1333	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に幅１cmほどのＣ字爪形文を口縁に並行して２条施文している。	口縁端部内面は端正な撚で節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	不明	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
1334	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文を時計回りの方向に施文している。外面は端部直下に幅１～１．３cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行して２条施文されている。	口縁端部内面は端正な撚で節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1335	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に粘土帯が薄く貼り付けられ幅１cmほどのＣ字爪形文を１条、さらにその下には１．３cmほどのＩ字爪形文を口縁に並行するように施文している。	口縁端部内面は端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から５㎜ほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－３ Ｔ－２ Ｔ－３	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・結晶片岩		
1336	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に粘土帯が薄く貼り付けられ幅１．５cmほどのＣ字爪形文が１条、口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面は端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート	不良	
1337	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に粘土帯が薄く貼り付けられ幅１cmほどのＣ字爪形文を１条、さらにその下には１．３cmほどのＩ字爪形文が口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面は端正な撚で節が大きいＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1338	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に粘土帯が薄く貼り付けられ幅１．２cmほどのＣ字爪形文を１条、さらにその下には別のＣ字爪形文をもう１条、わずかな間隔をあけながら口縁に並行するように施文している。	口縁部内外面はＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｒ－19	外面：2.5Y 8/2 灰白 内面：2.5Y 7/1 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1339	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面を平坦に仕上げたうえでヘラによる刻目が加えられている。外面は端部直下に２cm近い幅のＩ字刺突文を２条施文している。	口縁端部内面はＬＲ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（64）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1340	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられヘラによる刻み目が加えられている。外面は端部直下に幅１．５cmと２cmのＩ字刺突文が２条施文されている。	口縁端部内面は長大な節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ-19	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1341	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面にＩ字刺突文が反時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下から幅１．５cmほどのＩ字刺突文が３条施文されているが、端部上面を含めて通常の土器とは逆方向に施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ａ-20	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1342	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面を平坦に仕上げたうえでヘラによる刻み目を加えている。外面は端部直下にＩ字刺突文を１条、水平に施文している。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ａ-５	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1343	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向に刻み目が施されている。口縁部外面には口縁に並行してＩ字刺突文が２条まわされている。内面は横ナデ調整が加えられた後で縄文が施文されている。	口縁端部内面は節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｓ-２	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1344	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面を円く仕上げ、ヘラ先で反時計回りの方向に連続する刺突が加えられている。外面は端部直下にＩ字刺突文を２条、わずかな間隔をあけて水平に施文している。	口縁端部内面は細長い節の中に繊維痕がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｔ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英		
1345	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向の連続刺突列を加えている。外面は端部直下に幅１cmと１．３cmのＣ字形爪形文（Ｉ字刺突文）を２条口縁に並行するように施文している。	口縁部外面は無文だが縄文施文後ナデ消された可能性がある。端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部のごく狭い範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ-１	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：7.5YR 7/6 橙	石英		
1346	小さく波打つ波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられ、ヘラ先で浅い刻み目が施されている。外面は口縁に沿ってＩ字刺突文が３条水平に施文されている。	口縁端部内面には長い節の中に繊維痕のないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1347	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器は、外面にＩ字状の刺突文を２条施文している。		中期Ⅱｂ	Ｒ-20	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1348	内彎する口縁は端部上面を平坦に仕上げ、外面にはＩ字刺突文が２条施文されている。		中期Ⅱｂ	Ａ-６	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1349	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面が円く仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に口縁に並行するＣ字またはＩ字状刺突文が２条、わずかな間隔をあけて施文されている。	口縁端部内面は細いＲＬ縄文を施文しているが、端部のごく狭い範囲を残してナデ消している。	中期Ⅱｂ	Ｔ-２	外面：2.5Y 4/1 黄灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
1350	内彎する口縁を持った深鉢形土器は口縁端部上面が円く仕上げられ、時計回りの方向にＣ字爪形文が施文されている。外面は端部直下に５mm、その下には１cmほどの幅を持ったＩ字刺突文が口縁に並行するように施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ-３	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英		
1351	内彎する口縁を持った深鉢形土器は口縁端部上面が円く仕上げられＣ字爪形文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に口縁に並行して幅１cm程度のＣ字爪形文を施文した薄い粘土帯が２条間隔をあけて貼り付けられている。		中期Ⅱｂ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1352	内彎する口縁を持った深鉢形土器は口縁端部上面がにぶく尖らされ外面には低い凸帯が貼り付けられている。端部上面には浅い刻み目が加えられ、外面の凸帯上には幅７mmほどのＣ字爪形文が施文されている。外面は端部から１．５cmほど下にＩ字刺突文が口縁に並行して施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ-19	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1353	「く」の字に屈曲する頸部と大きく内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で連続する刻み目が加えられている。外面は端部直下に幅１．５cm、その下には２．５cmほどのＩ字刺突文を２条施文し、頸部にも刺突列が残されている。	口縁端部内面は長い節の中に繊維の痕跡がないＬＲ縄文を施文しているが、端部近くの狭い範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・赤色斑粒		
1354	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が円く仕上げられＩ字刺突文が反時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．３cmほどのＣ字またはＩ字刺突文が２条、水平に施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（65）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1355	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられＩ字刺突文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に幅７㎜、その下には１．５㎝ほどのＩ字刺突文を２条施文している。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1356	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器は口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字形爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に沿って施文され、その下には同じＩ字刺突文で波状文が描かれている。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・赤色斑粒		
1357	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向に連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１㎝ほどのＩ字状の刺突文が口縁に並行して２条施文され、さらにその下には同じ施文具を使用して波状または鋸歯状の文様が描かれている。	口縁端部内面は節が大きいＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1358	内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられ、ヘラ先による反時計回りの方向の刺突列が施文されている。外面にはＩ字刺突文が間隔をあけて２条施文されている。	内面にはやや長い節を持ったＲＬ縄文を施文後横ナデ調整が施されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1359	口縁端部上面は平坦に仕上げられＩ字刺突文が時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に幅２㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に沿って施文されている。	口縁端部内面には細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1360	口縁端部上面はヘラ先で刻み目が加えられ、外面は端部直下に幅１㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面は節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｔ－３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1361	口縁端部上面は平坦に仕上げられヘラ先で時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．３㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に沿って２条施文されている。	口縁端部内面は節のなかに繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1362	内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げ、ヘラ先による時計回りの方向の刺突が連続して加えられている。外面は幅１．５㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に沿って施文されている。	口縁端部内面には節が長く端正な撚のＬＲ縄文が施文されているが、口縁端部から１．５㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－５	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1363	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、Ｃ字爪形文が時計回りの方向に連続して施文されている。外面は端部直下に幅１．㎝ほどのＣ字爪形文が２条、口縁に並行して施文されている。	口縁端部内面には節が長く端正な撚のＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1364	「く」の字に屈曲する頸部と、大きく内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で時計回りの方向の刺突が連続して加えられる。外面は幅１㎝から１．５㎝ほどの Ｉ字刺突文が３条間隔をあけながら、口縁に並行して施文され、頸部の屈曲部にも施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＬＲ縄文が施文されているが、口縁端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ａ－３	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1365	口縁は端部上面が円く仕上げられ、ヘラ先による刻み目が加えられている。外面は端部直下に幅２㎝ほどのＩ字刺突文がわずかな間隔をあけて水平に２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＬＲ縄文が施文されているが端部から１．５㎝ほどのところでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－６	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1366	口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラ先による反時計回りの方向の刺突が連続して加えられる。外面は端部直下に幅８㎜、その下には１㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に並行して３条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１㎝足らずのと１ころでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1367	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラ先による時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１．５㎝ほどのＩ字刺突文が口縁に並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1368	緩やかに内彎する口縁は端部上面が平坦に仕上げられヘラ先により連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅７㎜から１．７㎝ほどのＩ字刺突文を口縁に並行するように３条施文している。	口縁端部内面はＲＬ縄文を施文しているが、端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	長石・結晶片岩		
1369	緩やかに内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向の連続する刺突が加えられている。外面は端部直下に幅１から１．２㎝ほどのＣ字状またはＩ字に近い刺突文が３条、水平に施文されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ａ－３ Ｔ－２ Ｔ－３	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（66）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1370	直立する口縁は端部が円く仕上げられ、ヘラ先で時計回りの方向に連続する刺突が施されている。外面は端部直下に刻目が加えられた環状の凸帯が貼り付けられ、水平或いは斜め方向に施文された幅１cmから１．２cmほどのＩ字刺突文とつながっている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1371	内彎する口縁は、連続するＣ字爪形文を施文した環状の凸帯と、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条施文されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・雲母・長石		
1372	内彎する口縁は外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が並行して２条施文されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・赤色斑粒		
1373	内彎する口縁は外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が並行して２条施文されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1374	内彎する口縁は外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が並行して２条施文されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1375	内彎する口縁は外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が１条水平に施文されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ａ－１ Ｔ－２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・赤色斑粒		
1376	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に、幅１．５cmほどのＣ字爪形文を２条並行に施文している。頸部外面にもＣ字爪形文と思われる刺突列が残されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩		
1377	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は頸部の屈曲部近くに、幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文している。	口縁部外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが施文後ナデ調整が加えられている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1378	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に、幅１cmほどのＣ字爪形文を１条水平に施文している。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｔ－５	外面：N 5/0 灰 内面：N 5/0 灰	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1379	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に、幅１．５cmほどのＣ字爪形文を間隔をあけて水平方向に２条、並行に施文している。また、頸部外面にも爪形文と思われる刺突列が残されている。	口縁部外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが施文後ナデ調整が加えられている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/4 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1380	内彎する口縁は外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が間隔をあけて水平方向に並行して施文されている。	節の長い縦走するＲＬ縄文を施文しているが、一部がナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1381	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を１条、水平に施文している。また、頸部外面にも爪形文と思われる刺突列が残されている。	長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文しているが、一部がナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1382	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部と頸部外面にそれぞれＣ字爪形文を１条ずつ施文している。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1383	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１cmほどのＣ字爪形文を１条施文している。また、頸部外面にも爪形文と思われる刺突列が残されている。	縦走するＲＬ縄文を施文後、ナデ調整が加えられている。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：5YR 4/8 赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1384	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部と頸部外面にそれぞれＣ字爪形文を１条ずつ施文している。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1385	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅1.7cmほどのＣ字爪形文を１条施文している。また、頸部外面にも爪形文と思われる刺突列が残されている。	縦走するＲＬ縄文を施文後、ナデ調整が加えられ、頸部周辺を残して縄文がナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1386	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１．３cmほどのＣ字爪形文を２条水平方向に施文している。また、頸部外面にも爪形文と思われる刺突列が残されている。	口縁部外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：2.5Y 4/2 暗灰黄 内面：2.5Y 3/2 黒褐	石英・長石・赤色斑粒		
1387	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部は１条、頸部から体部にかけては２条、それぞれ１．５cm前後の幅のＣ字爪形文が水平に施文されている。	外面には長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、口縁部の縄文はナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（67）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1388	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部は１条、頸部から体部にかけては２条、それぞれ１．５cm前後の幅のＣ字爪形文が水平に施文されている。	外面は節の長い縦走するＲＬ縄文を施文しているが口縁部の縄文はナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
1389	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、頸部の屈曲部に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	外面は端正な撚の細かい節を持ったＲＬ縄文を施文しているが口縁部の縄文はナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1390	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、頸部から体部にかけて、幅１．５cmほどのＣ字爪形文とＩ字刺突文？が並行して施文されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
1391	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、頸部の屈曲部に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が施文されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1392	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、並行に施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1393	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、並行に施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1394	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、簾状またはＩ字刺突文が施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1395	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅２cmを越えるＣ字爪形文が１条施文している。		中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1396	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、並行に施文されている。	体部外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：10YR 3/3 暗褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1397	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅２cmを越えるＣ字爪形文が２条並行に施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1398	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、並行に施文されている。		中期Ⅱａ	Ａ－２	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1399	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては、幅１．５cmほどのＣ字爪形文が２条、並行に施文されている。		中期Ⅱａ	不明	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1400	内彎する口縁には幅１cmほどの水平方向のＩ字刺突列が間隔をあけて２条並行に施文されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1401	内彎する口縁は、外面にＩ字刺突文が簾状に施文されている。		中期Ⅱｂ	Ｔ－３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1402	内彎する口縁は、外面にＩ字刺突文が簾状に施文されている。		中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1403	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部と頸部に幅１cmほどのＩ字刺突文を１条ずつ施文している。		中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1404	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１cmほどのＩ字刺突文を１条、水平方向に施文している。また、頸部外面にＩ字と思われる刺突列が残されている。		中期Ⅱｂ	Ａ－３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1405	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１．５cmほどの水平方向のＩ字刺突文を２条、間隔をあけて施文している。また、頸部外面にも幅１．５cm以上あるＩ字刺突文が施文されている。		中期Ⅱｂ	Ｂ－６	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1406	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅７mmほどの水平方向のＩ字刺突文を１条施文している。また、頸部外面にも幅１．５cmほどのＩ字刺突文が施文されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（68）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1407	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に幅１．５㎝以上ある水平方向のＩ字刺突文が１条施文されている。また、頸部外面にもＩ字刺突文列が残されている。	外面はいったん施文した縄文を、後でナデ消した可能性がある。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 8/1 灰白 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・赤色斑粒		
1408	「く」の字に屈曲する頸部と大きく膨らむ体部を持った深鉢形土器は、頸部に幅１．５㎝ほどのＩ字刺突を連続して加えている。体部にも同じＩ字刺突文を水平に施文する他、薄い粘土帯を縦に２本貼り付けた上からもＩ字刺突文が施文されている。		中期Ⅱｂ	Ｔ－３	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート		
1409	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては外面に幅１㎝ほどのＩ字刺突文を２条、水平方向に施文している。		中期Ⅱｂ	Ａ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1410	「く」の字に屈曲する頸部から体部にかけては外面に幅１㎝ほどのＩ字刺突文を３条、水平方向に施文している。		中期Ⅱｂ	Ａ－５	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1411	体部外面に幅１．２㎝ほどの水平方向のＣ字爪形文が２条並行に施文されている。	外面は端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1412	体部外面には幅１．３㎝ほどのＣ字爪形文を水平方向に２条施文し、その下にはＣ字爪形文が縦方向に施文されている。		中期Ⅱａ	Ａ－３	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1413	体部は頸部との境近くに幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を２条、水平に施文し、Ｉ字刺突文で描かれた曲線と交差している。		中期Ⅱａ	不明	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1414	体部外面にはＣ字爪形文が水平に２条施文されている。		中期Ⅱａ	不明	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石	不良	
1415	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	外面はＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－18	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1416	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：5YR 4/6 赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1417	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。		中期Ⅱａ	Ａ－５	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：5YR 4/3 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1418	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。		中期Ⅱａ	Ｔ－20	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・砂岩・チャートいずれも円礫		
1419	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	外面はＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－18	外面：7.5YR 8/3 浅黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1420	筒状の体部外面は外面に幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	節の中に繊維の痕跡がない長大な節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1421	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	細長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ａ－３	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1422	筒状の体部は外面に１．５㎝を越える幅のＣ字爪形文が水平に１条施文されその下には同じ爪形文で曲線が描かれている。		中期Ⅱａ	Ａ－１	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1423	体部外面には地文の縄文の上に２㎝近い幅のＣ字爪形文が水平に施文されている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ－１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1424	体部外面には地文の縄文の上に幅１．３㎝ほどのＣ字爪形文が水平に施文されている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｒ－20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1425	体部外面には地文の縄文の上に幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が２条水平に施文されている。	長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石		
1426	幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を器面に直接刺突して曲線が描かれている。	長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（69）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1427	幅１．５㎝ほどのＣ字爪形文を器面に直接刺突して曲線が描かれている。	細い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	B－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1428	地文の縄文の上に幅２㎝ほどのＣ字爪形文が施文されている。	細長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1429	地文の縄文の上にＣ字爪形文を水平に施文している。	細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	A－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1430	体部にはＩ字刺突文が水平に施文されている。	端正な撚の節の中に繊維の痕跡がない縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	T－2	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1431	体部にはＣ字爪形文が水平に施文されている。	長い節を持った端正な撚の縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	A－1	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1432	体部には幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を２条、水平に施文している。	端正な撚の縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	A－5	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1433	体部外面には幅１.５㎝ほどのＣ字爪形文が水平に２条施文されている。	端正な撚の縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	B－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1434	地文の縄文の上に２㎝近い幅を持ったＣ字爪形文が１条、水平に施文されている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	A－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1435	体部には幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文を２条、水平に施文している。	縦走する細かい撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	A－3	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1436	地文の縄文の上にＣ字爪形文が１条、水平に施文されている。	端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	T－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 3/1 黒褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1437	地文の縄文の上に幅１㎝ほどのＣ字爪形文が１条、縦方向に施文されている。	縦走する細かい撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	B－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1438	体部外面には地文の縄文上に水平と縦方向のＣ字爪形文が交差し、貝殻を使用した条線が施文されている。	節の長い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	T－1	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩		
1439	地文の縄文の上に幅１．２㎝ほどのＣ字爪形文が１条、縦方向に施文されている。	縦走するＲＬ縄文が付けられている。	中期Ⅱｂ	B－19	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1440	外面には簾状のＩ字刺突文が２条施文されている。		中期Ⅱｂ	A－5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石		
1441	外面には簾状のＩ字刺突文が２条施文されている。		中期Ⅱｂ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1442	体部外面には地文の縄文の上に幅２㎝ほどのＩ字刺突文を２条、水平に施文している。	比較的長い節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	B－19	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英		
1443	体部外面には地文の縄文の上に幅１．２㎝ほどのＩ字刺突文を２条、水平に施文している。	端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1444	緩やかに内彎する口縁は端部に沿って巻貝の頂部を使用した径４㎜ほどの円形刺突列を１条施文している。	口縁部内外面には撚の細かいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱｃ	T－1	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1445	緩やかに内彎する口縁は端部上面がにぶく尖らされ、外面には巻貝の頂部を使用した径３㎜ほどの円形刺突列が、２㎝程度の間隔をあけて口縁に並行するように２条施文されている。	口縁部内外面には撚の細かいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｃ	T－3	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
1446	緩やかに内彎する口縁は端部直下に巻貝の頂部を使用した径４㎜ほどの円形刺突列が、口縁に並行するように一条施文されている。	口縁部内外面とも撚の細かいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱｃ	T－20	外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	

第５表　包含層出土遺物観察表（70）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1447	内彎する口縁は端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に薄い粘土帯が貼り付けられ、Ｃ字爪形文を１条施文し、その下には巻貝の頂部を使用した径４㎜ほどの円形刺突をはさんで別のＣ字爪形文が残されているが、その場合粘土帯の貼り付け上ではなく器面に直接施文されている。	口縁端部内面には撚が細かいＲＬ縄文が施文されているが端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｃ	Ａ－１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
1448	緩やかに内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面端部直下に、巻貝頂部を使用した径３㎜ほどの円形刺突文列を挟んで、Ｃ字爪形文を１条ずつ施文している。	口縁端部内面には撚が細かいＲＬ縄文が施文されているが端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｃ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1449	緩やかに内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に、巻貝頂部を使用した径３㎜ほどの円形刺突文列を挟んで、Ｃ字爪形文を１条ずつ施文している。	口縁端部内面の縄文はナデ調整によって大部分が消されている。	中期Ⅱｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1450	緩やかに内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、Ｃ字爪形文が反時計回りの方向に施文されている。外面は端部直下に、巻貝頂部を使用した径３㎜ほどの円形刺突文列と、Ｃ字爪形文を１条ずつ施文している。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている	中期Ⅱｃ	？	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 2/1 黒	石英・結晶片岩		
1451	内彎する口縁は、端部外面に幅１．５㎝ほどの帯状の凸帯を貼り付け、口縁端部直下と凸帯の縁辺に沿って先端が円い棒状施文具で径２㎜前後の円形刺突文を１条ずつ施文し、その間にＣ字爪形文列を施している。凸帯の下には別の爪形文も施文されている。		中期Ⅱｃ	Ｔ－１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
1452	内彎する口縁は端部外面直下にＣ字爪形文を１条口縁に沿って施文している。爪形文の下には巻貝の頂部を使用した径２㎜ほどの円形刺突文列で直線と鋸歯状文が描かれている。	外面には撚が緩く節の長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｃ	Ｔ－３	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1453	内彎する口縁は端部外面直下にＣ字爪形文を１条口縁に沿って施文している。爪形文の下には巻貝の頂部を使用した径３㎜ほどの円形刺突文列で直線と鋸歯文が描かれている。	外面には縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石		
1454	内彎する口縁は端部外面直下に巻貝の頂部を使用した径４㎜ほどの円形刺突文とＩ字刺突文が１条ずつ施文されている。	口縁端部内面は端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１㎝足らずのところで大部分の縄文がナデ消されている。	中期Ⅱｃ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1455	内彎する口縁は端部外面直下に半截竹管を使用した半円形の刺突と幅２㎝ほどのＣ字爪形文が口縁に沿って１条ずつ施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱｃ	Ｂ－19 Ｔ－20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1456	内彎する口縁は、外面に断面三角形の粘土帯を水平に貼り付け、口縁端部と凸帯、凸帯の下にはそれぞれＣ字爪形文列を施文している。		中期Ⅱ	Ｔ－２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英		
1457	内彎する口縁には、断面三角形の凸帯を水平に貼り付け、Ｃ字形爪形文と、巻貝の頂部を使用した径４～５㎜ほどの円形刺突文列を凸帯上部に沿って１条ずつ施文している。また、凸帯の下には別のＣ字爪形文列が残されている。		中期Ⅱ	Ａ－１ Ｔ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1458	内彎する口縁には、断面三角形の凸帯を水平に貼り付け、Ｃ字形爪形文と、巻貝の頂部を使用した径３～４㎜ほどの円形刺突文列を凸帯上部に沿って１条ずつ施文している。また凸帯の下には別のＣ字爪形文列が残されている。		中期Ⅱ	Ａ－１ Ｔ－１	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1459	内彎する口縁は、縄文施文後に低い凸帯を貼り付けて区画し、Ｃ字形爪形文と円形の刺突文を区画内に１条ずつ施文している。	撚りの緩いＲＬ縄文か？	中期Ⅱ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1460	外面には粘土紐が連弧状に貼り付けられ、それに沿って巻貝の頂部を使用して円形刺突文列が付けられている。	ＬＲ縄文が施文されている	中期Ⅱ	Ａ－１ Ｔ－３	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		断面２個あり
1461	球形の体部と大きく内彎する口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面に施文された幅１㎝ほどのＣ字爪形文列の上下に径２㎜ほどの円形刺突列列を１条ずつ施文し、さらにその下には幅１．５㎝のＣ字爪形文が緩やかな波状を描くように施文されている。また、強く括れた頸部から体部にかけては、幅１．７㎝ほどのＣ字爪形文列に沿って円形刺突列が施文されている。口縁部にはその他にも耳状の突起が貼り付けられている。		中期Ⅱｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・砂岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（71）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1462	大きく内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、端部から２～２．５cmほど下に貼り付けられた波状の凸帯を挟んで、Ｃ字爪形文列を水平に施文している。さらに口縁端部に近い爪形文の両端には巻貝の頂部を使った連続する円形の刺突文が１条ずつ残されている。	口縁端部内面には端部から１cm足らずの間にＲＬ縄文施文されている。	中期Ⅱｃ	Ｔ－２ Ｔ－３	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1463	内彎する口縁は、端部直下に口縁に並行するように細い半截竹管を使った半円形の刺突列と幅２．５cmほどのＣ字爪形文をそれぞれ１条ずつ施文している。さらに端部から３～５cmほど下には連弧状の細い凸帯に沿って同じような半円形刺突列とＣ字爪形文列を施文している。	口縁端部内面は撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文施文後非常に丁寧なナデ調整が施されている。	中期Ⅱｃ	Ｓ－１ Ａ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1464	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面にＣ字爪形文を反時計回りの方向に施文している。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＩ字刺突文列と、同じＩ字刺突を加えた低い環状の凸帯が貼り付けられている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1465	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部上面にＣ字爪形文を時計回りの方向に施文している。外面は幅１．５cmほどのＣ字爪形文列をわずかな間隔をあけながら、口縁に並行するように３列施文しているが、口縁端部直下に施文された爪形文は薄い粘土帯の貼り付けの上に施されている。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1466	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が時計回り、外側が反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。外面は幅１．２～１．４cmほどのＣ字爪形文が２条口縁に並行するように施文されている。また、同様の爪形文列は頸部から体部にかけても２条施文されている。	口縁部外面は縦走するＲＬ縄文をナデ消している。口縁端部内面には大きな節の中に繊維の痕跡がないＲＬ縄文が施文されているが、端部から５㎜ほど下でナデ消されている。	中期Ⅱａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1467	小さな山形突起を付けた深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、反時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。外面は端部直下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文が水平方向に２条施文されているが、同様の爪形文は「く」の字に屈曲する頸部にも施されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところで ナデ消されている	中期Ⅱａ？ Ⅱｂ？	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩		
1468	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で刻み目が施されている。外面は幅１cmから１．５cmほどのＩ字刺突文列が口縁に並行するように２条施文されているが、同様の刺突文は頸部にも施されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところで ナデ消されている	中期Ⅱｂ	Ａ－１	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1469	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で刻み目が施されている。外面は幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように２条施文されているが、同様の爪形文は頸部から体部にかけても２条ほど施されている。	外面と口縁端部内面には節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1470	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられ、外面は幅１cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように１条施文されている他、頸部から体部にかけても２条ほど施されている。	口縁部内外面と端部上面にはＲＬ縄文が施文されているが、外面と端部内面の縄文はほとんどがナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｓ－４	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1471	「く」の字に屈曲する頸部と緩やかに内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部上面が平坦に仕上げられヘラ先で反時計回りの方向の刺突列が加えられている。外面は頸部までＣ字爪形文が３列施文されている他、体部にも１条施されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1472	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する短い口縁部を持った深鉢形土器は、口縁部外面にＩ字刺突を上から加えた円い粘土盤が貼り付けられ、口縁に並行するように施文されたＩ字刺突文列と繋がっている。	口縁端部上面から内面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmたらずのところでナデ消されている。	中期Ⅱｂ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1473	山形の突起を付けた波状口縁の深鉢と考えられる土器は、口縁端部上面に浅い刻み目が施され、外面直下には幅７㎜ほどのＩ字刺突が口縁に沿って１条施文されている他、屈曲の度合いの弱い頸部から体部にかけても幅１cmほどのＣ字爪形文が１条施文されている。	外面にはＲＬ縄文が施文されているが、口縁部の縄文は一部がナデ消されている。	中期Ⅱａ？ Ⅱｂ？	Ａ－１ Ｔ－３	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1474	「く」の字に屈曲する頸部と、内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、円く仕上げられた口縁端部上面にヘラによる刻み目が加えられ、外面は竹管を使った円形の刺突文を２条、口縁に並行するように施文している。	外面には撚りが緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱ	Ｔ－６	外面：YR 内面：YR			

第５表　包含層出土遺物観察表（72）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1475	緩やかに内彎しながら上方に大きく開く鉢、または深鉢形と考えられる土器は、端部上面にヘラによる刻み目が加えられ、外面は端部から１cmほど下に竹管を使ったＣ字爪形文を口縁に並行するように１条施文している。	口縁部内外面には撚が細かいＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅱ	Ｔ-１ Ｔ-２ Ａ-１ Ａ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1476	「く」の字に屈曲する頸部と、緩やかに膨らむ体部を持った深鉢形土器は、頸部から体部にかけて幅１cmから１．５cmほどのＣ字爪形文を水平に２条施文し、その下には同じ爪形文を間隔をあけて縦に加えて四角い区画を設けた中に爪形文で弧線状の文様を描いている。	外面には節の大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅱａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1477	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部外面の一部を口縁に沿って低い凸帯を貼り付けて区画している。端部直下には径４～５㎜ほどの円形刺突列を１条ないしは２条施文している。刺突列の下には部分的に凸帯が貼り付けられ、山形突起の下には刻み目を加えた凸帯を縦に貼り付けている。凸帯の間はＩ字刺突文で充填している。	口縁端部内面は撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm程度の範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅲａ	Ｔ-４	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
1478			中期Ⅲａ	Ａ-６	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1479	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に先端が円い棒状工具を使った径５㎜前後の円形の刺突を連続して加え、その下にはＩ字刺突文を施文している。		中期Ⅲａ	Ｔ-１	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1480	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に先端が円い棒状工具を使った径６～７㎜ほどの円形の刺突を連続して加え、その下にはＩ字刺突文を施文している。	口縁端部内面には端正な撚のＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1481	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に棒状工具を使った径３㎜ほどの円形の刺突を１条連続して加え、その下にはＩ字刺突文を施文している。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅲａ	Ｂ-６	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1482	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に先端が円い棒状工具を使った径５～６㎜ほどの円形の刺突を連続して加え、その下にはＩ字刺突文を施文している。	口縁端部内面には端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｔ-２	外面：5YR 6/8 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
1483	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に巻貝の頂部を使った径５㎜ほどの円形の刺突文を連続して加え、その下にはＩ字刺突文を施文している。		中期Ⅲａ	Ｔ-３	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1484	緩やかに内彎する口縁は端部から２．５cmほど下に低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けて帯状の区画を設けている。区画内はＩ字刺突文を施文後、口縁端部と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形の刺突を連続して加えている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅲａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1485	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は口縁端部から２．５cmほど下に低い凸帯を貼り付けて帯状の区画を設けている。区画内はＩ字刺突文を施文後、口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径６㎜ほどの円形の刺突を連続して加えている。区画から下は、Ｉ字刺突文が施文されている。	口縁端部内面は端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ａ-１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1486	口縁部外面は端部から２cmほど下に口縁と並行して凸帯を貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内はＩ字刺突文を施文後、口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形の刺突を連続して加えている。	口縁端部内面は節の長いＲＬ縄文が施文されているが、端部から２～２．５cm下でナデ消されている。	中期Ⅲａ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1487	口縁は端部外面に幅２．５cmほどの粘土帯を貼り付け段が設けられている。粘土帯の上はＩ字刺突文を施文後、口縁端部直下と段の縁辺に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形の刺突を連続して加えている。	内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｔ-３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/3 黄褐	石英・長石・チャート	不良	
1488	緩やかに内彎する口縁は端部から３cmほど下に低い凸帯を貼り付けて帯状の区画を設けている。区画内はＩ字刺突文を施文後、口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ巻貝の頂部を使った径４～７㎜ほどの大きさの円形の刺突を連続して加えている。また、凸帯の下にはＩ字刺突文が施文されている。	口縁端部内面には器面調整後ＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｓ-１ Ｔ-１ Ａ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（73）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1489	筒状の口縁は、端部外面にヘラによる刻み目を加えた凸帯を１cmほどの間隔をあけながら口縁に並行するように２条貼り付け、口縁端部と凸帯、凸帯と凸帯間にはそれぞれ先端が円い棒状工具による径５㎜ほどの円形刺突列を１条ずつ施文している。凸帯の下には縄文のかわりにＩ字刺突文を施文している。		中期Ⅲｂ	A－1 T－1	外面：5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1490	口縁部外面は連弧状に貼り付けられた凸帯に沿って、先端が円い棒状工具を押し引き、貝殻復縁または櫛状のヘラ先を使用した条痕が施文されている。	口縁端部内面はＲＬ縄文が施文されているが、部分的にナデ消されている。	中期Ⅲａ	T－1	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1491	緩やかに内彎する口縁には縦方向のＩ字刺突を施し、両側に巻貝の頂部を使用した円形刺突列を施文した凸帯を縦に貼り付けている。		中期Ⅲａ	T－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1492	内彎する口縁にはM字状刺突列を施文した弧状の凸帯の貼り付けに沿って、巻貝の頂部を使った径６～７㎜の円形刺突列が凸帯の両側に１条ずつ施文されている。また円形刺突列の外側にはヘラを使った長いＩ字状の刻み目が連続して施文されている。		中期Ⅲａ	S－1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1493	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、口縁端部近くに貼り付けられた断面三角形の凸帯に沿って巻貝の頂部を使用した径４㎜ほどの円形刺突列が施文されている。この凸帯と頸部との間にはヘラを使った長いＩ字状の刻み目が加えられいる。「く」の字に屈曲する頸部にはＩ字刺突文が施文されている。		中期Ⅲａ	R－20	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1494	口縁部外面は端部から３cmほど下に刻み目を施した凸帯を口縁に並行して貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は縄文を施文後、口縁端部と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの大きさの円形の刺突を連続して加えている。	口縁部内外面は撚が緩く長い節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	T－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1495	緩やかに内彎する口縁は端部上面と、端部から２．５cmほど下に貼り付けられた凸帯にＣ字爪形文が施文されている。口縁と凸帯の間の帯状の区画内は縄文施文後に、口縁端部と凸帯に沿って先端が円い棒状工具を使用した径５㎜ほどの円形の刺突を連続して加えている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。。	中期Ⅲａ	A－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英		
1496	緩やかに内彎する口縁は、端部上面にM字状工具が時計回りの方向に押し引きかれている。外面は端部直下に巻貝の頂部を使用した径５～６㎜ほどの円形の刺突が１条施文され、その下には同じ円形刺突文で弧状文が描かれている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。。	中期Ⅲａ	S－1	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・チャート		
1497	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部から２．５cmほど下に、M字状工具による連続する刺突が加えられた断面三角形の凸帯を水平に貼り付け、帯状の区画が設けられている。区画内は縄文施文後に口縁端部直下と凸帯に沿って、それぞれ巻貝の頂部を使用した径７㎜ほどの円形刺突列が１条ずつ施文されている。また、凸帯の下にはＩ字刺突文が施文されている。	外面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	T－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1498	口縁部外面は端部から３cmほど下にＣ字爪形文が施文された凸帯を水平に貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は縄文施文後に口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使用した径５㎜ほどの円形の刺突が１条ずつ施文されている。口縁端部にはヘラによる時計回りの方向の刺突が連続して行われている。	口縁部内外面には撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面には縄末端の押捺が残されている。	中期Ⅲａ	T－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1499	口縁部外面は端部から２．５cmほど下にＣ字爪形文が施文された凸帯を水平に貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は縄文施文後に口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使用した径５㎜ほどの円形の刺突が１条ずつ施文されている。口縁端部上面には時計回りの方向のＣ字爪形文が施文されている。	縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	T－2	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1500	口縁部外面は端部直下と、端部から２．５cmほど下に口縁に並行するように直径３㎜ほどの円形の刺突文がそれぞれ１条ずつ施文され、その間は無文のまま残されている。円く仕上げられた口縁端部上面にはＣ字爪形文が連続して付けられている。		中期Ⅲａ	T－3	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（74）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1501	口縁部外面は、端部から２．５cmほど下に低い凸帯を口縁に並行するように貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使用した径３㎜ほど円形の刺突列が１条ずつ施文され、その間は無文のまま残されている。また口縁端部上面と凸帯にはＣ字爪形文列が施文されている。		中期Ⅲａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1502	口縁部外面は、端部から２．５cmほど下に低い凸帯を口縁に並行するように貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使用した径３㎜ほど円形の刺突文が１条ずつ施文され、その間は無文のまま残されている。また口縁端部上面と凸帯にはＣ字爪形文列が施文されている。		中期Ⅲａ	Ａ－３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1503	口縁は端部外面に幅２．５cmほどの粘土帯を貼り付けて肥厚させ段が設けられている。粘土帯の上はＩ字刺突文を施文後、口縁端部直下と段の縁辺に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形刺突文を１条ずつ施文している。	内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1504	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、端部から２．５cmほど下に低い凸帯を貼り付け帯状の区画を設けている。区画内は縄文施文後、口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形の刺突文が１条ずつ施文されている。	口縁部内外面にはやや長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。。Ｒ　Ⅲ	中期Ⅲａ	Ｔ－３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		
1505	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、端部から３．５～４cmほど下に断面三角形の凸帯を水平に貼り付け、帯状の区画を設けている。区画内は縄文施文後、口縁端部直下と凸帯に沿ってそれぞれ先端がにぶく尖らされた棒状工具を使った径３㎜ほどの円形刺突文が１条ずつ施文されている。、端部内面には縄文の代わりにＩ字刺突文列が時計回りの方向に１条施文されている。	口縁端部と凸帯の間には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲａ	Ｔ－３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1506	山形の突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、Ｃ字爪形文列を施文した低い凸帯を、端部から１cmほど下に口縁に並行するように貼り付け、下方に向かって延びる別の凸帯とつなげている。凸帯と口縁端部との間には、先端が円い棒状工具による径５㎜ほどの円形刺突文が１条施文されている。	外面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1507	内彎する口縁は、端部上面にヘラで時計回りの方向の浅い刺突列を付け、外面は口縁端部から１cmほど下に凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。端部と凸帯の間には、先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形刺突文が１条施文されている。	口縁部内外面とも短いい節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ｓ－１ Ｔ－１	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1508	直立する口縁は端部上面にＣ字爪形文列を反時計回りの方向に施文し、外面は端部から５㎜ほど下に断面三角形の低い凸帯を貼り付けている。凸帯と端部との間には巻貝の頂部を使った径４㎜ほどの円形の刺突文列を１条施文している。	口縁端部および内外面とも撚が緩くＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ａ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1509	直立する口縁は端部から１cmほど下に、Ｃ字爪形文列を施文した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。凸帯と口縁端部との間には先端が円い棒状工具を使った径５㎜ほどの円形の刺突文を１条施文している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ｔ－２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1510	内彎する口縁は外面の端部直下に先端が円形の棒状工具を使った径６㎜ほどの円形刺突文が１条施文されている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。。	中期Ⅲｃ	Ｔ－３	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
1511	内彎する口縁は、外面の端部直下に先端が円形の棒状工具を使った径６㎜ほどの円形刺突文を１条施文している。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。。	中期Ⅲ	Ｔ－３	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
1512	直立する口縁は、円く仕上げられた口縁端部直下に先端が竹管状施文具を使った径５㎜ほどの円形の刺突文が１条施文されている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ａ－６	外面：5YR 7/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1513	内彎する口縁は外面に低い凸帯を口縁に並行するように貼り付けて帯状の区画を設け縄文を施文し、先端が円形の棒状工具を使った径６㎜ほどの円形刺突文を口縁端部と凸帯に沿ってそれぞれ１条ずつ施文している。	口縁端部内外面には撚が緩いＲＬじょうもんを施文している。	中期Ⅲ	Ｔ－６	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（75）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1514	緩やかに内彎する口縁は外面にＩ字刺突を施したあと、端部直下に径４㎜ほどの円形刺突文を口縁に沿って１条施文し、さらにその下には同じ施文具を押し引いて弧線文が描かれる。	口縁端部上面と内面にはそれぞれ端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石	不良	
1515	緩やかに内彎する口縁は、端部外面直下に径５㎜ほどの円形刺突文を口縁に沿って１条施文し、さらにその下には、同じ施文具を押し引いた連弧文が描かれている。	口縁部外面にはＲＬ縄文が施文されている	中期Ⅲｃ	Ｔ-３	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 4/6 褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1516	緩やかに内彎する口縁は端部外面直下に巻貝の頂部を使った円形刺突文が口縁に沿って１条施文されている。	不明	中期Ⅲｃ	不明	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石	不良	
1517	口縁端部外面直下には先端が円い棒状工具で円形刺突文が口縁に沿って１条施文され、その下には同じ施文具を押し引いて弧線文が描かれている。	外面には撚りが緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｔ-２	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：7.5YR 8/6 浅黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
1518	山形突起を付けた波状口縁の端部外面直下には口縁に並行するように先端が平らな丸棒状工具を使った押し引きが加えられている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･チャート		
1519	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部から１．５㎝ほど下に凸帯を口縁に並行して貼り付け、端部との間に径５㎜ほどの円形刺突文を１条施文している。	外面及び端部内面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	不良	
1520	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、突起の下に細い凸帯を縦方向に貼り付け、その両側に径６㎜ほどの円形刺突文を１条ずつつ施文している。	口縁部内外面とも撚が緩いＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：2.5Y 7/4 浅黄 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1521	内彎する口縁は端部近くで上方に折り曲げられ、上面が平坦に仕上げられている。端部外面直下には先端が円い棒状工具による円形刺突文が１条口縁に沿って施文されている。端部から２㎝ほど下には両側に同じような円形刺突文が施文された細い凸帯が貼り付けられている。	端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1522	平坦な口縁は、端部上面にヘラによる刻み目を施し、外面には幅１．５㎝ほどの低い凸帯を貼り付けている。凸帯上には先端が円い棒状工具を使って径３㎜ほどの円形刺突文を１条施文している。凸帯の下には連続するＣ字形爪形文の刺突を１条施文している。		中期ⅢＣ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩･チャート		
1523	口縁端部外面には凸帯を連弧状に貼り付け、先端が円い棒状工具を使用した径４㎜ほど円形刺突文が口縁端部と凸帯に沿って施文されている。	外面に縄文が施文されているが原体の種類は不明。	中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒･チャート	不良	
1524	緩やかに内彎する口縁は、端部近くでわずかに外方に折り返され、内面に薄い粘土帯を貼り付けて端部を肥厚させている。外面には凸帯の貼り付けによって描かれた連弧状の文様に沿って円形刺突文が施文されている。	口縁端部内面には撚の細かいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英･チャート		
1525	直立する口縁は、円く仕上げられた端部から１㎝ほど下に凸帯が口縁に並行して貼り付けられ、端部との間には並行する円形刺突文が２条施文されている。凸帯の下にも緩やかな曲線を描きながら下方に向かってのびる凸帯が貼り付けられているが、この凸帯の両側にも同じような円形刺突文が１条ずつ施文されている。	外面には撚が緩い長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1526	直立する口縁は、円く仕上げられた端部から１㎝ほど下に凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。口縁端部と凸帯の間には先端が円い棒状工具による径２㎜ほどの円形の刺突列が１条施文されている。同じような円形刺突文は凸帯から１㎝ほど下にも施文されている。	外面には節が長い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒･チャート		
1527	直立する口縁は端部外面直下に幅２㎝ほどの薄い粘土帯を貼り付け、低い段が設けられている。粘土帯の上には先端が円い棒状工具による円形刺突文が口縁と並行するように２条施文されている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｂ-５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・チャート		
1528	内彎する口縁部外面に沈線が引かれ円形の竹管文が付けられる		中期Ⅲ	Ｂ-５	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英		
1529	山形の波状口縁を付けた深鉢形土器は。緩やかに外反する口縁端部から１㎝ほど下に幅広の凸帯が貼り付けられ、口縁端部と凸帯の間には巻貝の頂部を使った径３㎜ほどの円形刺突文が凸帯に沿って１条施文されている。また、山形突起の下にも同じような凸帯が縦に貼り付けられている。外面は縄文の代わりに簾状のＩ字刺突文が付けられている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（76）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1530	２連の山形突起を付けた深鉢形土器は、緩やかに外反する口縁端部外面に凸帯が水平に貼り付けられ、先端の円い棒状工具を使用した径３㎜ほどの円形刺突文が凸帯に沿って施文されている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1531	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで上方に折り曲げられている。口縁端部上面はヘラ先で斜めの刻み目を施し、外面はヘラを使った刻み目を加えた細い凸帯と、先端が平らな棒状工具を押し引いて、口縁端部に連弧文が描かれている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を、端部から３㎝ほど下まで施文している。	中期Ⅲ	Ｔ－３	外面：10YR 3/3 暗褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1532			中期Ⅲ	Ｔ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1533	緩やかに内彎する口縁は縄文の上から先端が円い棒状工具の押し引きによる連弧文が描かれている。口縁端部にはヘラによるＶ字状の刻み目が施されている。		中期Ⅲ	Ｂ－６ Ｓ－１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		断面２個あり
1534	緩やかに内彎する口縁は端部が平坦に仕上げられヘラによる時計回りの方向の刺突が加えられている。外面はヘラを使った押し引きにより連弧文が描かれている。	内外面とも撚のきわめて緩い節が長いＲＬ縄文を縦走させている。	中期Ⅲ	Ｂ－６	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1535	内彎する口縁部には先端が円い棒状施文具を押し引いて直線や連弧文が描かれている。	撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ａ－５	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1536	先端が円いヘラ状施文具を押し引いて連弧文と思われる文様が描かれている。	不明。	中期Ⅲｂ	Ａ－５	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1537	内彎する口縁は外面に巻貝の頂部を使った円形刺突列で連弧文？が描かれている。		中期Ⅲｂ	Ｔ－３	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/3 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1538	「く」の字に屈曲する頸部と内彎する口縁を持った深鉢形土器。口縁部外面には先端が四角いヘラ状工具の押し引きにより鋸歯状の文様が描かれている。	外面には撚が緩く長い節のＲＬ縄文を施文している。。	中期Ⅲ	Ａ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		
1539	内彎する口縁は緩く括れる頸部との境近くに、巻貝の頂部を使った並行する２条の円形刺突文で、鋸歯文あるいは弧線文と思われる文様が描かれている。	外面には撚りが緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ｔ－３	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1540	体部は「く」の字に屈曲する頸部との境付近に巻貝の頂部を押し引いて径３㎜ほどの円形刺突文で連弧文が描かれている。	地文に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1541	体部は緩く括れる頸部近くに巻貝の頂部を使った径３㎜ほどの円形刺突文で直線的な幾何学文様が描かれている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｂ	Ａ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1542	緩やかな膨らみを持った体部にはＹ字状の凸帯を貼り付け、先端が円い棒状施文具を使用した径３～４㎜ほどの円形刺突文が凸帯の両側に施文されている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1543	端部付近が肥厚する口縁は端部外面に凸帯を縦に貼り付け、その両側には巻貝の頂部を使用した直径３㎜ほどの円形刺突文列が１条ずつ施文されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が付けられているが内面の縄文は端部から１㎝ほど下でナデ消されている。	中期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・砂岩・結晶片岩・赤色斑粒		
1544	並行する２本の凸帯を縦に貼り付け、その両側に先端が円い棒状施文具を使用した円形刺突文が１条ずつ施文されている。円形刺突列の外側には竹管を使った円形の刺突も施されている。。	地文には縦走するＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅲｃ	Ａ－１ Ｂ－５	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1545	直線と曲線を描く２本の凸帯を交差させ、先端が円い棒状工具を使用した円形刺突文を凸帯に沿って施文している。	地文には縦走するＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅲｃ	Ｔ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1546	直線的な凸帯をＹ字状に交差させて幾何学的な文様を描き、先端が円い棒状工具を使用した径３㎜ほどの円形刺突文を凸帯に沿って施文している。	地文にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1547	ヘラによる刻目を加えた凸帯と、径２～４㎜の巻貝の頂部を押し引いた並行する２本の直線が、１．５㎝ほどの間隔をあけて縦方向に配置されている。	地文に撚の緩いＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅲｃ	Ｔ－１	外面：7.5YR 4/6 褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1548	斜め方向に貼り付けられた凸帯の両側に径２㎝ほどの円形刺突文が１条ずつ施文されている。	外面には長い節のＲＬ縄文を縦走させている。	中期Ⅲｄ	Ａ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（77）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1549	縦走する縄文の上に直径が１cm近い円形刺突文が施文されている。	撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1550	外面にはＬ字状の細い凸帯が貼り付けられ、それ交差するように先端が円い棒状工具を使用した径３㎜ほどの円形刺突文が水平に施文されている。	外面には縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・砂岩・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1551	水平に貼り付けられた凸帯の片側に、円形刺突文が施文されている。	縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
1552	外面は波状に貼り付けられた凸帯に沿って、先端が円い施文具で列点状の押し引きが加えられている。	外面には撚の緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石		
1553	水平方向に貼り付けられた低い凸帯の両側には、円形刺突文がそれぞれ１条ずつ施文されている。		中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1554	ヘラ先でＶ字状の刻目が加えられた緩やかな曲線を描く幅の狭い凸帯の両側に、先端が円い棒状工具を使った径２～３㎜ほどの円形刺突文を押し引くように連続して施文している。	外面には地文として撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1555	斜めに貼り付けられた断面三角形の凸帯のの両側に、巻貝の頂部を使った径３㎜ほどの円形刺突文を１条ずつ施文している。またこれとは別に縦方向の貝殻背圧痕文も施文されている。		中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石		
1556	半截竹管を使った半隆起帯を１cmほどの間隔をあけて２本水平に引き、帯状の区画を設けている。区画内には先端が円い棒状工具を使った径３㎜ほどの円形刺突文が２条施文されている。	帯状の区画内には撚が強いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-１	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
1557	連弧状の凸帯の貼り付けに沿って、先端の円い棒状工具が押し引かれている。		中期Ⅲｄ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1558	外面は連弧状の凸帯の貼り付けに沿って円形刺突文が１条施文されている。凸を挟んだもう一方の側には凸帯から間隔を置いて先端がＭ字状の工具を押し引いて曲線が描かれている。	外面には縄文が施文されているが原体の種類は不明。	中期Ⅲｄ		外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・チャート	不良	
1559	弧状に貼り付けられた凸帯の両側に、巻貝の頂部を使った円形刺突文が凸帯に沿ってそれぞれ１条ずつ施文されている。	凸帯から下には縄文が施文されているが特徴は不明。	中期Ⅲｄ	Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石	不良	
1560	外反する口縁には、端部近くに水平に貼り付けられた凸帯が水平方向に貼り付けられ、その下に貼り付けられた連弧状の凸帯とつなげられている。連弧状の凸帯の上部には、先端が平らな角柱状の工具が凸帯に沿って押し引かれている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	Ａ-２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1561	緩やかに内彎する口縁部にはＲＬ縄文の上から先端が円い棒状工具の押し引きによる連弧文が描かれている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を、端部から３cmほど下まで施文している。	中期Ⅲ	Ｔ-３	外面：10YR 3/3 暗褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1562	内彎する口縁は端部近くで外側に折り返され、端部内面に幅２cmほどの薄い粘土帯が貼り付けられている。内外面両面から指押さえが加えられている。外面全体と端部内面にはそれぞれＩ字刻みを加えたあと口縁に沿って上からＣ字刻みが加えられた凸帯を貼り付けて連弧文が描かれている。凸帯の片側には凸帯にそって刺突文列が残されている。		中期Ⅲ	Ｔ-１ Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英		
1563	緩やかに内彎する口縁は、端部から２cmほど下にＭ字状刺突を加えた低い凸帯を口縁に並行するように貼り付け、口縁に沿って帯状の区画を設けている。区画内は粘土を薄く貼り付けて肥厚させ、Ｉ字刺突文を施文した上から、口縁端部直下と凸帯に沿って径６ミリほどの円形刺突列をそれぞれ１条ずつ施文している。	口縁部は端部上面と内面にそれぞれＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅲａ	Ａ-１ Ｔ-１ Ｔ-２ Ｔ-３	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・チャート		
1564	内彎する口縁は端部近くで外側に折り返され、端部内面に幅２cmほどの薄い粘土帯が貼り付けられている。内外面両面から指押さえが加えられている。外面全体と端部内面にはそれぞれＩ字刻みを加えたあと口縁に沿って上からＣ字刻みが加えられた凸帯を貼り付けて連弧文が描かれている。凸帯の片側には凸帯にそって刺突列が残されている。		中期Ⅲ	Ｔ-１ Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（78）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1565	内彎する口縁は端部近くで外側に折り返されている。端部外面には幅２cmほどの薄い粘土帯を貼り付け貝殻背圧痕文が施文されている。粘土帯から下は１字刺突を加えたあとＭ字状工具により連弧文が描かれている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲ	A－1 A－2	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1566	直立する口縁は端部外面に幅２cmほどの粘土帯を貼り付けて段が設けられている。粘土帯上には巻貝の頂部を使った径５㎜ほどの円形刺突文列が口縁に並行するように１条施文されている。同じような刺突文は粘土帯下の頸部から体部にも縦あるいは斜め方向に施文されている。	口縁部外面及び端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	S－1 T－2 A－3	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	良好	
1567	軽く括れた頸部と、緩やかに外反する口縁を持った深鉢形土器は、口縁端部から１cmほど下に凸帯を口縁に並行するように貼り付け、凸帯と端部の間に巻貝の頂部を使った径３～４㎜ほどの円形刺突文列を１条施文している。口縁部の凸帯から緩やかに膨らむ体部に向かってＹ字状の凸帯を垂下させ、円形刺突文列を施している。	外面及び端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅲｄ	S－20 T－20 A－1 T－1	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	長石・結晶片岩	良好	
1568	緩やかに内彎する口縁は、外面に先端が円い棒状工具を使って列点状の刺突が施文されている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１．５cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英		
1569	緩やかに内彎する口縁は、外面に先端がＭ字状の工具を押し引いて弧線文と見られる曲線を描いている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から３cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	T－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩		
1570	ゆるやかに内彎する口縁は、端部内面に粘土帯を貼り付けて肥厚させている。外面には先端が円く仕上げられたヘラを押し引いて弧線文が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	T－2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1571	緩やかに内彎する口縁は、外面に巻貝の頂部を使った円形刺突文列で重弧文が描かれている。	口縁部内外面に節の長いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1572	緩やかに内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器で、頸部内面には稜が残されている。口縁部外面にはＭ字状工具を押し引いて連弧文が２条施文されている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅳａ	T－20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
1573	ゆるやかに内彎する口縁は、外面にヘラの角を使った刺突列で連弧状または鋸歯状の文様が描かれている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている	中期Ⅳａ		外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
1574	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に幅１．５cmほどの薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させ、わずかに外側に折り曲げられている。外面はヘラの角を使った刺突列で重弧文が描かれている。	口縁部外面と内面の粘土帯上に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。口縁端部外面にはループ状の縄末端の押捺が残されている。	中期Ⅳａ	B－5	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1575	緩やかに内彎する口縁は、端部上面にヘラで浅い刻み目が加えられている。外面は先端をＭ字状に加工したヘラを押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅳａ	A－2 T－2	外面：N 3/0 暗灰 内面：2.5Y 3/1 黒褐	石英・長石		
1576	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に指オサエが施され小さく波うっている。外面にはＭ字状工具が斜めに押し引かれている。	外面には撚が緩いＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	?	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英		
1577	緩やかに内彎する口縁は、端部が薄く仕上げられている。外面は口縁端部から２cmほど下に、Ｍ字状工具を使った刺突列が口縁に並行するように施文されている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	S－20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1578	緩やかに内彎する口縁部には、端部から１．５cmほど下に半截竹管を使ったと考えられるＣ字爪形文が１条、口縁に並行するように施文され、その下にはＭ字状工具を押し引いて弧線文（おそらく連弧文）が描かれている。	口縁部内外面と端部上面にはそれぞれＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	B－19	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1579	緩やかに内彎する口縁は、口縁端部から１cmほど下に先端が平らな角柱状の工具を押し引いて連弧状の文様が２条描かれている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１．５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石	不良	
1580	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、内彎する口縁端部から１cmほど下に先端が平らな角柱状の工具を押し引いて連弧状の文様が２条描かれている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１．５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	T－20	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（79）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1581	緩やかに内彎する口縁は、端部上面を内外面から指によって摘み上げ細かく波うっている。外面は端部直下にM字状工具を押し引いて直線と重弧文を組み合わせた幾何学文様が描かれている。	外面は地文に貝殻条痕が施文された可能性がある。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1582	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、内彎する口縁端部から１cmほど下にM字状工具を押し引いて波状または弧線状の文様が２条描かれている。	口縁部外面は地文に貝殻条痕が使用された可能性がある。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1583	緩やかに内彎する口縁は、端部外面にヘラの角を押し引いて弧線状の文様が描かれている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmたらずのところでナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1584	緩やかに内彎する口縁は端部内面に幅１cmほどの薄い粘土帯が貼り付けられている。端部上面にはヘラを使ったＶ字状の刻み目が施され、外面は端部直下にM字状工具が口縁に並行して押し引かれている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ａ－２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	頁岩		
1585	緩やかに内彎する口縁は、M字状工具を使った押し引きが２条、端部から２cmと３cmほど下に施文されている。	口縁部内外面と端部上面には撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－20	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1586	低い山形突起を持った波状口縁の深鉢形土器は、緩やかに内彎する口縁が端部近くで外側に軽く折り曲げられ、端部上面にはヘラ先を押しつけたような浅い刻み目が施文されている。外面は端部直下に先端が平坦な棒状工具を使った刺突列が口縁に沿って２条施文されている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1587	ゆるやかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯を貼り付け、わずかに上方に折り曲げられている。口縁端部上面にはヘラ先を使った斜めの浅い刻目が施され、外面には先端が円いヘラ先を使った列点状の刺突で弧線状の文様が描かれている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1588	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで上方に折り曲げられている。端部上面にはヘラ先で斜めの刻み目がはどこされ、外面にはM字状工具を押し引いて弧状文が描かれている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1589	ゆるやかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯を貼り付け、わずかに上方に折り曲げられている。口縁端部上面にはヘラ先を使ったＶ字状の刻み目が施され、外面には先端が円いヘラ先を使った列点状の刺突が２条施文されている。	口縁部外面と内面の粘土帯上に撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ－３	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1590	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を、わずかに外方に折り曲げている。端部上面にはM字状工具を使った浅い刻み目を施し、外面は端部から１cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面と内面の粘土帯上に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・チャート		
1591	緩やかに内彎する口縁は、内面に１．５cmほどの幅の薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を、わずかに上方に折り曲げている。外面はM字状工具を押し引いて弧状文を描いている。	口縁部内外面と端部上面には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1592	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を、わずかに上方に折り曲げている。外面は端部から２cmほど下にM字状工具を押し引いて弧状文を描いている。		中期Ⅳａ	Ｓ－１	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・砂岩		
1593	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで上方に軽く折り曲げられている。端部上面は円く仕上げられ、外面は端部から２cmほど下にM字状工具を押し引いて弧線文を描いている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ａ－２	外面：7.5YR 7/8 黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1594	緩やかに内彎する口縁は、端部近くでわずかに上方に折り曲げられている。端部上面はにぶく尖らされ、外面には先端がM字または叉状工具を押し引いて弧線文を描いている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ａ－５	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・チャート・結晶片岩		
1595	緩やかに内彎する口縁は、端部近くでわずかに上方に折り曲げられている。端部上面にはヘラ先を使った刻み目が施され、外面には細い棒状工具を押し引いて弧状文が描かれている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1596	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで軽く上方に折り曲げられている。口縁端部から１cmほど下にはM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。また、頸部との境付近にも同じ工具を押し引いて連弧文を描いている。	口縁部内外面と端部上面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（80）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1597	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで軽く上方に折り曲げられている。端部上面は平坦に仕上げられ、外面は先端が円いヘラ先を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部内外面と端部上面とも撚の緩いＬＲ縄文を施文している。内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ-20	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1598	ゆるやかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯が貼り付けられ、軽く上方に折り曲げられている。外面には棒状工具を使った刺突が加えられている。	口縁部内外面と端部上面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ-1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1599	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を、わずかに上方に折り曲げている。外面は端部から２cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面と内面の粘土帯上にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ-1 Ｔ-2	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1600	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を、上方に折り曲げている。外面は端部から３.５～４cmほど下にM字状工具を押し引いて連弧文を描いている。	口縁部内外面と端部上面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ-1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1601	緩やかに内彎する口縁は端部近くで上方に折り返されている。口縁端部上面は平坦に仕上げられヘラ先で時計回りの方向の刺突が施されている。外面は端部直下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	内外面とも撚が緩く節が長いＲＬ縄文を縦走させている。	中期Ⅳａ	Ａ-1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1602	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで上方に折り返されている。口縁端部上面は平坦に仕上げられヘラ先で刺突が施されている。外面は端部直下に字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部内外面と端部上面とも撚が緩く節が長いＲＬ縄文を縦走させている。	中期Ⅳａ					
1603	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで上方に折り返されている。端部上面にはヘラによる斜めの刻み目が施され、外面は端部から１cmほど下に細い棒状の工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部は内外面とも撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ-2	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1604	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を軽く上方に折り曲げている。口縁端部上面にはヘラ先で浅い刻み目を施し、外面は端部直下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面と内面の粘土帯上には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ-2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1605	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を軽く上方に折り曲げている。口縁端部上面にはヘラ先で浅い刻み目を施し、外面は端部直下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面と内面の粘土帯上には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ-2	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1606	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部を軽く上方に折り曲げている。口縁部外面には端部から１.５cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。口縁端部内面には指オサエが行われた可能性がある。	口縁部外面と内面の粘土帯上には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ-6	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1607	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に先端が円味をおびたヘラ先を口縁に並行するように押し引いている。	内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｂ-6	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1608	直立する口縁は、薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた口縁端部から２cmほど下に、M字状工具を口縁に並行するように押し引き、その下に同じ施文具を使って弧線文を描いている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ-2	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1609	直立する口縁は外面にM字状工具を押し引いて弧状文を描いている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｂ-6	外面：10YR 8/4 浅黄橙 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1610	直立する口縁は、端部上面にヘラを使った刻み目が施されている。外面は端部から１.５cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から３cm以上にわたって施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ-3	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・チャート		
1611	直立する口縁は、端部上面にヘラで刻み目が加えられ、外面は端部から２cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ-2	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英		
1612	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、直立する口縁の端部上面にヘラ先で刻み目を施し、外面は端部から１.５cmほど下にM字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ-2	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/6 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1613	直立する口縁は、外面の口縁端部直下につM字状工具を押し引いて連弧文を描いている。	口縁部は外面にＬＲ、内面にＲＬと撚の方向の異なる縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ-5	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・チャート		
1614	直立する口縁は端部外面に半截竹管または先端が平らな棒状工具を押し引いて連弧状の文様を描いている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ-1	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（81）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1615	直立する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、外面は端部直下に半截竹管または端部が平らな棒状工具を押し引いた直線が口縁に並行して２条引かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ－６	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1616	緩やかに内彎する口縁は、内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた端部外面に、２枚貝の放射肋を口縁に並行するように２条押し引いている。		中期Ⅳａ	Ａ－２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1617	直立する口縁は、端部外面にＭ字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面と端部上面にそれぞれ撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ－３	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1618	直立する口縁は、端部外面にＭ字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：2.5Y 6/3 にぶい黄 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
1619	直立する口縁は、端部上面に浅い刻み目が施され、外面は端部付近に列点状の刺突文が２条施文されている。	口縁部外面には撚が緩く長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｓ－１	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・結晶片岩・砂岩・チャート		
1620	直立する口縁は、端部外面に先端が円い棒状工具を押し引いた鋸歯状文が描かれている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ａ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1621	直立する口縁は、端部上面が平坦に仕上げられ、外面は端部直下に半截竹管を使ったＣ字形爪形文を１条、口縁に並行するように施文している。	口縁部内外面とも撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２．５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒		
1622	直立する口縁は、端部内面に指頭圧痕が残されている。	外面には斜行するＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－４	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1623	直立する口縁は、端部内面に指頭圧痕が残されている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から２cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ａ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1624	直立する口縁は、端部内面に指頭圧痕が残されている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から２cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－６	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1625	直立する口縁は、端部が薄く仕上げられ、内側と外側から交互に加えられた指オサエによって小さく波打っている。外面は端部から１cmほど下に、Ｍ字状工具を押し引いた口縁と並行する直線が施文されているが、その下に同じ施文具を斜めに押し引いた直線と組み合わせて直線的な幾何学文様が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－４	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英		
1626	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラを使ったＶ字状の刻み目が施され、外面は端部から２cmほど下にＭ字状工具を口縁に並行するように押し引いている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から３cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｓ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1627	緩やかに外反する口縁は、端部上面にＭ字状工具を使った連続する時計回りの方向の刺突が加えられている。外面にはＭ字状工具が斜めに押し引かれている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２．５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｓ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1628	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラを使った斜めの刻み目が施されている。外面は端部から２．５cmほど下に先端を円く加工したヘラ状施文具を口縁に並行するように押し引いている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。端部近くには縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1629	緩やかに外反する口縁は、外面の端部直下にＭ字状工具を斜めに押し引いている。	口縁端部及び内外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ａ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1630	緩やかに外反する口縁は、外面の端部直下に細い棒状工具の先端を押し引いて弧線文を描いている。	口縁部外面には撚が強いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1631	緩やかに外反する口縁は、端部上面が小さく波うち、外面はＭ字状工具を斜めに押し引いている。	口縁部外面と端部上面にはそれぞれ撚が緩く節が長いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－２	外面：10YR 4/4 褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1632	低い山形突起を持った波状口縁の深鉢形土器は、Ｍ字状工具を口縁に沿ってし押し引いている。		中期Ⅳａ	Ｂ－19	外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 7/1 灰白	砂岩・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（82）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1633	緩やかに内彎する口縁は、端部がわずかに上方に折り曲げられ、外面には幅１cmほどの断面三角形の凸帯が張り付けられている。また端部から３cmほど下には別の細い凸帯も貼り付けられている	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文が施文されている。口縁端部の凸帯の直下には縄末端部の圧痕が残されいる。	中期Ⅳｂ	不明	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石		
1634	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯が貼り付けられわずかに上方に折り返されている。外面は端部に幅１cmほどの断面三角形の凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面と内面の粘土帯上には撚が緩く節が長いＲＬ縄文が施文されている。口縁端部の凸帯の直下には縄末端部の圧痕が残されいる。	中期Ⅳｂ	B－19	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1635	緩やかに内彎する口縁は、端部上面がにぶく尖らされ、外面は端部近くに幅１cmほどの断面三角形の凸帯を貼り付けている。凸帯の下にはＣ字爪形文を押し引いて弧線状の文様が描かれている。	口縁部内外面は凸帯上も含めて撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	A－3	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩	不良	
1636	緩やかに内彎する口縁は端部外面に幅１cmほどの断面三角形の凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英	不良	
1637	緩やかに内彎する口縁は端部外面に幅１～１，５cmほどの断面三角形の凸帯を貼り付けている。端部上面にはヘラ先を使った斜めの刻み目を施している。	口縁部内外面は凸帯上も含めて撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1638	緩やかに内彎する口縁は端部がわずかに上方に折り曲げられ、外面に幅１cmほどの断面三角形の凸帯を貼り付けている。端部上面にはヘラ先を使った斜めの刻み目を施している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1639	緩やかに内彎する口縁は端部がわずかに上方に折り曲げられ、外面に幅１cmほどの断面三角形の凸帯を貼り付けている。端部上面にはヘラ先を使った斜めの刻み目を施している。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1640	緩やかに内彎する口縁は、端部が軽く上方に折り曲げられ、外面に幅１cmほどの凸帯を貼り付けている。端部上面はヘラで斜めの刻み目が施され、外面にはヘラを使った押し引きを上から加えた弧状の凸帯を貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１，５cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	S－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1641	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで軽く上方に折り曲げられ、外面に幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けている。端部上面にはヘラ先を使用した斜めの長い刻み目を施している。口縁の粘土帯の下にはヘラの角を使用した三角形の刺突文を粘土帯に沿って押し引いている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1642	緩やかに内彎する口縁は、端部ちかくで軽く上方に折り曲げられ外面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付けている。口縁端部上面はヘラ先で短い刻み目を施し、外面は粘土帯の下にヘラの角を使った三角形の刺突文を、粘土帯に沿って押し引いている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1643	緩やかに内彎する口縁は端部が軽く上方に折り曲げられ、外面には幅１．２cmほどの粘土帯を貼り付けている。口縁端部上面はヘラを使った短い刻み目を施し、外面の粘土帯上には貝殻背圧痕文が施文されている。粘土帯の下にはM字状工具を粘土帯に沿って押し引いている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から３cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳｂ	A－1	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1644	緩やかに内彎する口縁は、端部ちかくで軽く上方に折り曲げられ外面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付けている。口縁端部上面はヘラ先で短い刻み目を施し、外面は粘土帯の下にヘラの角を使った三角形の刺突文を、粘土帯に沿って押し引いている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1645	端部上面が平坦に仕上げられた口縁は端部外面に薄い粘土帯を貼り付けて低い段が付けられ、縄文が施文されている。		中期Ⅳｂ	T－2	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石		
1646	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に幅１，５cmほどの粘土帯を貼り付けている。端部上面はヘラ先で斜めの刻み目を施している。	口縁部外面の粘土帯上には撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、粘土帯の下は無文のまま残されている。内面にも縄文が施文されているが端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	S－1	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1647	口縁端部外面には幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けている。	口縁部内外面と端部上面には撚の緩いＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は端部から１，５cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｂ	T－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1648	内彎する口縁は端部上面にヘラ先で刻目を加え、外面には幅広の凸帯を貼り付けている。		中期Ⅳｂ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・結晶片岩	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（83）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1649	緩やかに内彎する口縁は、端部外面にヘラで刻み目が施された幅１．５cmほど薄い粘土帯を貼り付けて低い段が設けられている。段の下にはヘラ状工具の端を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部内外面及には撚が緩い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・チャート		
1650	緩やかに内彎する口縁は、端部外面にヘラ先による刻み目を施した幅１．５cmほどの薄い粘土帯を貼り付けて低い段が設けられている。口縁端部上面はヘラ先でＶ字状の刻み目が施されている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－２	外面：2.5Y 7/3 浅黄 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・結晶片岩・チャート		
1651	口縁部は端部外面に薄い粘土帯を貼り付け上からヘラ先で刻んでいる		中期Ⅳｂ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
1652	口縁は端部外面に粘土帯を貼り付けて段が設けられ縄文が施文されている。		中期Ⅳｂ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1653			中期Ⅳｂ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石		
1654	口縁部外面に縄文が付けられる		中期Ⅳｂ	Ａ－２	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1655	縄文のみの口縁部		中期Ⅳｂ	Ａ－３	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1656	直立する口縁はヘラ先による刻み目がつけられた端部直下に幅１cmほどの帯状の粘土を貼り付けて段が設けられている。段の下には先端の円いヘラの刺突列で直線が描かれている。口縁部内面には縄文の代わりに幅広のヘラによる刺突列が付けられている。	口縁部外面にはＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｂ	Ｔ－５	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1657	緩やかに外反する口縁は端部外面にヘラ先による刻み目が施された幅１cmほどの凸帯が貼り付けられている。口縁部外面にはＭ字状工具による押し引きで弧線文が描かれている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｂ－19	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		
1658	緩やかに外反する口縁は端部直下に幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けて段を設けている。段の下にはＭ字状工具による押し引きで文様が描かれている。	口縁端部及び内面、外面の段上に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｓ－４	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1659	直立する口縁は、端部外面に幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けて段を設けている。この粘土帯の下にはヘラ先による刻み目が加えられた凸帯が斜め下方にむかってのびている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1660	緩やかに外反する口縁は、端部外面に幅１cmほどの粘土帯を貼り付けて低い段を設けている。粘土帯の下にはヘラによる刻み目が施された低い凸帯を垂下させ、先端がΣ状に分かれた施文具を押し引いて描かれた鋸歯状文と繋げられている。	内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ａ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1661	緩やかに外反する口縁は、端部外面に幅２cmほどの粘土帯を貼り付けて低い段を設けている。粘土帯の下にはＭ字状工具の刺突で鋸歯状文が描かれている。平坦に仕上げられた口縁端部にはヘラ先による刻み目が施されている。	口縁部外面には節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－２	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1662	緩やかに外反する口縁は、上面にヘラによる刻み目を加えた端部から１．５cmほど下に断面三角形の低い凸帯が貼り付けられている。口縁端部から凸帯までの間は無文のまま残されているが凸帯の下にはＭ字状工具が凸帯に沿って押し引かれている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
1663	緩やかに外反する口縁は、端部外面に幅２cmほど薄い粘土帯を貼り付けて低い段が設けられ、段の直下には先端がＣ字状に加工された工具を押し引いて直線が描かれている。	口縁部内外面と端部には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－２ Ａ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英	不良	
1664	緩やかに外反する口縁は、端部外面に幅２cmほどの薄い粘土帯を貼り付けて低い段が設けられ、段の直下には先端がＣ字状に加工された工具を押し引いて直線が描かれている。	口縁部内外面と端部には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ－２ Ａ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英	不良	
1665	直立する口縁は、端部外面に幅１cmほどの凸帯を貼り付け、端部上面からこの凸帯にかけてＭ字状の刺突列を２条施文している。	口縁部外面と端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｂ－５	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（84）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1666	直立する口縁は、端部外面に幅１cmほどの凸帯を貼り付け、端部上面からこの凸帯にかけてM字状の刺突列を２条施文している。	口縁部外面と端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ-５	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英		
1667	直立する口縁は内外面に粘土を貼り付けて端部を肥厚させ、上面と外面直下にそれぞれヘラ先を使ったＶ字状の刻み目が付けられている。	口縁部外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1668	直立する口縁は、端部外面直下に凸帯を口縁に沿って貼り付け、その下に別の凸帯を縦に貼り付けている。の下には凸帯に沿ってM字状工具が押し引かれている。同じ様な押し引きが施された凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｓ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・砂岩	不良	
1669	直立する口縁は、端部外面直下にＣ字爪形文を連続して施文する凸帯を貼り付けている。凸帯の下には地文の縄文の上から先端が円い棒状施文具、またはコ状施文具を押し引いて弧状文が描かれている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文が施文され、	中期Ⅳｂ	Ｓ-１	外面：10YR 3/2 黒褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英		
1670	口縁端部外面に貝殻背圧痕文が施文された粘土帯を口縁に沿って貼り付けている。	口縁部内外面とも撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ-２	外面：2.5Y 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1671	山形突起を付けた波状口縁の土器は、口縁端部外面に凸帯を貼り付け、口縁端部と凸帯の間には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1672	直立する口縁は端部から１cm足らずのところにヘラ先を使って刻み目を付けた凸帯が、口縁と並行するように貼り付けられている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1673	内彎する口縁は、端部外面に断面三角形の凸帯を口縁に並行して貼り付け、口縁端部と凸帯の間には貝殻背圧痕文を連続して施文している。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：2.5Y 7/2 灰黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1674	内彎する口縁は端部外面に凸帯を口縁に並行して貼り付け、口縁端部と凸帯の間には貝殻背圧痕文を連続して施文している。凸帯の下は縄文が施文されているが、２cmほど下には何かを押し引いた痕跡がある。	外面は節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1675	内彎する口縁は端部近くをわずかに上方に折り曲げ、外面に凸帯を貼り付けて端部を肥厚させている。凸帯上には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1676	内彎する口縁は端部近くでわずかに外側に折り返され、外面に幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けて端部を肥厚させている。端部上面にはヘラを使った連続する刻み目が施され、粘土帯上には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。また、端部から２．５cmほど下にはM字状の刻み目を施した凸帯が口縁に並行するように貼り付けられている。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・チャート		
1677	内彎する口縁は、端部上面にヘラ先を使った刻み目を加え、外面には、上から貝殻背圧痕文を連続して施文した幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けている。	口縁部内外面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。外面の凸帯の下には縄末端のループ文が残されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1678	内彎する口縁は、端部外面に貼り付けられた断面三角形の凸帯と、口縁端部との間のに先端が四角い棒状工具を使った刺突列が残されている。また、凸帯と頸部の屈曲部との間には口縁端部と同じ断面三角形の凸帯を貼り付けて、連弧状の文様を描き、ヘラ先による刺突列が凸帯に沿ってつけられている。		中期Ⅳｃ	Ａ-２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1679	直立する口縁は、端部外面に上から貝殻背圧痕文を連続して施文した幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けている。粘土帯の下には先が円い棒状工具を押し引いて鋸歯状の文様が描かれている。	内面には撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ａ-６	外面：7.5YR 8/8 黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1680	直立するする口縁は、端部外面に貝殻背圧痕文を連続して施文した低い凸帯を貼り付けている、。凸帯の下には先端が叉状に分かれた工具を押し引いて鋸歯状の文様が描かれている。		中期Ⅳｃ	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
1681	直立する口縁は、端部外面に上から貝殻背圧痕文を連続して施文した凸帯が口縁に沿って貼り付けられている。	外面には長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（85）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1682	小突起を付けた直立する口縁は、外面の突起の下に凸帯を縦に貼り付け、端部から１cm足らずのところに口縁と並行するように貼り付けた凸帯とつなげられている。凸帯と口縁端部との間には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・結晶片岩		
1683	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで外側に折り返されている。口縁端部から１．５cmほど下には口縁に並行するように凸帯が貼り付けられ、口縁端部との間には連続する貝殻背圧痕文が施文されている。また、凸帯の下にはM字状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1684	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで外側に折り返されている。口縁端部外面には幅２cmほどの粘土帯が貼り付けられ、上から連続して貝殻背圧痕文が施文されている。凸帯の下には薄い粘土帯を貼り付けた上に、ヘラ先を使った連続する刺突が施文されている。	口縁部内外面にはＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1685	緩やかに内彎する口縁は端部近くで外側に折り返され、端部内面には指オサエが加えられている。ヘラ先を使った刻み目が施された口縁端部から２cmほど下に粘土帯が口縁に並行して貼り付けられ、口縁端部との間に連続する貝殻背圧痕文が施文されている。凸帯の下には先端がM字状の工具を押し引いて鋸歯状或いは連弧状の文様が描かれている。	内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1686	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで外側に折り曲げられ、端部上面を表裏両面から指によって摘み上げている。口縁端部から２cmほど下の屈曲部には粘土帯を貼り付け、貝殻背圧痕文を連続して施文している。粘土帯の下には棒状施文具を押し引いて弧状文を描いている。	口縁部は内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1687	口縁部外面に断面三角形の粘土帯を貼り付け、その上に貝殻背圧痕文を施文している。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
1688	口縁端部は外反し、端部から１cmほど下の縄文はナデ消され貝殻背圧痕文を施文している。	内外面とも縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1689	外反する口縁は端部から２cmほど下に断面三角形の凸帯を貼り付け、口縁端部と凸帯との間には貝殻背圧痕文を連続して施文している。さらに凸帯直下にも刺突文を連続して施文している。		中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1690	外反する口縁は端部から２ほど下に粘土帯を貼り付け、粘土帯の上には貝殻背圧痕文を連続して施文している。粘土帯直下には先端が円い棒状工具を粘土帯に沿って押し引いている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｃ	Ｓ-１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1691	直立する口縁は、端部外面直下に上から貝殻背圧痕文を連続して施文した幅１．５cmほどの粘土帯を貼り付けている。この粘土帯の下にはヘラ先を使った刻み目を加えた低い凸帯を縦に貼り付け、M字状工具を押し引いて鋸歯状、または連弧状の文様を描いている。平坦に仕上げられた口縁端部上面にはヘラによる刻み目が施されている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ａ-19	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石		
1692	緩やかに外反する口縁は、端部直下に貝殻背圧痕文を連続して施文した粘土帯が口縁に並行するように貼り付けられている。粘土帯の下にはM字状工具を押し引いて弧状文と思われる文様が描かれている。	口縁部外面には比較的撚が強いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1693	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで軽く上方に折り曲げられ、端部外面には幅１．５cmほどの薄い帯状の粘土が貼り付けられている。粘土帯には内外面から指オサエが加えられ端部が小さく波打っている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	不明	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・砂岩		
1694	内彎する口縁は、端部近くで軽く上方に折り曲げられ、端部外面には幅１．５cmほどの粘土帯が貼り付けられている。粘土帯には内外面から指オサエが加えられ端部が小さく波打っている。	口縁部外面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ａ-１	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1695	直立する口縁は、端部外面に幅１．５cmほどの粘土帯が貼り付けられている。粘土帯は内外面から指オサエが加えられ端部が小さく波打っている。	口縁部内外面には撚が緩く細長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文範囲は端部から４cmほどと広い。	中期Ⅳｃ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1696	直立する口縁は指オサエによって小さく波打つ口縁端部から１cmほど下にM字状工具を使った連続刺突を施した凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。		中期Ⅳｃ	Ｔ-１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（86）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1697	緩やかに内彎する口縁は端部近くで軽く外側に折り返され、端部外面には、ヘラ先を使ったＩ字、または条線状の刻み目が施された幅２cmほどの粘土帯が貼り付けられている。粘土帯の下には先端が円い棒状工具を使った径２㎜ほどの円形刺突文が粘土帯と並行して施文されている。	内外面とも撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｃ	Ｔ-３	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・チャート		
1698	緩やかに内彎する口縁は、端部近くでわずかに外反している。口縁部外面にはM字状工具を押し引いて弧線文が描かれている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は口縁端部近くを残してナデ消されている。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1699	内彎する口縁は、M字状工具の刺突を連続して加え、交差するように弧線文が描かれている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-３	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・チャート		
1700	内彎する口縁は、ヘラによる刻み目を加えた凸帯を縦に貼り付けM字状工具を押し引いて描いた連弧文とつなげられている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ｒ-19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1701	頸部の屈曲部近くに、先端が尖らされた工具による刺突列で弧線文を描いている。	外面にはＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-１	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 6/6 橙	石英・長石・砂岩		
1702	内彎する口縁は、M字状工具を押し引いて幾何学文様を描いている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-１	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1703	M字状工具を押し引いて弧線文を描いている。	地文にはＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1704	外面はM字状工具を押し引いて重弧文を描いている。	外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ａ-１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1705	内彎する口縁は、M字状工具を押し引いて弧線文を描いている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1706	直立する口縁は、外面に先端をM字状に加工した工具を口縁に並行して押し引き、斜め方向に引いた直線と交差させている。	内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	不明	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
1707	M字状工具を押し引いて幾何学文様を描いている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ａ-18	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1708	地文の縄文の上にＣ字爪形文を押し引いて鋸歯状文が描かれている。		中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1709	ヘラ先の角を押し引いて弧状文を描いている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1710	外面にはM字状工具を押し引いて弧線文を描いている。	外面にはＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石		
1711	緩やかに内彎する口縁は端部が円く仕上げられ外面には円形刺突文列が一列施文されている。	外面には縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ	Ｔ-５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英		
1712	頸部の括れが小さい深鉢形土器は、口縁部にM字状工具を水平に押し引いて直線を描き、体部に押し引かれた縦の直線と交差している。	がお面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	Ａ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/4 浅黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1713	M字状工具を押し引いて連弧文が描かれれている。	外面は節の長いＲＬ縄文ＲＬ縄文。	中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・チャート		
1714	体部外面にはM字状工具を並行するように２条押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文され	中期Ⅳｂ	Ｂ-19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
1715	緩やかに外反する口縁は、外面にM字状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部は内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	不明	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英		
1716			中期Ⅳ a．b．c	Ｔ-１ Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（87）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1717	ヘラ先を押し引いて直線や弧線文などの文様が描かれている。	撚の緩いいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1718	ヘラの角を使用した連続刺突で環状の文様が描かれている。	地文には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1719	緩やかに膨らむ体部にはM字状工具を押し引いて環状の文様が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	A-1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1720	外面には先端が円い棒状の施文具を押し引いて列点状の直線が描かれている。	外面にはＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1721	先端をMまたはV字状に加工したヘラ先を押し引いて直線が引かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	A-1	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1722	口縁部外面にM字状工具を押し引いて弧線文が描かれている。	内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	A-1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1723	外面にはM字状工具を押し引いて直線が描かれている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1724	M字状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：5YR 6/3 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1725	緩やかに膨らむ体部にはM字状工具を押し引いて垂下する直線が描かれている。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	B-1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 3/1 黒褐	石英		
1726	体部上半には先端が円い棒状工具を押し引いて重弧文が描かれている。	外面の縄文は部分的にナデ消されている。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1727	外面にはM字状工具を押し引いて曲線が描かれている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：7.5YR 6/2 灰褐 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1728	先端がM字状に分かれたヘラ先を押し引いて弧状文が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1729	膨らみが小さい体部には、先端をU字またはM字状に加工したヘラ先を押し引いて直線が引かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1730	先端をU字またはM字状に加工したヘラ先を押し引いて垂下する曲線が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/3 浅黄橙	石英・長石		
1731	ヘラ先を押し引いて連弧文が描かれている。		中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1732	筒状の体部には、先端が円いヘラを使った刻み目と押し引きが加えられている。	節の長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-1	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1733	外面にはヘラ先で間隔をあけた刺突が加えられている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	S-1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1734	幅１．５cmほどの大型のＣ字爪形文列が水平に施文されている。	外面には撚の強いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：10YR 4/4 褐 内面：10YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1735	緩やかに外反する体部は、先端が円いヘラを水平に押し引いている。	地文に撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	A-2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1736	弱い屈曲部を挟んで片側には縄文が施文されているが、もう片方は丁寧なナデ調整の上から細い棒状施文具を押し引いて弧線文が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳ a．b．c	T-2	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（88）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1737	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部から１．５cmほど下にヘラ先による刺突を加えた凸帯を口縁に並行するように貼り付けている。同様の刻み目は口縁端部にも加えられている。	口縁部内外面には撚の緩いＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部直下を残してハケ状工具のような物でナデ消されている。	中期Ⅳｄ	S－20	外面：7.5YR 6/2 灰褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・チャート・結晶片岩・赤色斑粒		
1738	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、口縁部外面にヘラによる刻み目を加えた断面三角形の凸帯が、端部から２cmほど下に口縁に並行して貼り付けられている。	口縁部内外面には撚が緩いＬＲ縄文が施文されているが内面の縄文は端部から１cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1739	緩やかに内彎する口縁は端部近くの内面に薄い帯状の粘土が貼り付けられ上方に折り返されている。外面にはヘラによるＶ字形の深い刻み目が加えられた弧状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部外面にはＲＬ、内面にはＬＲと異なる撚の縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部でナデ消されている。その他にも内面には先端が円いヘラ状施文具による連続する刺突が加えられている。		T－2	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1740	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯が貼り付けられ、外側に軽く折り曲げられている。外面は端部から１cmほど下に低い凸帯が貼り付けられ、刻み目を施した端部と凸帯の間には貝殻背圧痕文を連続して施文している。凸帯の下にはM字状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部外面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	S－1	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英		
1741	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯が貼り付けられ、外側に軽く折り曲げられている。外面は端部から１．５cmほど下に上からＤ字状爪形文または叉状工具を押し引いた低い凸帯が貼り付けられている。	口縁端部及び内外面にＲＬ縄文。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1742	端部に施文具を押しつけたような刻み目が加えられた緩やかな波状口縁を持った土器。口縁端部から離れた位置に刻み目が加えられた低い凸帯が貼り付けられている。	内面はＲＬ縄文を施文後ナデ調整が施されている。 口縁部外面及び端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	T－3	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・チャート		
1743	内彎する口縁は、端部近くでわずかに外側に折り返されている。外面は口縁端部から１．５cmほど下に、上からヘラで刻み目を付けた凸帯が口縁と並行に貼り付けられているが、凸帯と口縁端部との間は無文のまま残されている。	口縁部内面にはＲＬ縄文が施文されているが、屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	T－1	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1744	大形の山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面を内外方に拡張しヘラ先で刻み目を加えている。突起の頂部は円く窪んでいる。外面には上からヘラを使った浅い刻み目を施した低い凸帯を貼り付け、凸帯の間は丁寧なナデ調整を加えている。	突起内面の拡張部にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1745	大形の山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁部外面に上からヘラでＶ字状の刻み目を施した凸帯を交差するように貼り付け、口縁端部に貼り付けられた凸帯とつなげられて幾何学文様を描いている。また、凸帯の間は丁寧なナデ調整が加えられている。	口縁部内面には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	A－3	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1746	大形の山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、内彎する口縁を端部近くで外側に折り返し、外面に凸帯を貼り付けて肥厚させている。同じような凸帯は口縁部外面にも貼り付けている。	口縁部内面とも撚の緩いＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1747	緩やかに内彎する口縁は、断面三角形の凸帯が貼り付けられヘラを使った刻み目が加えられている。口縁端部にも同様の凸帯が貼り付けられ凸帯のまわりはナデ調整が加えられている。	口縁部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	T－5	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1748	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、内彎する口縁が端部近くでわずかに外反している。端部には粘土を貼り付けて肥厚し、端部から１．５cmほど下には細い粘土の凸帯が貼り付けられている。	地文に撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	T－20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1749	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯を貼り付け外側に折り曲げられている。外面は、上からヘラで刻み目を施した凸帯を弧状に貼り付け、縄文の代わりにヘラを使用した刺突が連続して施文されている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	A－1	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・チャート		
1750	内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯を貼り付け外側に折り曲げられている。口縁は端部上面にヘラを使った刻み目が加えられ、端部から１cmほど下には、同じヘラの刻み目を持った凸帯が口縁と並行に貼り付けられている。また、凸帯の下にはM字状工具を使った連続する刺突が体部に向かってのびている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1751	直立する口縁は、ヘラを使った刻み目を加えた端部から１cmほど下にヘラを使った刻み目を施した凸帯が、口縁と並行に貼り付けられている。	口縁部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（89）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1752	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで外側に折り曲げられている。口縁は端部上面にヘラを使った刻み目が加えられ、端部から５㎜ほど下には、同じヘラによる刻み目を持った凸帯が口縁と並行に貼り付けられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ		外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1753	直立する口縁は、端部上面にヘラで刻み目を加え、外面は端部から５㎜ほど下にヘラで刻み目を施文した凸帯が口縁と並行して貼り付けられている。また、凸帯の下にはヘラを押し引いて弧線文を描いた痕跡がある。	口縁端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：5YR 5/3 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1754	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラで刻み目を加え、外面は端部から１cmほど下に端部上面と同様の刻み目を施した凸帯が口縁と並行して貼り付けられ、端部との間のわずかな空間には棒状工具の先端を使用した列点文が施文されている。凸帯の下には同じ棒状工具を押し引いた直線が下方に向かって延びている。	口縁部内外面には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－３	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1755	緩やかに外反する口縁は、端部から１．５cmほど下にヘラによる刻み目を持った凸帯が口縁に並行して貼り付けられている。凸帯の下にはＭ字状工具により連続する刺突が加えられている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1756	緩やかに内彎する口縁は、連続する逆Ｃ字形爪形文を施文した凸帯を貼り付けて連弧状文が描かれている。	縦走するＲＬ縄文は口縁端部と内面にも施文されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 5/6 黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1757	直立する口縁は、端部から１．５cmほど下で縄文がナデ消され、ヘラ先による刻み目が施された幅の狭い連弧状の凸帯が貼り付けられている。	口縁部内外面には撚の緩いＲＬ縄文が付けられているが内面の縄文は端部から１．５cmほどの範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅳｄ	Ｃ－２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1758	直立する口縁は、端部から１cmほど下にヘラ先による刻目を加えた凸帯を水平に貼り付けている。同様の刻み目は平坦な口縁端部にも付けられている。	口縁部外面には地文としてＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1759	直立する口縁は、端部上面にヘラで刻み目が加えられ、外面は端部から５㎜ほど下にヘラでＣ字状の刺突を加えた低い凸帯を口縁に並行して貼り付けている。	外面には地文にＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1760	直立する口縁は、端部上面に浅い刻み目が加えられ、外面は端部から１cmほど下にヘラでＶ字状の刻み目を加えた凸帯が水平に貼り付けられている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、外面は凸帯以下の縄文が消されている	中期Ⅳｄ	Ｔ－３	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1761	直立する口縁は、端部上面を平坦に仕上げ、外面は端部からやや離れた位置にヘラでＶ字状の刻み目を施した凸帯が貼り付けられている。	内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面は端部から５㎜ほどを残して、外面は凸帯以下の縄文がそれぞれナデ消されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・赤色斑粒		
1762	直立する口縁は、端部上面にヘラで刻み目を施し、外面は端部から２cmほど下に幅の広いヘラを使った刻み目を施した断面三角形の低い凸帯を貼り付けている。		中期Ⅳｄ	Ｓ－20	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
1763	直立する口縁は、端部外面にヘラによる刻み目を加えた低い凸帯を貼り付けている。	口縁端部および内外面には撚が緩く長い節を持ったＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1764	直立する口縁は、端部上面にヘラでＶ字状の刻み目が施され、外面は端部直下に同じような刻み目を加えた低い凸帯を、口縁に並行するように貼り付けている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1765	口縁端部外面には断面三角形の凸帯が貼り付けられている。		中期Ⅳｄ	Ｔ－４	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1766	直立する口縁は、端部上面を薄く仕上げ、外面は端部から１cmほど下に凸帯を水平に貼り付けている。	口縁部外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を凸帯の下から施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR5/6 明褐 内面：7.5YR5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1567	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部外面に幅１cmから１．５cmほどの低い粘土帯を貼り付け、ヘラを使った縦方向の刻み目を加えている。また、これとは別に山形突起の下にはヘラによる刻み目が施された凸帯が体部に向かって延びている。	口縁部外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1768	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部外面に凸帯を貼り付けて拡張し、上面にヘラを使った斜めの刻み目を加えている。また、これとは別に山形突起の下には半截竹管を施文した凸帯が縦に貼り付けられ、途中で左右に枝分かれしている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ-3	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（90）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1769	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、ヘラを使ったＶ字状の刻み目を施した凸帯を突起の頂部から貼り付けている。	口縁部内外面ともＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部近くを残してなで消されている	中期Ⅳｄ	Ａ－１	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1770	直立する口縁は、端部直下にヘラを使った刻目を加えた低い凸帯を縦と斜めに貼り付け、部分的に凸帯に沿って棒状工具を押し引いている。	外面には撚りが緩く節の長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1771	円孔が穿たれた山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部上面にヘラ先で連続する斜めの刻み目を加えている。外面は端部直下に低い凸帯を貼り付け、部分的にヘラで刺突を施している。また、突起部の円孔の周囲には、両側に連続する刺突を施した凸帯を貼り付けている。	突起部内面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1772	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、端部外面にヘラで刻み目を施した低い凸帯が口縁に並行、または垂下するように貼り付けられている。凸帯の下には円い棒状工具を使った押し引きが凸帯に沿って残されている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、内面の縄文は屈曲部を境にナデ消されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1773	波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部から１cmほど下にヘラを使った刻み目を施した断面三角形の凸帯を貼り付けている。	口縁の端部と内面にＲＬ縄文が付けられている。	中期Ⅳｄ	Ｓ－20	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート	不良	
1774	緩やかに外反する口縁は端部上面にヘラを使った刻み目を施し、外面は同じヘラ先による刻み目が施された凸帯を貼り付けて曲線を描いている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｂ－19	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・チャート	不良	
1775	直立する口縁は、端部外面に幅１cmほどの凸帯を貼り付け、ヘラ先を使って連続する刻み目を施している。	口縁端部内面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－３	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1776	直立する口縁は、端部上面に時計回りの方向にＣ字爪形文を連続して刺突している。外面は、端部直下に同じＣ字爪形文列を口縁に沿って施文し、口縁に縦に貼り付けた凸帯と交差させている。	口縁部は内外面とも撚が細かく節の短いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｂ－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石・結晶片岩		
1777	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁部外面の端部直下と、端部から２．５cmほど下に、それぞれヘラ先を使った刻み目を施す低い凸帯を、口縁に並行するように貼り付けている。	口縁端部内面には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 5/6 黄褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1778	緩やかに外反する口縁っを持った深鉢形土器は、外面に加えられた指オサエで端部上面が小さく波打っている。端部から２cmほど下にはM字状工具を使った刺突列を施した凸帯が水平に貼り付けられている。	口縁部内外面とも無節のｌｒ縄文がそれぞれ施文されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ－５	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		
1779	緩やかに外反する口縁は、端部から２cmほど下に先端がM字状工具を使った刻み目を施した凸帯を水平に貼り付けている。口縁端部と凸帯の間はナデ調整が加えられ貝殻背圧痕文を凸帯に沿って施文している。	内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。内面の施文幅は広い。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石	不良	
1780	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は外反する口縁端部上面にヘラを使った刻み目を施し、外面は端部から２cmほど下に先端がM字状の工具を使った刻み目を施した凸帯を、水平に貼り付けている。口縁端部と凸帯の間はナデ調整が加えられ貝殻背圧痕文を凸帯に沿って施文している。	内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は５cm以上と広い。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート	不良	
1781	山形の小突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、突起の下に半截竹管を使ったM字状の刺突列を施した凸帯を縦に貼り付けている。	外面には撚が強く短い節を持ったＲＬ縄文が施文された	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
1782	直立する口縁は、端部から２cmほど下にＣ字爪形文による結節隆帯を口縁と並行して貼り付けている。	口縁部内外面にはＬＲ縄文が施文されているが、内面の縄文は端部直下でほとんどナデ消されている。	中期Ⅳｄ	Ｂ－６	外面：7.5YR 8/6 浅黄橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1783	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、内彎する口縁端部上面を円く仕上げヘラ先を使った刻み目が施されている。外面は低い凸帯を貼り付け、半截竹管状の工具で刺突を加えている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1784	内彎する口縁部から小さく括れた頸部にかけて、ヘラを使った刻み目を施した連弧状の凸帯が貼り付けられている。	外面には比較的撚が強く節が短いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1785	内彎する口縁には、ヘラ先を使ったＶ字状の連続する刻目を施した弧線状の凸帯を貼り付けている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（91）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1786	内彎する口縁には、ヘラ先を使った連続する刻み目を施した連弧状の凸帯を貼り付けている。	外面には比較的撚が強く節が短いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	不明	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 5/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
1787	内彎する口縁は、ヘラ先を使った刻み目を施した連弧状の凸帯を縦に貼り付けている。	非常に細かい撚のＬＲ縄文が施文され	中期Ⅳｄ	Ｔ-３	外面：2.5Y 5/1 黄灰 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・チャート		
1788	緩やかに内彎する口縁は、ヘラ先を使った刻み目を施した連弧状と直線状の凸帯を貼り付けて幾何学文様が描かれている。	地文には撚が緩いＲＬ縄文(３本撚？）が使用されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：10YR 5/8 黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1789	内彎する口縁にはヘラ先を使った刻み目を加えた凸帯を貼り付けて環状や直線などの文様を描き、Ｍ字状工具を押し引いた直線と交差させて幾何学文様を作り出している。		中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/6 黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1790	ヘラ先を使った刻み目を加えた環状の凸帯を貼り付けている。	外面には地文にＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ａ-１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・結晶片岩		
1791	先端がＵ状の工具を直角に近い角度で刺突した環状の凸帯が貼り付けられている。		中期Ⅳｄ	Ｓ-20	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒・チャート	不良	
1792	緩やかに内彎する口縁から小さく括れる頸部にかけて、ヘラ先を使った刻目が施された連弧状の凸帯が２条貼り付けられている。	地文には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1793	内彎する口縁と体部の境が緩く括れた深鉢形土器。外面にはヘラによる刻み目が加えられた低い凸帯で波状のモチーフが描かれている。凸帯の間は縄文の他にヘラによるＩ字状の刺突文で充填されている。また、口縁部内面には断面三角形の低い凸帯が環状に貼り付けられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		Ａ-１	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1794	体部にはヘラ先を使ったＶ字状の深い刻み目を施文した凸帯を貼り付けて弧線文様が描かれている。	地文には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅳｄ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1795	直立する体部には、上からヘラ先を使ったＶ字状の刻み目を施した凸帯を貼り付けて直線的な幾何学文様が描かられている。	地文として撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
1796	上からヘラ先を使ったＶ字状の刻み目を加えた直線状の低い凸帯を貼り付けて直線的な幾何学文様が描かれている。	地文には撚が緩いＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1797	上からヘラ先を使った刻み目を加えた凸帯が、Ｖ字状に交差するように貼り付けられている。	地文には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が使用されている。	中期Ⅳｄ	Ａ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1798	緩やかに外反する口縁端部近くの外面には、両側に先端が叉状に分かれた工具を使った刺突列が施文された低い凸帯が斜めに貼り付けられている。凸帯上はヘラ先を使った刻み目が連続して加えられている。	内外面に撚の緩いＲＬ縄文が施文され、	中期Ⅳｄ	Ｂ-19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1799	先端がＭ字状に加工された施文具を上から連続して施文した直線的な凸帯を貼り付けて幾何学文様を描いている。	外面には地文にＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ-４	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 灰黄	石英・長石		
1800	体部は、アーチ状の低い凸帯の貼り付けに沿ってヘラ先を使った押し引きが加えられている。	体部には節の整ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 4/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1801	ヘラの角と棒状工具の先端を、低い凸帯に沿って押し引き重弧文が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・結晶片岩・砂岩・チャート		
1802	筒状の体部には上から先端が円いヘラ状工具を使った刻み目が施された半円形の低い凸帯が縦に貼り付けられている。	外面に節が短いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ａ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1803	ヘラ先を使ってＶ字状の刻み目が付けられた凸帯を曲線を描くように貼り付けている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ａ-３	外面：10YR 5/6 黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1804	ヘラ先を使った刻み目を施した凸帯を縦に貼り付け、Ｍ字状工具を押し引いて描いた弧状文とつなげている。	外面は地文にＲＬ縄文を使用している。	中期Ⅳｄ	Ｂ-19	外面：2.5YR 6/1 黄灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（92）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1805	連弧状に貼り付けられた凸帯に沿って、ヘラを使った押し引きが加えられている。	節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1806	小さく括れる頸部には、ヘラ先を使った刻み目が施された弧線状の凸帯が貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：2.5Y 6/4 にぶい黄	石英・長石・赤色斑粒		
1807	小さく括れる頸部には、ヘラ先を使った刻み目が施された弧線状の凸帯が貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1808	緩やかな膨らみを持った体部にはヘラ先を使ったＶ字状の刻み目が入れられた弧線状の凸帯が貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ａ－18	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・チャート・結晶片岩		
1809	ヘラを使ったＶ字状の刻み目が施された低い凸帯が水平に貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文される。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石		
1810	外面には薄い粘土帯を縦に貼り付けた上にヘラ先を使った刻み目が施され、ヘラの角を使ったＪ状の押し引きと繋がっている。	外面は撚の緩いＲＬ縄文か？	中期Ⅳｄ	Ｂ－６	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
1811	体部には上から１．５cmほどの幅のＣ字爪形文を押し引いた凸帯が縦に貼り付けられている。	外面には地文として撚の緩いＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 4/4 褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1812	体部には上から１.２cmほどの幅のＣ字爪形文を押し引いた凸帯が縦に貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ					
1813	地文の縄文の上に凸帯が貼り付けられ、並行する沈線が接続している。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－１	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：2.5Y 3/1 黒褐	石英・長石・チャート		
1814	先端がＭ字状に加工されたヘラ状工具を使った連続する刺突が加えられた凸帯が水平に貼り付けられている。	外面には節が短いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｓ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・赤色斑粒		
1815	先端がＭ字状に加工されたヘラ状工具を使った連続する刺突が加えられた低い凸帯が体部に水平に貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：2.5Y 5/3 黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1816	体部には、ヘラ先を使った連続する刻み目を片側に施した低い凸帯を縦に貼り付けている。	撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1817	ヘラ先を使って連続する刻み目を片側に施した低い凸帯を貼り付けて連弧文？が描かれている。	ＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｂ－19	外面：2.5Y 8/2 灰白 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英・長石		
1818	ヘラ先を使った連続する刻み目を片側に施した低い凸帯を縦に貼り付けられている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ａ－７	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1819	端部内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させた口縁は、端部外面に、両側に円形の刺突を連続して加えた低い凸帯を、縦或いは斜め方向に貼り付けている。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｅ	Ｔ－20	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1820	緩やかに外反する口縁は端部外面に低い凸帯を貼り付けて連弧文と垂下する直線が描かれている。	口縁部内面には縦走する撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｅ	Ｂ－19	外面：10YR 8/2 灰白 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石	不良	
1821	外面には低い凸帯が１cmほどの間隔をあけて並行するように３条貼り付けられている。		中期Ⅳｅ	Ｔ－２	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩	不良	
1822	内彎する口縁は、外面に緩やかなカーブを描く断面三角形の低い凸帯が貼り付けられている。	外面には撚の緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｅ	Ｓ－４	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・チャート		
1823	口縁部外面は太い凸帯を貼り付けて、連弧文が描かれている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｅ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英		
1824	口縁部内外面には幅１．５cmほどのＣ字爪形文が口縁に並行するように押し引かれている。		中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（93）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1825	端部付近が緩やかに外反する口縁は、口縁端部から２cmほど下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を連続して施文した低い凸帯が口縁に並行するように貼り付けられている。同じ爪形文は口縁端部内面直下にも施文されている。	外面には節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石		
1826	端部付近が緩やかに外反する口縁は、口縁端部から１．５cmほど下に幅１．５cmほどのＣ字爪形文を連続して施文した低い凸帯が、口縁に並行するように貼り付けられている。同じ爪形文は口縁端部内面直下にも施文されている。2119と同一個体？	外面には節の大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英		
1827	緩やかに外反する口縁は、上からＭ字状工具を押し引いた幅広い連弧状の凸帯を貼り付けている。同じ刺突は口縁端部内面にも施文されている。	外面には撚が強く節が小さいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：2.5Y 4/4 オリーブ褐 内面：2.5Y 5/3 黄褐	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1828	端部近くがわずかに外反する口縁は、外面に上から幅１．５cmほどのＣ字爪形文を施文した凸帯が貼り付けられている。同じ爪形文は口縁端部上面から内面にかけても施文されている。	外面には撚が強く節が大きいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｂ－19	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・雲母・チャート	不良	
1829	緩やかに外反する口縁は端部上面に浅い刻み目が施されている。	口縁部外面、及び端部内面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート	不良	
1830	緩やかに外反する口縁部を持った深鉢形土器である。	口縁部外面、及び端部内面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石	不良	
1831	口縁部外面には、薄く粘土帯を貼り付けた上からＣ字爪形文が口縁に並行するように押し引かれている。同じ爪形文列は口縁端部内面にも施文されている。		中期Ⅳｆ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		
1832	外面は地文の縄文の上から幅１．５cmほどのＣ字爪形文列が水平に施文されている。	外面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｓ－４	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1833	上から幅１・５cmほどのＣ字爪形文を押し引いた凸帯を貼り付けて曲線を描いている。	撚が強く節が小さいＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｔ－20	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 5/2 灰褐	石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1834	外面は地文の縄文の上から幅１．５cmほどのＣ字爪形文列が水平に施文されている。	外面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｓ－４	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
1835	外面は地文の縄文の上から幅１．５cmほどのＣ字爪形文列が水平に施文されている。	外面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ｓ－４	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
1836	緩やかに外反しながら上方に延びる口縁部は端部から１．５cmほど下に、上からＣ字爪形文を押し引いた凸帯を口縁と並行するように貼り付け、さらにこの凸帯から１．５cmほど下に施文された爪形文列との間を鋸歯状の沈線文で充填している。また、このＣ字爪形文列は口縁端部内面にも１条施文されている。	外面には撚が強く節が大きい縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｆ	Ａ－１	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1837	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面が平坦に仕上げられている。	内外面とも撚が緩く長い節のＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は施文幅が３cm余りあり、ループ状の縄末端部が残されている。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1838	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、縄文だけが施文されている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1839	口縁端部上面が円く仕上げられている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1840	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1841	緩やかに内彎する口縁は、端部上面がにぶく尖らされ、外面は粘土帯を薄く貼り付けて肥厚させている。	外面は縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－５	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石		
1842	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	外面には撚が緩く節が長い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－３	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（94）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1843	緩やかに内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、内面に薄い粘土帯を貼り付けて口縁を肥厚させている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1844	緩やかに内彎する口縁は、端部を内方に拡張し上面を平坦に仕上げている。	外面には粗い撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1845	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面とも節の長いＲＬ縄文を施文している。外面は端部近くに縄末端部がループ状に現れている。内面の縄文の施文幅は２センチほどである。	中期Ⅳｇ	Ｔ－１ Ｔ－２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1846	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面とも撚が緩く節の長いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１．５cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ｔ－３	外面：2.5Y 5/3 黄褐 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1847	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	外面には撚が緩く節が長いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－３	外面：2.5Y 3/1 黒褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1848	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面とも節の長いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は２cmほどで、縄末端部がループ状に現れている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－３	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
1849	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は平坦に仕上げられている。	口縁部内外面とも撚が緩く節の長いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	長石		
1850	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面とも撚の粗いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は２cmほどで、縄末端部が現れている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石		
1851	口縁は、端部が内側と外側から交互に行われる指オサエによって小さく波打っている。	口縁部内外面とも撚が縄いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１．５cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1852	低い山形突起を付けた緩やかな波状口縁の深鉢形土器で、内彎する口縁は端部上面が平端に仕上げられている。	口縁部内外面とも縦走するＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1853	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文しているが、内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－20	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1854	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられている。	口縁部内外面と端部上面にＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１．５cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ａ－６	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石		
1855	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は平坦に仕上げられている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ｂ－19	外面：2.5Y 6/1 黄灰 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・結晶片岩		
1856	緩やかに内彎する口縁は、端部上面がにぶく尖らされ、内面に薄い粘土帯を貼り付けて口縁を肥厚させている。	口縁部外面および内面の粘土帯上に節が大きいＲＬ縄文を施文している。端部外面には施文具不明の短い条線が縦方向に残されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1857	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は円く仕上げられ、内面に薄い粘土帯を貼り付けて口縁を肥厚させている。	口縁部外面および端部上面に撚が縄い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩		
1858	緩やかに内彎する口縁は、端部上面を円く仕上げ、内面に薄い粘土帯を貼り付けて口縁をわずかに肥厚させている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。外面は端部から１．５cmほど下に縄末端部が現れている。内面の縄文は粘土帯上に施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｂ－19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英		
1859	小さく括れた頸部と緩やかに内彎する口縁部を持った深鉢形土器で、口縁端部上面は平坦に仕上げられている。	口縁部内外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：2.5Y 6/3 にぶい黄 内面：2.5Y 6/3 にぶい黄	石英・長石		
1860	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器で、端部上面は平坦に仕上げられている。	口縁部内外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１．５cmほどである。	中期Ⅳｇ	不明	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 7/2 灰黄	石英		

第５表　包含層出土遺物観察表（95）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1861	緩やかに内彎する口縁は、端部近くで外側に折り曲げられている。端部上面は円く仕上げられ、ヘラ先で斜めの刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文の施文幅は１cmほどである。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1862	緩やかに内彎する口縁は、端部上面に時計回りの方向のＣ字爪形文列が施文されている。	口縁部外面には撚が緩い無節のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1863	緩やかに内彎する口縁は、円く仕上げられた端部上面にヘラによる刻み目が施されている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1864	直立する口縁は、平坦に仕上げられた端部上面にヘラ先を使った時計回りの方向の刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1865	緩やかに内彎する口縁は、端部が内面の粘土帯の貼り付によって肥厚している。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１．５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		
1866	直立する口縁は端部上面が平坦に仕上げられ、ヘラ先で浅い刻み目が施されている。	口縁部内外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部のわずかな範囲にとどまっている。	中期Ⅳｇ	Ａ－１	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・長石		
1867	緩やかに内彎する口縁は、端部が粘土帯の貼り付けによって肥厚し、上面にはヘラ先で斜めの刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cmほど下でナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 3/1 黒褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1868	小さく括れた頸部と緩やかに内彎する口縁部を持った深鉢形土器で、口縁端部上面にはヘラ先で斜め方向の刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部のごく狭い範囲に限られている。頸部には縄の末端部が現れている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－１	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1869	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に粘土帯が貼り付けられて肥厚し、上面にはヘラ先で深い斜めの刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く大きな節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部内面の粘土帯上に施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｓ－４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石	不良	
1870	緩やかに内彎する口縁は、口縁端部上面にヘラ先で斜め方向の刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－１	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1871	緩やかに内彎する口縁は端部内面に薄く粘土帯を貼り付けて肥厚させ、上面にはヘラ先を使った刻み目が加えられている。	口縁部外面および端部内面の粘土帯上には撚が緩く長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石		
1872	口縁は端部上面が円く仕上げられヘラ先を使った刻み目が加えられている。また端部内面にはＭ字状工具を使った押し引きが口縁に沿って行われている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文しているが、端部か２．５cmほど下には縄末端の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ					
1873	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は端部上面にヘラ先を使った浅い刻み目が施されている。	口縁端部内面にはＲＬ縄文が施文されているが端部から１cm足らずのところでナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ－20	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1874	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁部が直立している。	口縁部外面および端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1875	緩やかに内彎する口縁は、端部内面に薄い粘土帯を貼り付け、円く仕上げられた端部上面には、Ｃ字爪形文に類似する浅い刻み目が時計回りの方向に施文されている。	口縁部外面及び内面の粘土帯上に撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｒ－20	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1876	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部内面に幅２cmほどの粘土帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面にはヘラ先を使った刻み目が施されている。	口縁部外面と内面の粘土帯上には端正な撚のＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－１ Ｔ－３	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1877	直立する口縁は端部上面に貝殻復縁またはヘラ先を使ったと考えられる刻み目が施され、端部内面にもヘラ先を使った連続する刺突が加えられている。	口縁部外面に短い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ａ－６	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1878	直立する口縁は、端部上面にヘラ先を使ったＶ字状の刻み目が付けられている。	口縁部外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ａ－５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石	不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（96）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1879	山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部内面に薄い粘土帯を貼り付けて肥厚させ、端部上面にはヘラ先を使った深いＶ字状の刻を目が付けている。	口縁部外面及び内面の粘土帯上には撚が強く条と条の間隔が開いたＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	S－1 A－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英	不良	
1880	直立する口縁は、口縁端部がにぶく尖らされ、外面には指オサエが施されている。	口縁部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	T－2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1881	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラ先を使った斜めの長い刻み目が施され、外面は端部から１cmほど下に縄文が施文されている。	口縁部内外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。外面には縄末端部のループ状の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	T－1 T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：5YR 6/6 橙	石英		
1882	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラ先を使った斜めの刻み目が施されている。	口縁端部内外面には比較的撚が強く短いい節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	T－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
1883	緩やかに外反する口縁は端部上面を平坦に仕上げている。	口縁部内外面とも撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されているが、口縁部外面には縄末端部の圧痕とともに、部分的に縄文がナデ消されたところがある。	中期Ⅳｇ	T－1	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	不良	
1884	内彎する口縁部と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部直下にはループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	A－2	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・チャート		
1885	頸部は「く」の字に屈曲している。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部を挟んで口縁部側と体部側にそれぞれループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英		
1886	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持っている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部に近い口縁部側にはループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	T－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・チャート		
1887	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器だが、頸部の屈曲の程度は弱い。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部にはループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	不明	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英・チャート		
1888	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器だが、頸部の屈曲の程度は弱い。	外面には撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部にはループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	A－4 T－2	外面：10YR 6/3 にぶい褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英		
1889	頸部が稜を持たず小さく括れる深鉢形土器。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部には口縁部側に施文された縄文のループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	不明	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/1 黄灰	石英・長石		
1890	直立する口縁は端部近くで外側に折り曲げられ、端部内面側は幅３cm、外面側には２cmほどの粘土帯が口縁に沿って貼り付けられ、外面の粘土帯上には貝殻背圧痕文を連続して施文している。	口縁部外面、及び内面の粘土帯上には比較的撚が強く節が短いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｂ？	T－1 T－2	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1891	直立する口縁部は端部近くで外側に軽く折り曲げられ、端部内面側は幅２cm、外面側には１．５cmほどの粘土帯が口縁に沿って貼り付けられ、外面の粘土帯上には貝殻背圧痕文が連続して施文されている。口縁端部上面にはＭ字状工具を使った刺突列が残され、粘土帯から３cmほど下にはＭ字状工具を押し引いて弧線状の文様が描かれている。	口縁部は内外面ともＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｂ？	A－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 3/2 黒褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1892	緩やかに内彎する口縁は、端部内面側に幅２cm、外面側には１．５cmの粘土帯が口縁に沿ってに貼り付けられている。口縁端部上面にはＭ字状工具部を時計回りの方向に押し引いた刻み目が残されているが、外面にも粘土帯に接してＭ字状工具を押し引いて連弧状の文様が描かれている。	口縁部外面、及び内面の粘土帯上には撚が弱く節が長いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｂ	B－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
1893	緩やかに内彎する口縁と、「く」の字に屈曲する頸部を持った波状口縁の深鉢形土器は、口縁端部外面に幅１．５cmほどの粘土帯を口縁に沿って貼り付けている。口縁端部上面と外面の粘土帯上にはヘラ先を使った斜めの刻み目を加え、粘土帯と頸部の屈曲部にはそれぞれ先端が角柱状の施文具を押し引いて連弧文を向かい合うように描き、谷の部分を縦に並行する２条の押し引きでつないでいる。	口縁部内外面には撚が弱く節が長いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｄ	T－3	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（97）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1894	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に断面三角形の凸帯を貼り付け、上から貝殻背圧痕文を連続して施文している。凸帯の下には半截竹管状の工具を器面に垂直に突き刺し捻った様な半円形の刺突文が一定の間隔をあけて水平方向に施文されている。2101・2105と同類か？	口縁部内外面には比較的撚が強く節の短いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｃ	Ｂ－５	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英		
1895	緩やかに内彎する口縁は端部近くで外側に折り返され、外面に上から貝殻背圧痕文を連続して施文した低い凸帯を口縁に沿って貼り付けている。凸帯の下には、先端が⊃又状に分かれた工具を刺突して連弧文を描いている。	体部外面と口縁端部内面には比較的撚が強く節の短いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｃ	Ａ－５ Ｂ－５ Ｂ－19	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：7.5YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1896	緩やかに外反する口縁は、端部上面にヘラ先を使って連続する刻み目を加え、外面は端部直下に貝殻背圧痕文とΣ状施文具を使った刻み目を施した幅１．２cmほどの粘土帯を貼り付けている。粘土帯から下には同じM字状工具を押し引いた低い凸帯を貼り付けて連弧文を描いている。	口縁部内外面には撚が弱く節が長いＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は端部から４～５cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳｃ？ ｄ？	Ａ－２ Ｓ－１ Ｔ－１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石		
1897	直立する口縁は、口縁端部近くを両面から指によって摘み上げ、端部は細かい波状口縁となっている。外面はMまたは叉状の施文具を押し引いて鋸歯状の文様が描かれている。	内外面ともＬＲ縄文が施文されている。内面の縄文は端部から３cmほど下まで施文されている。	中期Ⅳａ	Ｔ－１ Ｔ－２ Ｔ－２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1898	内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、口縁部外面にM字状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部にはループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳａ	Ａ－２	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1899	内彎する口縁は端部がわずかに上方に折り曲げられ、内面には薄い粘土帯が口縁に沿って貼り付けられている。この粘土帯と端部上面にはヘラ先を使った刻み目が施され、外面に貼り付けられた重弧状の文様を描いた低い凸帯上にも、同じような刻み目が付けられている。	口縁部外面と端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1900	大きく膨らんだ体部と、直立する口縁を持った土器は、口縁端部上面にヘラを使った刻み目を施し、外面は端部から１cmほど下に、同じようなヘラの刻み目を持った凸帯を口縁に並行して貼り付けている。凸帯の下には先端が方形の柱状工具を押し引いて連弧文が描かれている。	口縁部内外面とも撚の緩いＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は口縁端部から２．５cmほどの範囲に及んでいる。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1901	大きく膨らんだ体部と、緩やかに外反する口縁を持った土器は、口縁端部から２cmほど下に、凸帯を水平に貼り付け、緩やかな曲線を描きながら斜め下方に延びる別の凸帯と繋がっている。凸帯の片側には半截竹管が凸帯に沿って押し引かれ、体部上面には同じ半截竹管を押し引いて連弧文と直線をつなぎ合わせた幾何学文様が描かれている。	体部外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｄ	Ｂ－19	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・チャート		
1902	球形の体部と直立する口縁部を持った深鉢型土器。口縁端部外面には上から縄文を施文した帯状の低い凸帯が貼り付けられ、頸部から体部上半にかけては「く」字状工具を押し引いて重弧文から描かれている。	口縁端部内外面及び体部外面には撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｄ	Ｔ－２	外面：5YR 4/6 赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩	不良	
1903	緩やかに内彎する口縁は端部が短く外反し、外面に貝殻背圧痕文を施文した帯状の凸帯を貼り付けている。緩く括れた頸部に沿ってM字状工具を使った刺突列が１条施文され、口縁部から体部にかけて縦に貼り付けられたヘラ先を使った刻目が加えられた低い凸帯と交差している。	外面及び端部内面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｄ		外面：YR 内面：YR	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1904	緩やかに内彎する口縁から膨らみが小さい体部にかけてはM字状工具が縦に押し引かれ、口縁端部と小さく括れた頸部に施文された同じM字状工具の押し引きで描かれた重弧文とつなげられている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳａ	Ｔ－１	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・砂岩	不良	
1905	縄文のみの口縁部		中期Ⅳｇ	Ａ－20	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1906	内彎する口縁は端部に低い山形突起が付けられている。	端部、内外面とも繊維の痕跡がない長大な節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－３	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1907	膨らみが小さい筒状の体部と内彎する口縁部を持った深鉢形土器は、外面のほかに、円く仕上げられた口縁端部上面と内面にも縄文が施文されている。	縄文は比較的節が大きいＲＬ縄文を使用している。	中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・砂岩		
1908	体部破片		中期Ⅳｇ	Ｔ－２	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（98）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1909	緩やかに内彎する口縁は端部上面にヘラ先を使った斜め方向の刻み目が連続して施されている。	口縁部内外面とも撚が緩く非常に長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は口縁端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-２ Ｔ-３	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 6/2 黄灰	石英		
1910	緩やかに内彎する口縁は端部近くが薄く仕上げられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１～１．５cmほどを残してナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ａ-１ Ｂ-19	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1911	緩やかに内彎する口縁と「く」の字に屈曲する頸部を持った深鉢形土器は、口縁部内面に幅１．５cmほどの薄い粘土帯を口縁に沿って貼り付け端部を肥厚させている。	口縁部外面と端部内面の粘土帯上には比較的撚が強く節が短いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-２ Ａ-２	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1912	大きな山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、直立する口縁と体部の境がわずかに括れている。	口縁端部上面と外面にはそれぞれ撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文が施文されている。頸部の屈曲部には体部側に施文された縄文のループ状の縄末端部の圧痕が残されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-２	外面：10YR 4/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1913	直立する口縁は端部上面にヘラ先を使ったＶ字状の浅い刻み目が加えられている。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持った縦走するＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から１cm足らずの範囲を残してナデ消されている。	中期Ⅳｇ	Ａ-１ Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1914	直立する口縁は端部外面に幅２．５cmほどの薄い粘土帯を口縁に沿って貼り付けている。	口縁部内外面、及び端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から６cm下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ａ-２ Ａ-18	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/8 黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1915	上方への開きが小さい直線的な口縁は端部内面に幅３cmほどの薄い粘土帯を口縁に沿って貼り付けている。	外面と端部上面、それに内面の粘土帯上には比較的撚が強いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-20	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1916	直立する口縁と円く仕上げられた口縁端部を持っている。	口縁部内外面、及び端部上面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から２cm下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1917	直線的な口縁はわずかに内傾している。	口縁部内外面には撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から５cm下まで施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｔ-１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
1918	緩やかに内彎する口縁は端部近くが薄く仕上げられている。	外面には端正な撚の小さい節を持ったＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅳｇ	Ｓ-４ Ｔ-１ Ｂ-19	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英		
1919	わずかな上げ底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。		Ｔ-１	外面：10ＹＲ 7/6 明黄褐色 内面：10ＹＲ　7/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1920	わずかな上げ底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		Ｔ-１	外面：7.5ＹＲ 6/6 橙色 内面：7.5ＹＲ 4/1 褐灰色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1921	上げ底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。		Ａ-３	外面：7.5ＹＲ 7/6 橙色 内面：7.5ＹＲ 7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1922	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。		Ｓ-１	外面：5ＹＲ 6/6 橙色 内面：7.5ＹＲ 8/4 浅黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1923	わずかな上げ底の底部と直線的な体部を持っている。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。		Ａ-１	外面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1924	わずかな上げ底の底部と直線的な体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		Ｂ-６	外面：5YR7/6 橙色 内面：5YR7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1925	上げ底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		Ａ-１	外面：10ＹＲ 5/3 にぶい黄褐色 内面：5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1926	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。体部と底部との境は外方に突出している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		Ａ-１	外面：5YR5/6 橙色 内面：5YR6/8 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（99）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1927	上げ底の底部と緩やかに外反しながら上方へ延びる体部を持っている。	外面には節が細かいＲＬ縄文を施文している。			外面：5YR6/6 橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1928	上げ底の底部と直線的な体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		T-2	外面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1929	上げ底の底部と緩やかに外反しながら上方へ延びる体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		T-2	外面：5YR6/6 橙色 内面：10ＹＲ 5/2 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1930	上げ底の底部と緩やかに外反しながら上方へ延びる体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		B-6	外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：5YR7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1931	わずかな上げ底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。体部と底部との境は外方に突出している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		A-2	外面：10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色 内面：10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	石英・長石		
1932	わずかな上げ底の底部と上方への開きが大きい体部を持っている。			A-2	外面：7.5YR7/4 にぶい橙色 内面：10ＹＲ 6/2 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1933	平底の底部と直線的な体部を持っている。体部と底部との境はわずかに外方に突出している。			T-2	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1934	わずかな上げ底の底部と上方への開きが大きい直線的な体部を持っている。体部と底部との境は外方に突出している。	ＲＬ縄文か？		T-2	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1935	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面には縦走するＲＬ縄文を施文している。		A-18	外面：5YR6/6 橙色 内面：7.5YR8/4 浅黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1936	上げ底の底部と緩やかに内彎しながら上方へ大きく開く体部を持っている。			T-1	外面：5YR6/6 橙色 内面：2.5YR6/8 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1937	上げ底の底部と上方へ大きく開く直線的な体部を持っている。体部と底部との境は外方に突出している。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		A-2	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1938	上げ底の底部と上方へ大きく開く体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		不明	外面：7.5YR7/6 橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1939	上げ底の底部と上方へ大きく開く体部を持っている。	外面には撚が緩く節が小さいＲＬ縄文を施文している。		A-1 T-1	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1940	底部との境から上方へ大きく開きく直線的な体部を持っている。	撚の緩いＲＬ縄文を施文している。		T-5	外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：7.5YR7/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1941	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。	外面にはＲＬ縄文を施文している。		A-1	外面：7.5YR7/6 橙色 内面：7.5YR2/1 黒色	石英・長石・結晶片岩		
1942	平底の底部と上方への開きが小さい直線的な体部を持っている。			T-3	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：5YR5/6 明赤褐色	石英・長石・結晶片岩		
1943	内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、浅い刻み目が加えられている。外面は弧線状に貼り付けられた凸帯に沿って、竹管状工具を使った条線が施文されている。		中期Ｖａ	T-2	外面：7.5YR 5/2 灰褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1944	内彎する口縁は、端部上面が円く仕上げられ、浅い刻み目が加えられている。外面は弧線状に貼り付けられた凸帯に沿って、竹管状工具を使った条線が施文されている。		中期Ｖａ	A-2	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
1945	内彎する口縁は、端部上面が平坦に仕上げられている。、外面は端部に斜めに貼り付けられた凸帯に沿って、竹管状工具を使った条線を施文している。	口縁部内外面と端部上面にそれぞれＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は端部から１㎝足らずのところでナデ消されている。	中期Ｖａ	T-2	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1946	緩やかに内彎する口縁は、外面に半截竹管を使った並行線文や竹管状工具で条線を施文している。	口縁部外面と端部上面にそれぞれＲＬ縄文が施文されている。	中期Ｖｂ	T-2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（100）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1947	低い山形突起を付けた波状口縁の深鉢形土器は、緩やかに内彎する口縁の端部上面にヘラ先でＶ字の刻み目を加えている。外面は端部直下に半截竹管を使った並行線を口縁に沿って２条引き、その下には竹管状工具で縦と斜め方向の直線文を施文している。	外面には撚の強いＲＬ縄文を縦方向に施文している。	中期Ｖｂ	Ｓ-１	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/1 褐灰	石英･長石･結晶片岩		
1948	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に半截竹管で平行線を口縁に沿って２条引き、その下には半截竹管、または竹管状工具を使って連弧文を描いている。	口縁部外面と端部上面にそれぞれ撚が強いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/3 にぶい褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石･結晶片岩		
1949	低い山形突起を付けた深鉢形土器は、端部外面に半截竹管や竹管状工具を使って連弧文を施文している。	口縁部内外面と端部上面にそれぞれ撚が強いＲＬ縄文が施文されている。内面の縄文は端部直下を除いてナデ消されている。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	長石･結晶片岩		
1950	口縁は、端部外面に竹管状工具で平行線文を口縁に沿って引き、その下には連弧文を描いている。	口縁部外面と端部上面にそれぞれ撚が強いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ｖｂ	Ａ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･砂岩		
1951	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に半截竹管または竹管状工具を使って平行線文を描いている。	口縁部外面と端部上面にそれぞれ撚が強いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ｖｂ	Ｂ-５	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1952	直立する口縁は端部上面にＭ字状工具で刺突を加え、外面は縦に引かれた条線の上から竹管状工具を使って弧線文を描いている。	口縁部外面は撚が緩いＲＬ縄文を施文している？	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1953	わずかに外反する口縁端部外面には竹管状工具で弧線文を描いている。	口縁部内外面と端部上面には撚が強いＲＬ縄文が施文されている。	中期Ｖｂ	Ｓ-20	外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 内面：5YR 4/4 にぶい赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒･チャート		
1954	緩やかに内彎する口縁は端部近くでわずかに外側に折り曲げられている。外面には半截竹管または竹管状工具で平行線文や連弧状の文様を描いている。	口縁部内外面と端部上面にはＲＬ縄文を施文している。内面の縄文は端部から３cmほど下まで施文されている。	中期Ｖｂ	Ｔ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 5/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1955	弧線状に貼り付けられた凸帯に沿って、半截竹管または竹管状工具で曲線を引いている。		中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：10YR 4/1 褐灰 内面：N 3/1 暗灰	石英･長石･結晶片岩･チャート		
1956	内彎する口縁に貼り付けられた凸帯に沿って、半截竹管または竹管状工具を使った並行沈線を施文している。		中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 6/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1957	弧線状に貼り付けられた断面三角形の凸帯に沿って竹管状工具を引いている。	節が細かいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1958	ヘラ先でＶ字状の刻み目を加えた弧線状の凸帯に沿って、竹管状工具を使った曲線を引いている。	ＬＲ縄文か？	中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1959	弧線状の凸帯の貼り付けと竹管状工具を使った平行線文を施文している。	撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖａ	Ｔ-１	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1960	凸帯と、竹管状工具を使った平行線文が施文されている。		中期Ｖａ	Ａ-４	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1961	縦に貼り付けられた細い凸帯に沿って半截竹管または竹管状工具で平行線文が付けられている。	ＲＬ縄文？	中期Ｖａ	Ｓ･Ｔ	外面：10YR 6/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙 10YR 4/1 褐灰	石英・長石・チャート		
1962	断面三角形の凸帯を縦、或いは斜めに貼り付けている。	撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1963	内彎する口縁部には半截竹管を使って弧線文を描いている。		中期Ｖ	Ｓ-４	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英･結晶片岩		
1964	内彎する口縁には半截竹管を使って平行線文を描いている。	節が細かいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｓ-１	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒	焼成不良	
1965	半截竹管または竹管状工具を使って平行線文を描いている。	撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・チャート		

第５表　包含層出土遺物観察表（101）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1966	半截竹管または竹管状工具を使って弧線文を描いている。	撚が緩いＬＲ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-４	外面：2.5Y 6/4 にぶい黄 内面：7.5YR 7/6 橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1967	「く」の字に屈曲する頸部には、半截竹管を使って連弧文を描いている。		中期Ｖｂ？	Ｓ-１	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1968	内彎する口縁部から頸部の括れ部にかけて、半截竹管または竹管状工具を使った平行線文が描かれている。	条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1969	半截竹管を使った平行線文を水平に引いている。	条の間隔が開いたＲＬ縄文を施文している。	船元Ⅲ Ｂ？	Ｔ-２	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 5/3 にぶい褐	石英･長石		
1970	半截竹管または竹管状工具で平行線文や連弧状の文様を描いている。	撚の緩いＲＬ縄文か？	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英･長石		
1971	半截竹管または竹管状工具を使って平行線文を描いている。	ＲＬ縄文か？	中期Ｖｂ	Ｔ-３	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1972	半截竹管を使って平行線文を描いている。	撚が緩いＬＲ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-３	外面：2.5Y 5/2 暗灰黄 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英･長石		
1973	半截竹管または竹管状工具を使って連弧状文が描かれている。	条の間隔が開いたＲＬ縄文？を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩		
1974	竹管状工具を使って平行線文や弧線状の文様を描いている。	ＬＲ縄文か？	中期Ｖａ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1975	小さく括れた頸部から体部にかけて、半截竹管を使った平行線文が縦に引かれている。	０段多条のＲＬ縄文か？	中期Ｖｂ	Ｂ-５	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1976	体部には半截竹管を使った平行線文が斜めに引かれている。	０段多条のＲＬ縄文か？	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1977	弧線状の低い凸帯の貼り付けに沿って半截竹管をなぞっている。	地文にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖ	Ｒ-19	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒･チャート		
1978	体部には半截竹管または竹管状工具を使った平行線文が斜めに引かれている。1023と同一個体。	０段多条のＲＬ縄文か？	中期Ｖｂ	Ｔ-2b-2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1979	竹管状工具を使った平行線文が斜めに引かれている。	撚が緩く節が小さいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1980	半截竹管または竹管状工具を使って弧状文や平行線文が描かれている。	撚が緩いＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｂ-５	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英･長石･結晶片岩		
1981	半截竹管または竹管状工具を使って連弧文が描かれている。	撚が緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｂ-５	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/3 にぶい褐	石英･長石･結晶片岩		
1982	半截竹管を使って弧状文が描かれている。	撚が緩い縦走するＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｂ-５	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		
1983	半截竹管を使って弧状文が描かれている。	撚が緩く節が小さいＲＬ縄文を施文している。	中期Ｖｂ	Ｔ-２	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英･長石		
1984	半截竹管または竹管状工具による条線の上から、同じ工具で弧状文を描いている。		中期Ｖ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英･長石		
1985	半截竹管または竹管状工具を使って平行線文が描かれている。		中期Ｖ？	Ｔ-５	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英･長石･結晶片岩･赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（102）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
1986	半截竹管を使って弧状文が描かれている。	撚が緩く長い節を持ったＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅴ？	Ｔ－1	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石		
1987	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、内彎する口縁の端部外面に沈線で不規則な鋸歯文が口縁に沿って２条施文されている。	外面には縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ａ－2 Ａ－6	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1988	内彎する口縁は、端部外面に半截竹管を使った細かい波状文を口縁に沿って施文している。また端部から３cmほど下には同じ半截竹管を使った平行線文が口縁に並行するように引かれている。	口縁部外面と端部上面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－4	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1989	内彎する口縁は、端部上面が鈍く尖らされている。外面は端部直下に半截竹管を使った平行線文が口縁に沿って引かれている。	外面には縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：7.5YR 7/3 にぶい橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1990	内彎する口縁は端部がわずかに上方へ折り曲げられ、半截竹管を使って平行線文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2d－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1991	内彎する口縁は、端部外面に半截竹管を使って並行線文と弧状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－5	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1992	内彎する口縁は端部が鈍く尖らされ、外面には半截竹管を使って平行線が引かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・赤色斑粒		
1993	緩やかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で不規則な浅い刻み目を加えている。外面は端部直下に半截竹管を使った不規則で小さい波状または鋸歯状の文様が描かれている。		中期Ⅵ	Ｔ－4	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1994	緩やかに内彎する口縁は、端部上面にヘラ先で刻み目を加えている。外面は端部直下に半截竹管を使った不規則で小さい波状文が描かれている。		中期Ⅵ	Ｔ－4	外面：7.5YR 4/2 灰褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1995	緩やかに内彎する口縁を持った深鉢形土器。	口縁部外面には縦走する縄巻きのＲＬ縄文が施文されている。口縁端部外面にも同じ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1996	半截竹管を使った弧状文が並行するように描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 5/1 褐灰 内面：10YR 4/1 褐灰	長石・結晶片岩		
1997	半截竹管を使った弧状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
1998	内彎する口縁には半截竹管を使って弧状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－3	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
1999	小さく括れる頸部には半截竹管を使って波状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ａ－1	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2000	半截竹管を使った波状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－1	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2001	半截竹管を使った弧状文が間隔をあけて並行するように描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2002	半截竹管または竹管状工具を使った弧状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｓ－20	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 4/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2003	半截竹管を使った並行線文が描かれている。	外面には縦走するＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｔ－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2004	頸部の括れ部は縄文をナデ消している。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ｓ－4	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2005	半截竹管を使って弧線状の文様が描かれている。	外面には縦走するＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	Ａ－3	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	

第５表　包含層出土遺物観察表（103）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2006	半截竹管を使って波状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	?	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英		
2007	頸部との境に近い体部には、半截竹管または竹管状工具で弧状文が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	B－5	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2008	半截竹管を使って弧線状の文様が描かれている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	A－5	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2009	小さく膨らんだ体部には、半截竹管を使って不規則な連弧文を描いている。	外面には縦走する縄巻のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅵ	T－20	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2010	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は、内彎する口縁が端部近くで上方に折り曲げられている。口縁端部上面から端部外面にかけては、貝殻復縁文を縦に施文し、その下には半截竹管を使って波状文が描かれている。	外面には縦走する撚糸文を施文している。	中期Ⅶ	A－5	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR6/3 にぶい黄橙	石英・結晶片岩		
2011	内彎する口縁は端部がわずかに外反している。口縁部外面には半截竹管を使って緩やかな波状文が描かれている。	口縁部外面にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅶ	T－5	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
2012	内彎する口縁は端部が鈍く尖らされている。外面は端部近くに半截竹管を使って細かく波うつ波状文が施文されている。		中期Ⅶ	T－1	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/8 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
2013	半截竹管を使って細かく波うつ波状文と弧状文が描かれている。	縦走するＲＬの撚糸文を施文している。	中期Ⅶ	A－6	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2014	頸部の屈曲部に無文帯が設けられ、上方には半截竹管を使って連弧文が描かれている。		中期Ⅶ	T－1	外面：10YR 8/4 浅黄橙 内面：10YR 8/4 浅黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2015	半截竹管を使って平行線文や波状文が描かれている。	縦走するＲＬの撚糸文が施文されている。	中期Ⅶ	A－3	外面：10YR 6/8 明黄褐 内面：10YR 6/8 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2016	半截竹管または竹管状工具を使って並行線文が描かれている。	縦走するＲＬの撚糸文が施文されている。	中期Ⅶ	B－5	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2017	細い沈線を使って不規則な弧線状の文様が描かれている。	縦走するＲＬの撚糸文が施文されている。	中期Ⅶ	T－2	外面：7.5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 7/8 黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2018	細い沈線を使った平行線が間隔をあけて引かれている。	縦走するＲＬの撚糸文が施文されている。	中期Ⅶ	不明	外面：2.5Y 4/2 暗灰黄 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩	焼成不良	
2019	沈線で並行線が描かれている。	ＲＬの撚糸文が施文されている。	中期Ⅶ	B－5	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2020	内彎する口縁は端部近くでわずかに上方に折り曲げられ、端部外面には幅２cmほどの帯状の凸帯を貼り付けている。	外面は無文。	中期Ⅷ	A－3	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2021	直立する口縁は、外面にには凹線状の太い沈線が口縁に並行するように２条施文されている。内外面には地文として二枚貝を使った貝殻条痕がつけられている。		中期Ⅷ	T－1	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 4/3 にぶい赤褐	石英・長石・赤色斑粒		
2022	体部には内外面ともに二枚貝を使った貝殻条痕文が施文されている。		中期Ⅷ	T－1	外面：5YR 4/4 にぶい褐 内面：5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石		
2023	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器で、口縁部外面は太い隆線を貼り付けて楕円形に区画されている。		中期Ⅸ	A－1	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2024	口縁部は隆帯と沈線を使って楕円形に区画され、頸部には櫛描文が施文されている。	凸帯の上にはＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅸ	不明	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2025	太い隆帯と沈線を使った円形の区画内をに凸帯に円形の刺突文を施文している。		中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（104）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2026	口縁部外面は隆帯と太い沈線で区画されている。	太い沈線の下にはＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S-4e-3	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
2027	口縁部と体部との境は隆帯で区画され、体部には太い沈線で曲線文を描いている。内面には貝殻条痕が施されている。		中期Ⅸ	T-5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2028	突起状山形口縁を持った深鉢形土器は、内側に強く折り曲げられた口縁に沿って太い沈線が１本引かれている。外面の区画内には円形の刺突が加えられている。	口縁端部にはＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-2e-5	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
2029	突起状山形口縁を持った深鉢形土器は、強く内側に折り曲げられた口縁に沿って太い沈線が１本引かれている。		中期Ⅸ	T-2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2030	突起状山形口縁を持った深鉢形土器は、強く内側に折り曲げられた口縁に太い沈線を使って楕円形に区画されている。		中期Ⅸ	T-2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
2031	突起状山形口縁を持った深鉢形土器は、強く内側に折り曲げられた口縁に沿って太い沈線が１本引かれている。		中期Ⅸ	A-5	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2032	口縁が強く内側に折り曲げられた深鉢形土器は、口縁部直下に太い沈線で波状文が描かれている。		中期Ⅸ	T-4	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2033	突起状山形口縁は、外面に２本一組の沈線と円形の刺突文で幾何学的な直線文が描かれている。		中期Ⅸ	T-2	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2034	低い山形突起を持ち強く内彎する口縁は、太い沈線を使った曲線で区画され縄文と円形刺突文を充填している。	区画内にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-4	外面：7.5YR 5/6 明褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2035	緩やかな波状口縁を持った深鉢形土器は太い沈線で区画されている。		中期Ⅸ	B-5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2036	内彎する緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、外面に沈線で渦巻文様が描かれている。	口縁部外面と端部上面にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-4	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2037	直立する口縁は、端部外面に粘土帯を貼り付けて肥厚させ、口縁に並行するように引いた２本の沈線の下に、棒状工具を使って列点文が施文されている。	口縁端部外面の粘土帯上にはＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A-18	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
2038	緩やかに内彎する口縁は、太い沈線を使って描かれた曲線の区画内に縄文が充填されている。	ＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A-5	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2039	緩やかに内彎する口縁は縄文施文後、太い沈線を使って曲線が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	B-6	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2040	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、外面に縄文施文後太い沈線を使って曲線が描かれている。	口縁部外面と端部上面にはＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A-6	外面：10YR 8/4 浅黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2041	口縁端部は内方に拡張され、外面は太い沈線が口縁に並行するように引かれている。	外面は無節のＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-3	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2042	直立する口縁は、外面に並行する太い沈線を引き、上から縄文を施文している。	口縁部外面と端部上面にそれぞれＬＲ縄文が施されている。	中期Ⅸ	T-2	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：2.5Y 4/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩		
2043	わずかに内彎する口縁は、外面に縄文施文後、沈線を使って楕円形の区画が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A-5	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2044	緩やかな波状口縁の深鉢形土器は、口縁部外面に太い沈線を使って渦巻文様を描き、その後に巻貝による疑似縄文が施されている。		中期Ⅸ	T-1	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2045	口縁部外面は、巻貝による疑似縄文が施された後、太い沈線を使って連弧状または渦巻状の文様が描かれている。		中期Ⅸ	T-6	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石		

第５表　包含層出土遺物観察表（105）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2046	口縁部外面は巻貝による疑似縄文を施した上から、太い沈線と列点状の刺突を施文している。		中期Ⅸ	T－2	外面：2.5YR 6/6 橙 内面：2.5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
2047	口縁部外面に沈線で連弧状の文様を施文した上から、巻貝を使った疑似縄文を施している。疑似縄文は端部上面にも残されている。		中期Ⅸ	A－5	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2048	緩やかに内彎する口縁は、外面に口縁に並行するように引かれた沈線の区画の中に、列点状の円形の刺突を施文している。		中期Ⅸ	T－1	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2049	緩やかに内彎する口縁は、端部外面に太い沈線が１本、口縁部に並行するように引かれ、10 その下には同じ沈線で曲線が描かれている。83 と同一個体。		中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2050	緩やかに内彎する口縁は外面に沈線を使った波状文が描かれる。		中期Ⅸ	A－la－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2051	内彎する口縁は外面に沈線を使った渦巻状の文様が描かれている。		中期Ⅸ	T－4	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2052	直立する口縁は外面に太い沈線を使って曲線文が描かれている。		中期Ⅸ	S－le－4	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩		
2053	内彎する波状口縁の深鉢形土器は、突起部に円形の凸帯を貼り付け、その周囲には同心円状の太い沈線が引かれている。		中期Ⅸ	B－6	外面：10YR 8/3 浅黄橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2054	直立する口縁は外面に太い沈線を使って対向する重弧文を施文している。外面には擦痕状の細かい条痕が残され、内面には貝殻条痕が施文されている。		中期Ⅸ	不明	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・頁岩		
2055	内彎する口縁は、外面に２本の太い沈線が口縁に並行するように引かれているが、そのうちの１本には竹管による円形の刺突文が施文されている。		中期Ⅸ	T－2c－3	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2056	太い沈線を使って描かれた曲線の中に、円形の刺突文が列点状に施文されている。		中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2057	縄文施文後に太い沈線を使って描いた曲線の中を、先端が平らな角柱状の工具で押し引いている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S－4	外面：10YR 7/8 黄橙 内面：10YR 7/8 黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2058	内彎する体部には太い沈線で描かれた曲線の中に縄文を充填している。	縄文はＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅸ	C－3	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・雲母・赤色斑粒		
2059	縄文施文後、竹管を使った沈線で連弧状の文様が描かれている	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A－4	外面：5YR 5/4 にぶい赤褐 内面：5YR 5/3 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩		
2060	太い沈線で並行する曲線が描かれている。	ＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－1	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：7.5YR 4/6 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2061	太い沈線で並行する曲線が描かれている。		中期Ⅸ	B－19	外面：10YR 7/2 にぶい黄橙 内面：10YR 8/2 灰白	石英・長石		
2062	太い沈線で渦巻状の曲線が描かれている。		中期Ⅸ	B－5	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
2063	太い沈線で渦巻状の曲線が描かれている。		中期Ⅸ	T－2	外面：7.5YR 5/4 にぶい褐 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2064	太い沈線で曲線文が描かれている。		中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2065	太い沈線で渦巻状の文様が描かれている。		中期Ⅸ	T－4	外面：5YR 4/8 赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（106）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2066	貝殻背圧痕文の上から、太い沈線で連弧状または渦巻き状の曲線を描いている。		中期Ⅸ	T－2	外面：7.5YR 7/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2067	太い沈線で波状または連弧状の文様が描かれている。		中期Ⅸ	B－5	外面：5YR 6/4 にぶい橙 内面：7.5YR 4/1 褐灰	石英・長石・結晶片岩		
2068	太い沈線で並行する曲線が描かれている。		中期Ⅸ	S－1	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2069	内外面に貝殻条痕を施文後、太い沈線で渦巻状の文様と、波状または連弧状の文様を組み合わせたような文様が描かれている。		中期Ⅸ	B－19	外面：10YR 7/1 灰白 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
2070	太い沈線で波状または連弧状の文様が描かれている。		中期Ⅸ	T－1	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2071	縄文施文後、太い沈線で渦巻文様が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	B－5	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 6/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
2072	縄文施文後、沈線を使った渦巻状の曲線が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－1	外面：2.5Y 6/2 灰黄 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2073	縄文施文後、並行する２本の沈線で曲線が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－2c－3	外面：10YR 6/3 にぶい黄橙 内面：10YR 5/2 灰黄褐	石英・長石・結晶片岩		
2074	沈線を使って渦巻状の曲線を描いている。	端正な撚のＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－1	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2075	並行する沈線の区画の中を太い沈線を使った鋸歯文が描かれている。	地文にはＬＲ縄文を施文している。	中期Ⅸ	T－3	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 3/3 暗褐	石英・長石・結晶片岩		
2076	太い沈線を並行して施文し、縄文を充填している。	端正な撚のＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	B－5	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・砂岩		
2077	太い沈線を並行して施文し、縄文を充填している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A－5	外面：5YR 6/6 橙 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2078	縄文の上から沈線を並行して施文している。	端正な撚のＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S－4	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：2.5Y 5/2 暗灰黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2079	２本の沈線で曲線を描き、縄文を充填している。	端正な撚のＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－1b－3	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2080	太い沈線で楕円形の区画を描き、縄文を充填している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2081	縄文の上から、並行する２本の沈線で曲線文が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S－4	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2082	２本の沈線で曲線を描き、縄文を充填している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－3c－1	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2083	２本の沈線で曲線を描き、縄文を充填している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	B－5	外面：7.5YR 6/4 にぶい橙 内面：5YR 5/6 明赤褐	石英・長石・結晶片岩		
2084	縄文の上から、並行する沈線で曲線が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	B－5	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2085	縄文の上から、沈線で曲線文が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T－2	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 3/1 黒褐	石英・長石・結晶片岩		

第５表　包含層出土遺物観察表（107）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2086	縄文の上から、並行する２本の沈線で曲線文が描かれている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-2	外面：5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
2087	太い沈線を使って渦巻状の文様を描き、縄文で充填している。	端正な撚のＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	A-1	外面：10YR 3/2 黒褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2088	沈線で渦巻状の文様を描き、貝殻背圧痕文を充填している。		中期Ⅸ	T-2	外面：10YR 7/4 にぶい黄橙 内面：7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・長石・結晶片岩		
2089	並行する太い沈線で縦に帯状の区画を施した体部に、縦走する縄文を施文している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S-4	外面：5YR 6/6 橙 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2090	体部は縦に帯状の縄文を施文し、垂下する沈線を加えている。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S-4	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2091	体部は方向の異なる縄文を施文したあと、沈線を縦に施している。	ＬＲ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	S-4	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2092	太い沈線で渦巻状の曲線文を描いた上から、巻貝を使った疑似縄文が施文されている。		中期Ⅸ	T-4	外面：10YR 7/6 明黄褐 内面：10YR 6/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2093	巻貝を使った疑似縄文の上から、沈線で連弧状または渦巻状の文様を描いている。		中期Ⅸ	T-6	外面：10YR 5/2 灰黄褐 内面：7.5YR 5/2 にぶい褐	石英・長石・赤色斑粒		
2094	巻貝を使った疑似縄文の上から並行する太い沈線で渦巻状の曲線を描いている。		中期Ⅸ	T-2	外面：2.5YR 5/6 明赤褐 内面：5YR 6/6 橙	石英・長石・結晶片岩		
2095	上方に大きく開く直線的な体部と、内屈する口縁を持った浅鉢と考えられる土器は、「く」の字に屈曲する体部との境に竹管を使った刺突を連続して施し、体部には同じ竹管で太い沈線が縦に施文されている。	ＲＬ縄文が施文されている。	中期Ⅸ	T-4	外面：5YR 7/8 橙 内面：10YR 7/6 明黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2096	上方に大きく開く直線的な体部と、「く」の字に内屈する口縁を持った浅鉢と考えられる土器は、口縁部は縄文、体部は貝殻条痕を施文している。	口縁部にはＲＬ縄文を施文している。	中期Ⅸ	A-5	外面：10YR 7/3 にぶい黄橙 内面：2.5Y 7/3 浅黄	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2097	緩やかに内彎しながら上方に大きく開く体部と、「く」の字に内屈する口縁部にヘラの角を使った三角形の押し引きが施された浅鉢と考えられる土器である。1165と同じモチーフ		中期Ⅸ	T-2	外面：7.5YR 7/4 にぶい橙 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2098	緩やかに内彎しながら上方に大きく開く体部には斜めに貼り付けられた凸帯に沿って、ヘラの角を使った三角形の押し引きが施されている。		中期Ⅸ	A-2	外面：5YR 5/6 明赤褐 内面：7.5YR 6/6 橙	石英・長石・チャート		
2099	体部との境で「く」の字に屈曲する口縁には、竹管を使った並行する沈線が斜めに施文されている。		中期Ⅸ	T-2	外面：7.5YR 6/6 橙 内面：10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩		
2100	内彎する口縁は、端部外面に半截竹管を使ったＣ字爪形文列を口縁に並行して施文し、その下には半隆起線文が縦に施文され、隆帯を貼り付けた渦巻状突起が残されている。		中期Ⅹ					
2101	内彎する口縁は、端部から３㎝ほど下に断面三角形の凸帯を水平に貼り付けて無文の頸部との境を区画している。口縁端部外面には半截竹管で結節隆帯を施し、その下に半隆起線文を２条施文している。半隆起線文と凸帯との間には沈線と三角形印刻が残されている。		中期Ⅹ	B-1	外面：7.5YR 4/4 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2102	内彎する口縁は、端部から３㎝ほど下に断面三角形の凸帯を水平に貼り付けて無文の頸部との境を区画している。口縁端部外面には半截竹管で結節隆線を施し、その下に半隆起線文を２条施文している。半隆起線文と凸帯との間には沈線と三角形印刻が残されている。		中期Ⅹ	A-2	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2103	口縁は、端部外面に結節隆線を施し、その下には半隆起線文を口縁と並行するように２条施文している。		中期Ⅹ	A-5	外面：10YR 4/2 灰黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		

第５表　包含層出土遺物観察表（108）

遺物番号	特　　徴	縄　文　原　体	型式	出土地点	色　　調	胎　　土	焼成	備　考
2104	口縁は、端部外面に結節隆線を施し、その下には半隆起線文を口縁と並行するように４条施文している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 5/4 にぶい黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2105			中期Ｘ					
2106			中期Ｘ					
2107	口縁部は外面に粘土帯を貼り付け、その上に半隆起線文やヘラ先で連続する刻み目を加えた凸帯を貼り付けている。		中期Ｘ	Ｓ-１	外面：7.5YR 6/8 明褐 内面：7.5YR 6/8 明褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
2108	水平に貼り付けられた凸帯に沿って、半截竹管を使った沈線が２条引かれ、その下にはヘラ先で平行する細い沈線が斜めに引かれている。		中期Ｘ	Ｂ-６	外面：7.5YR 7/8 黄橙 内面：7.5YR 3/1 黒褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒	焼成不良	
2109	水平に貼り付けられた凸帯に沿って、半截竹管を使った沈線が引かれている。		中期Ｘ	Ａ-１	外面：5YR 5/8 明赤褐 内面：5YR 5/8 明赤褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
2110	外面に並行する半隆起線文を４条引いている。		中期Ｘ	Ａ-１	外面：5YR 6/8 橙 内面：7.5YR 6/8 橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
2111	外面に半隆起線文を水平に２条引かれている。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 5/6 明褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2112	凸帯に沿って半隆起線文を縦に施文している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 6/4 にぶい黄橙 内面：10YR 4/4 褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2113	半隆起線文を縦に連続して施文している。		中期Ｘ	Ａ-１	外面：10YR 6/6 明黄褐 内面：10YR 5/4 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩		
2114	沈線を横に引いた区画の中に並行する縦の沈線を連続して施文している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：5YR 4/3 にぶい赤褐 内面：5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
2115			中期Ｘ					
2116	並行する沈線を連続して縦に施文後、半隆起線文を水平方向にひいて区画している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 5/6 黄褐 内面：10YR 4/3 にぶい黄褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2117	半隆起線文の区画の中に不規則な沈線を縦に引いている。		中期Ｘ	Ｂ-６	外面：7.5YR 4/3 褐 内面：7.5YR 4/3 褐	石英・結晶片岩・赤色斑粒		
2118	縄文の上から半隆起線文と沈線を施文している。		中期Ｘ	Ｔ-５	外面：7.5YR 5/3 にぶい褐 内面：7.5YR 4/2 灰褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2119	沈線の区画に沿って半截竹管を使ったＣ字爪形文を施文している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・赤色斑粒		保留
2120	半隆起線文の区画の中に半截竹管を使ったＣ字爪形文や不規則な沈線が施文されている。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 4/4 褐 内面：7.5YR 5/4 にぶい褐	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2121	半隆起線文を横方向に施文している。		中期Ｘ	Ｔ-２	外面：10YR 5/3 にぶい黄褐 内面：10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒		
2122	頸部の屈曲部に沿って半隆起線文を水平方向に施文している。		中期Ｘ					

第６表　包含層出土遺物（古代・中世）（１）

遺物番号	器　種	特　徴	調整技法	出土地点	色　調	胎　土
2301	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。内面には放射状の暗文が描かれている。	外面はへらミガキが加えられている。	T-5	外面：2.5YR6/8 橙色 内面：7.5YR7/6 橙色	赤色斑粒
2302	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。	外面はへらミガキが加えられ底部との境付近にはヘラケズリの痕跡が残されている。	T-2	外面：2.5YR6/1 赤灰色 内面：7.5YR6/1 褐灰色	長石
2303	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。		T-2	外面：2.5YR6/8 橙色 内面：2.5YR6/8 橙色	石英・結晶片岩
2304	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。	外面はへらミガキが加えられ底部との境付近にはヘラケズリの痕跡が残されている。	T-5	外面：2.5YR6/6 橙色 内面：2.5YR6/6 橙色	石英・結晶片岩
2305	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。		S-4	外面：2.5YR5/6 橙色 内面：2.5YR5/6 明赤褐色	
2306	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。内面には放射状の暗文が描かれている。		T-5	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・長石
2307	土師器 杯	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。内面には放射状の暗文が描かれている。		B-19	外面：5YR6/4 にぶい橙色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色	石英・長石
2308	土師器 皿	比較的上方への開きが大きい内彎する体部と、端部が円く仕上げられた外反する口縁部を持つ。口縁端部内面には浅い凹線状の沈線が１本引かれている。底部と体部の境は円く仕上げられている。	外面にはへらミガキの痕跡が残されている。	S-4 T-5	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	赤色斑粒
2309	土師器 高台付椀・杯	緩やかに内彎する上方への開きが大きい体部と端部が円く仕上げられた直線的な口縁部を持った椀。		A-19	外面：2.5 Y 7/1 灰色 内面：2.5 Y 7/1 灰色	石英
2310	土師器 高台付椀・杯	直線的な口縁端部はにぶく尖らされている。		A-6	外面：5YR6/6 橙色 内面：2.5YR6/6 橙色	石英
2311	土師器 高台付椀・杯	内彎する体部と平底の底部との境に下方に向かってハの字に開く低い高台が付けられている。高台の接地部は円く仕上げられている		A-7	外面：10YR8/2 灰白色 内面：7.5YR6/4 にぶい橙色	石英
2312	土師器 高台付椀・杯	内彎する体部と平底の底部との境に下方に向かってハの字に開く低い高台が付けられている。		T-5	外面：5YR6/4 にぶい橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2313	土師器 甕	筒状の体部と、頸部との境で外方に大きく開く口縁部を持った甕。薄く仕上げられた口縁端部はわずかに上方に拡張されている。		T-4	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色	石英・赤色斑粒
2314	土師器 甕	筒状の体部と、「く」の字に屈曲する頸部から外方に大きく開く直線的で短い口縁部を持った甕。上方に拡張された口縁端部は凹線状にくぼんでいる。		T-4	外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：7.5YR7/4 にぶい橙色	石英・長石
2315	須恵器 杯	直線的な体部と円く仕上げられた口縁端部をもった器高の高い杯。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	A-19	外面：7.5YR6/3 にぶい褐色 内面：N 7/0 灰白色	長石
2316	須恵器 杯	底部との境が「く」の字に屈曲する直線的で短い体部を持っている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	A-6 A-8	外面：N 5/ 灰色 内面：N 5/ 灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2317	須恵器 杯	口縁部は緩やかに外反し、短い体部は平底の底部との境が円く仕上げられている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	S-4	外面：.25 Y 7/2 灰黄色 内面：2.5 Y 7/2 灰黄色	石英・長石
2318	須恵器 高台付杯	緩やかに外反する口縁部と内彎する短い体部を持ち、底部には外下方に開く低い高台を貼り付けている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-4	外面：N 6/ 灰色 内面：N 6/ 灰色	石英・長石・結晶片岩
2319	須恵器 高台付杯	底部との境が「く」の字に屈曲する直線的で短い体部を持ち、底部には低い高台を貼り付けている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	B-19	外面：2.5 Y 7/1 灰白色 内面：2.5 Y 7/1 灰白色	石英・長石
2320	須恵器 高台付杯	緩やかに内彎する短い体部を持ち、底部には外下方に開く低い高台を貼り付けている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	A-19	外面：N 6/ 灰色 内面：N 6/ 灰色	長石・結晶片岩・赤色斑粒

第6表　包含層出土遺物（古代・中世）（2）

遺物番号	器　種	特　徴	調整技法	出土地点	色　調	胎　土
2321	須恵器 高台付杯	緩やかに内彎する短い体部を持ち、底部には低い高台を貼り付けている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-1	外面：N 6/ 灰色 内面：N 6/ 灰色	長石・結晶片岩・赤色斑粒
2322	須恵器 高台付杯	底部との境が「く」の字に屈曲する直線的で短い体部を持ち、底部には外下方に開く低い高台を貼り付けている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	S-19 A-19	外面：N 7/0 灰白色 内面：N 7/0 灰白色	石英・長石
2323	須恵器 杯	体部は外上方に直線的に延びている。平底の底部との境は円く仕上げられている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	B-5	外面：5 Y 6/1 灰色 内面：5 Y 7/1 灰白色	石英・長石
2324	須恵器 高台付杯・皿	上方への開きが小さい体部と、平底の底部との境には下方に開く低い高台が貼り付けられている。高台の接地部は中央が凹線状にくぼんでいる。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-5	外面：5 Y 7/2 灰白色 内面：5 Y 7/3 浅黄色	石英・長石・結晶片岩
2325	須恵器 高台付杯・皿	上方へ大きく開く直線的な体部と、平底の底部の境の屈曲部には内傾する低い高台が貼り付けられている。		A-5	外面：N 6/ 灰色 内面：N 6/ 灰色	長石
2326	須恵器 高台付杯・皿	上方への開きが小さい体部と、平底の底部との境には外下方に開く低い高台が貼り付けられている。高台の端部は凹線状にくぼんでいる。		S-3	外面：N 4/ 灰色 内面：N 7/ 灰白色	石英・結晶片岩
2327	須恵器 高台付杯・皿	緩やかに内彎する体部と平底の底部との境には低い高台が貼り付けられている。		T-3	外面：N 6/ 灰色 内面：N 6/ 灰色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒
2328	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部は内彎する体部との境からやや内側に直立する低い高台が貼り付けられている。		R-19	外面：N 7/0 灰白色 内面：N 7/0 灰白色	長石
2329	須恵器 高台付杯・皿	体部と、平底の底部との境には外下方に開く低い高台が貼り付けられている。高台の端部は凹線状にくぼんでいる。		S-2	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	長石
2330	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部は内彎する体部との境からやや内側に直立する低い高台が貼り付けられている。		R-19	外面：5 Y 7/1 灰白色 内面：5 Y 7/1 灰白色	長石
2331	須恵器 高台付杯・皿	上方へ開く直線的な体部と、平底の底部の境の屈曲部には内傾する低い高台が貼り付けられている。		不明	外面：2.5 Y 6/2 灰黄色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石
2332	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部にはわずかに外下方に開く低い高台が貼り付けられている。高台端部は凹線状にくぼんでいる。		A-5	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石
2333	須恵器 高台付杯・皿	体部との境が円く仕上げられた、平底の底部には直立する低い高台が貼り付けられている。		A-5	外面：2.5 Y 6/2 灰黄色 内面：2.5 Y 7/1 灰白色	石英・長石
2334	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部には直立する低い高台が貼り付けられている。		T-5	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	長石
2335	須恵器 高台付杯・皿	体部との境が円く仕上げられた、平底の底部には直立する低い高台が貼り付けられている。		A-5	外面：N 5/ 灰色 内面：N 5/ 灰色	石英・長石
2336	須恵器 高台付杯・皿	体部との境が円く仕上げられた、平底の底部にはわずかに外下方に開く低い高台が貼り付けられている。		A-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石・赤色斑粒
2337	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部には直立する低い高台が貼り付けられている。		T-18	外面：2.5 Y 6/2 灰黄色 内面：2.5 Y 7/1 灰白色	石英・長石
2338	須恵器 高台付杯・皿	平底の底部には断面逆台形状の直立する低い高台が貼り付けられている。		T-1	外面：5 G 5/1 緑灰色 内面：5 G 5/1 緑灰色	長石
2339	須恵器 杯蓋	内彎する天井部がそのまま端部が円い口縁部に移行している。		T-19	外面：N 7/0 灰白色 内面：N 6/0 灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2340	須恵器　杯蓋	扁平な天井部と、下方に強く屈曲する口縁部を持っている。		T-4	外面：2.5 Y 7/1 灰白色 内面：2.5 Y 7/2 灰黄色	石英・長石

第６表　包含層出土遺物（古代・中世）（３）

遺物番号	器　種	特　徴	調整技法	出土地点	色　調	胎　土
2341	須恵器 杯蓋	口縁端部が下方に折り曲げられている。		B-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	長石
2342	須恵器 杯蓋	内彎する低い天井部と下方に折り曲げられた口縁端部を持っている。		不明	外面：5 Y 6/1 灰色 内面：5 Y 7/1 灰白色	石英
2343	須恵器 杯蓋	口縁端部が下方に折り曲げられている。		A-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石・赤色斑粒
2344	須恵器 壺蓋？	内彎する天井部と直線的な口縁部の境が「く」の字に屈曲している。		A-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石
2345	須恵器 壺	外反しながら上方に大きく開く口縁は、端部を上方に折り曲げて出来た狭い平坦部に横ナデを施し凹線状にくぼませている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-19	外面：N 5/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石
2346	須恵器 壺	外反しながら上方に大きく開く口縁は、端部を上方に折り曲げて出来た狭い平坦部に横ナデを施し凹線状にくぼませている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	S-4	外面：5 Y 6/1 灰色 内面：5 Y 5/1 灰色	石英
2347	須恵器 壺？		体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-5	外面：2.5 Y 7/2 灰黄色 内面：　5 Y 6/1 灰色	長石
2348	須恵器 壺	直立する長い頸部を持っている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	T-4	外面：N 6/0 灰色 内面：5 Y 7/1 灰白色	石英
2349	須恵器 壺？甕？	上方への開きが小さい直線的な口縁は端部を外方に拡張し平坦に仕上げている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	S-3	外面：2.5 G Y 2/1 黒色 内面：N 5/0 灰黄色	長石
2350	須恵器 壺？甕？	上方への開きが小さい直線的な口縁は端部を内方に拡張し平坦に仕上げている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	S-3	外面：N 6/0 灰色 内面：N 5/0 灰色	石英・長石
2351	須恵器 壺？甕？	頸部は大きく括れている。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	R-19	外面：N 5/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	長石
2352	須恵器 鉢	内彎する体部は端部が円く仕上げられた口縁部にそのまま移行している。	体部内外面には横ナデ調整が加えられている。	A-5	外面：2.5 Y 7/1 灰白色 内面：2.5 Y 6/3 にぶい黄色	石英・長石・赤色斑粒
2353	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。内面はタタキの痕跡を丁寧にナデ消している。	A-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2354	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。内面はタタキの痕跡を丁寧にナデ消している。	S-3	外面：10 G 5/1 青灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石・赤色斑粒
2355	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。内面はタタキの痕跡を丁寧にナデ消している。	不明	外面：N 6/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2356	須恵器 壺？甕？		外面は平行線状タタキを施している。内面はタタキの痕跡を丁寧にナデ消している。	T-4	外面：5 Y 4/1 灰色 内面：7.5 Y 5/1 灰色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒
2357	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。内面はタタキの痕跡を丁寧にナデ消している。	A-19	外面：N 5/0 灰色 内面：N 5/0 灰色	石英・長石・結晶片岩
2358	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。、内面は平行線状タタキをナデ消した可能性がある。	A-19	外面：5 G 5/1 緑灰色 内面：5 G 5/1 緑灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2459	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキを施している。、内面は同心円文タタキをナデ消した可能性がある。	A-19	外面：N 5/ 灰色 内面：N 5/ 灰色	石英・結晶片岩
2360	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキか？内面は平行線状タタキをナデ消している。	A-19	外面：N 5/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石

第６表　包含層出土遺物（古代・中世）（４）

遺物番号	器　種	特　徴	調整技法	出土地点	色　調	胎　土
2361	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキか？内面は平行線状タタキをナデ消している。	T-19	外面：7.5YR5/1 褐灰色 内面：2.5 Y 6/1 黄灰色	石英・長石
2362	須恵器 壺？甕？		外面は格子目タタキか？内面は平行線状タタキをナデ消している。	T-19	外面：10YR5/1 褐灰色 内面：2.5 Y 6/1 黄灰色	石英・長石
2363	須恵器 壺？甕？		外面は格子目状タタキを施している。内面は同心円文タタキをナデ消しているが充分ではない。	R-19	外面：N 7/0 灰白色 内面：N 6/0 灰色	長石
2364	須恵器 壺？甕？		外面は平行線状タタキを施している。、内面は同心円文タタキを施している。	Q-19	外面：N 6/0 灰色 内面：N 5/0 灰色	石英・長石
2365	須恵器 壺？甕？		外面は平行線状タタキを施している。内面は同心円文タタキをナデ消しているが充分ではない。	A-6	外面：2.5 Y 6/1 黄灰色 内面：2.5 Y 6/1 黄灰色	石英・結晶片岩・赤色斑粒
2366	須恵器 壺？甕？		外面は平行線状タタキを施している。内面は当て具の痕跡をナデ消しているが不十分である。	A-6	外面：N 6/0 灰色 内面：N 5/0 灰色	石英・長石
2367	須恵器 壺？甕？		外面は格子目状タタキを施している。内面は同心円文タタキを施している。	F-18	外面：N 5/0 灰色 内面：N 6/0 灰色	石英・長石
2368	須恵器 横瓶		外面にはカキ目痕が残されている。	A-5	外面：N 6/0 灰色 内面：N 7/0 灰白色	石英
2369	瓦器椀	緩やかに内彎する体部は口縁端部近くでわずかに外反している。		A-6	外面：2.5 Y 7/3 浅黄色 内面：2.5 Y 7/3 黄灰色	石英・長石
2370	瓦質 捏鉢	口縁は端部を平坦に仕上げている。		S-4	外面：5 Y 2/1 黒色 内面：5 Y 4/1 灰色	石英
2371	須恵器 捏鉢	肥厚する口縁は端部をにぶく尖らせている。		S-2	外面：N 6/0 灰色 内面：N 5/0 灰色	石英
2372	製塩土器		外面は指頭圧痕、内面は布目圧痕が残されている。	S-4	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR6/8 橙色	石英・長石・赤色斑粒
2373	製塩土器		外面は指頭圧痕が残されている。	T-4	外面：7.5YR7/6 橙色 内面：7.5YR7/8 橙色	石英・長石・赤色斑粒
2374	製塩土器		外面は指頭圧痕、内面は布目圧痕が残されている。	T-4	外面：5YR5/8 明赤褐色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒
2375	製塩土器		外面は指頭圧痕、内面は布目圧痕が残されている。	S-4	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：5YR6/8 橙色	石英・長石・赤色斑粒
2376	製塩土器		内面に布目痕が残されている。	S-4	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR6/8 橙色	石英・長石・赤色斑粒
2377	製塩土器		内面に擦痕が残されている。	S-4	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR6/8 橙色	長石
2378	製塩土器		内面に布目痕が残されている。	T-5	外面：7.5YR6/8 橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・赤色斑粒
2379	製塩土器		内面に布目痕が残されている。	T-4	外面：10YR6/4 にぶい黄橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩
2380	製塩土器		内面に布目痕が残されている。	S-4	外面：7.5YR6/8 橙色 内面：7.5YR6/6 橙色	石英・長石・結晶片岩

第６表　包含層出土遺物（古代・中世）（５）

遺物番号	器　種	特　徴	調整技法	出土地点	色　調	胎　土
2381	棒状土錘			A-6	7.5YR7/8 黄橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒
2382	棒状土錘			B-5	5YR7/8 橙色	石英・長石・結晶片岩・赤色斑粒
2383	棒状土錘			T-2 C-3	7.5YR7/4 にぶい橙色	結晶片岩・赤色斑粒
2384	管状土錘			不明	10YR7/4 にぶい黄橙色	石英・長石・結晶片岩
2385	管状土錘			T-5	10YR6/4 にぶい黄橙色	長石・結晶片岩・赤色斑粒
2386	管状土錘			T-6	2.5YR6/8 橙色	長石・結晶片岩・赤色斑粒
2387	管状土錘			A-5	10YR6/6 明黄褐色	石英・長石
2388	管状土錘			T-5	10YR6/6 明黄褐色	石英・結晶片岩・赤色斑粒

第７表　SX1001 出土遺物観察表（石器）

遺物番号	器　　種	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
66	磨製石斧	緑色岩	16.4	5.4	2.6	360.7	
67	磨製石斧	緑色岩	11.5	5.2	2.45	231.6	
68	磨製石斧	砂岩	8.9	3.5	1.45	71	
69	磨製石斧	緑色岩	7.9	4.55	1.1	53.4	
70	砥石	砂岩	6.7	3.6	0.85	27.5	
71	礫器	砂岩	10.8	9.6	3.8	492.5	
72	礫器	砂岩	8	12	4.7	605	
73	礫器	砂岩	7.9	13.4	4.9	739	
74	礫器	砂岩	12.9	7.5	4.9	870	
75	礫器	砂岩	4.8	9.9	5.2	303.2	
76	礫器	砂岩	8.4	9.9	4.1	410.5	
77	礫器	砂岩	14.9	10.9	7.4	1620	
78	礫器	砂岩	8.1	10.4	5.5	524	
79	礫器	砂岩	9.2	7.8	6	511.8	
80	敲石・　磨石	砂岩	9.5	8.5	4.7	534.5	
81	敲石	砂岩	16.7	9.8	5.3	1237.6	
82	敲石	砂岩	12	10.9	7.7	1391.5	
83	敲石・　磨石	砂岩	12	10.3	5.2	907.1	
84	敲石・　磨石	砂岩	9.9	8.9	5.9	671.4	
85	敲石・　磨石	砂岩	12.6	9.2	5.9	909.9	
86	磨石・　敲石	砂岩	13.1	9.7	5.1	952.6	
87	磨石・　敲石	砂岩	12.2	10.6	5	925.2	
88	磨石・　敲石	砂岩	10	9.1	5.5	694	
89	磨石・　敲石	砂岩	11.6	10.7	4.3	872.8	
90	磨石・　敲石	砂岩	15.5	9.4	4	592.4	
91	磨石・　敲石	砂岩	12	9	4	670.1	
92	磨石・　敲石	砂岩	12	9.9	4.4	761.5	
93	磨石・　敲石	砂岩	11.9	9.5	3.5	600.5	
94	磨石・　敲石	砂岩	13.1	9.7	6	1134.4	
95	砥石	砂岩	18.9	12.2	6.2	1800	
96	石皿	砂岩	43.4	24.4	11.5	19800	

第８表　SX1002 出土遺物観察表（石器）

遺物番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
180	打製石鏃	サヌカイト	1.95	1.6	0.35	0.48	
181	打製石鏃	サヌカイト	2.2	1.4	0.25	0.39	
182	打製石鏃	サヌカイト	2.7	0.9	0.5	1.32	
183	磨製石斧	チャート	10.6	5.7	3.2	257	
184	磨製石斧	緑色岩	9.7	4.45	2	136	
185	磨製石斧	緑色岩	9.3	4	1.6	81.4	
186	磨製石斧	砂岩	10.8	5.25	2.75	234.3	
187	磨製石斧	緑色岩	8.85	4.25	2.05	116.8	
188	磨製石斧	緑色岩	6.25	2.5	1	24.2	
189	礫器	砂岩	140.3	13.6	5.7	1340.4	
190	礫器	砂岩	7.95	10.25	2.9	32.1	
191	敲石	砂岩	11.6	10.4	5.7	931.7	
192	敲石・　磨石	砂岩	12.8	11.6	6.8	1320.7	
193	磨石	砂岩	9.1	8.4	4.9	523	
194	砥石	砂岩	14.5	11.4	3.2	660	
195	砥石	砂岩	20.1	14.6	6.5	3400	
196	石皿	砂岩	19.2	19.2	8.5	4300	
197	石皿	砂岩	32.8	23.6	9.9	9400	

第９表　SX1003 出土遺物観察表（石器）

遺物番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
234	磨製石斧	緑色岩？	4.1	3	0.7	7.8	
235	礫器	砂岩	8.5	10.1	5.4	445	
236	敲石	砂岩	12.9	9.8	3.3	633.4	
237	敲石	砂岩	12.4	8.8	3.7	577	
238	敲石・　磨石	砂岩	9.1	12.2	8.1	1708.8	
239	砥石	砂岩	25.3	17.4	7.1	3100	
240	石皿	砂岩	23.6	15.3	7	6450	

第 10 表　SR1001 出土遺物観察表（石器）

遺物番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
334	三脚石器	鉄石英	4.8	6.9	1	16.6	
335	削器	サヌカイト	8	3.5	1	21.25	
336	磨製石斧	緑色岩	7.8	4.6	2.7	151.3	

第 11 表　包含層出土遺物観察表（石器）（1）

遺物番号	器　　種	出土地点	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
2123	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.45	1.25	0.25	0.31	
2124	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.5	1.2	0.2	0.28	
2125	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.55	1.2	0.3	0.3	
2126	打製石鏃	S-5	サヌカイト	2.1	1.1	0.25	0.45	
2127	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.5	1.3	0.4	0.71	
2128	打製石鏃	T-3	サヌカイト	2.4	1.4	0.25	0.58	
2129	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.2	1.5	0.35	0.7	
2130	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.3	1.7	0.4	0.98	
2131	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2	1.25	0.4	0.43	
2132	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.75	1.5	0.3	0.33	
2133	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.3	1.35	0.4	0.69	
2134	打製石鏃	S-1	サヌカイト	0.85	0.8	0.2	0.04	
2135	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.05	0.9	0.25	0.17	
2136	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.3	0.9	0.4	0.29	
2137	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.5	1.25	0.4	0.37	
2138	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.7	1.5	0.35	0.66	
2139	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.1	1.2	0.25	0.4	
2140	打製石鏃	A-2	サヌカイト	2	1.25	0.35	0.58	
2141	打製石鏃	A-2	サヌカイト	1.7	1.1	0.3	0.41	
2142	打製石鏃	T-5	頁岩	2.05	1.45	0.35	0.93	
2143	打製石鏃	T-2	頁岩	2.25	1.6	0.4	1.01	
2144	打製石鏃	T-2	頁岩	2.55	1.55	0.4	1.31	
2145	打製石鏃	A-1	サヌカイト	2.55	1.4	0.2	0.58	
2146	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2	1.2	0.2	0.54	
2147	打製石鏃	T-1	頁岩	1.3	1.2	0.3	0.44	
2148	打製石鏃	不明	サヌカイト	1.3	1.4	0.25	0.28	
2149	打製石鏃	S-1	サヌカイト	1.4	1.1	0.3	0.3	
2150	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.6	1.4	0.25	0.42	
2151	打製石鏃	S-4	サヌカイト	1.05	1.2	0.25	0.13	
2152	打製石鏃	A-3	サヌカイト	1.6	1.5	0.3	0.32	
2153	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.45	1.35	0.25	0.23	
2154	打製石鏃	S-4	サヌカイト	1.45	1.5	0.25	0.23	
2155	打製石鏃	A-3	サヌカイト	1.4	1.35	0.45	0.33	
2156	打製石鏃	T-2	サヌカイト	1.9	0.6	0.25	0.26	
2157	打製石鏃	S-4	チャート	2.1	1	0.5	0.9	
2158	打製石鏃	S-4	サヌカイト	2.3	0.8	0.6	0.9	
2159	打製石鏃	T-2	頁岩	3	0.9	0.4	0.9	
2160	打製石鏃	T-2	サヌカイト	3.35	0.95	0.5	1.11	
2161	打製石鏃	T-2	頁岩	2.85	1	0.4	1.19	
2162	打製石鏃	T-2	サヌカイト	2.75	1.1	0.5	1.18	
2163	打製石鏃	A-2	サヌカイト	3.4	2.25	0.65	4	
2164	磨製石斧	B-19	斑レイ岩	14.3	5.5	2.85	330.6	
2165	磨製石斧	B-19	緑色岩	14.2	4.7	2.1	241.9	
2166	磨製石斧	A-1	緑色岩	11.9	4.45	2.5	213	
2167	磨製石斧	T-2	緑色岩	11.7	4.5	2.65	217.5	

第 11 表　包含層出土遺物観察表（石器）（2）

遺物番号	器　　種	出土地点	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
2168	磨製石斧	B - 19	緑色岩	10.4	3.7	2.15	119.4	
2169	磨製石斧	T - 2	緑色岩	10.3	4.3	2.3	160.2	
2170	磨製石斧	B - 19	緑色岩	12.7	4.7	2.6	245.5	
2171	磨製石斧	A - 1	緑色岩	8.9	3.95	2.15	99.8	
2172	磨製石斧	T - 2	緑色岩	12.1	4.75	2.65	216.8	
2173	磨製石斧	B - 19	緑色岩	12.15	5.5	2.5	257.7	
2174	磨製石斧	B - 19	緑色岩	10.1	4	2.45	158	
2175	磨製石斧	T - 2	緑色岩	15.4	6.6	3.35	464.1	
2176	磨製石斧	B - 19	緑色岩	10.3	4.4	1.6	107.2	
2177	磨製石斧	A - 20	緑色岩	10.3	5	2.4	172.4	
2178	磨製石斧	B - 19	緑色岩	8.8	4.2	1.45	77.3	
2179	磨製石斧	B - 19	緑色岩	6.5	2.3	0.8	20.5	
2180	磨製石斧	A - 3	緑色岩	7.6	3.3	1.2	51.8	
2181	磨製石斧	A - 20	泥岩	8	3.7	1.3	52.9	
2182	磨製石斧	T - 2	結晶片岩	6.3	3.75	0.85	37.6	
2183	磨製石斧	T - 1	緑色岩	7.2	4.3	1.2	56.7	
2184	磨製石斧	T - 4	チャート	9.7	5.4	2.3	171.9	
2185	磨製石斧	T - 2	緑色岩	9	5.6	2	172.1	
2186	磨製石斧	T - 2	緑色岩	11	6.3	2.6	272.3	
2187	磨製石斧	A - 2	砂岩	8.2	6.7	2	130.6	
2188	磨製石斧	T - 2	砂岩	8.4	5.2	1.7	114.2	
2189	磨製石斧	T - 4	泥岩	7.1	4.6	1.7	42.8	
2190	磨製石斧	A - 2	緑色岩	7.5	4.6	2	74.4	
2191	磨製石斧	T - 5	泥岩	3.1	3.9	1.9	19.4	
2192	磨製石斧	T - 2	緑色岩	13.1	4.8	1.6	138.6	
2193	磨製石斧	B - 19	緑色岩	10.3	5.1	2.5	191.7	
2194	磨製石斧	不明	珪岩	6.6	5.1	1.65	81.9	
2195	磨製石斧	T - 2	緑色岩	11	4.95	1.75	138.3	
2196	磨製石斧	A - 3	緑色岩	10.15	4.8	2.2	169.6	
2197	磨製石斧	A - 5	緑色岩	10	4.95	2	181	
2198	磨製石斧	T - 3	緑色岩	13.4	5	2.8	260.2	
2199	磨製石斧	B－19	緑色岩	12.4	4.7	2	149.1	
2200	磨製石斧	T - 2	砂岩	10.7	4.9	2.7	228.5	
2201	磨製石斧	A - 19	緑色岩	5.8	3.5	2.2	59.3	
2202	磨製石斧	T - 2	砂岩	6.45	3.9	2.2	79.5	
2203	磨製石斧	S - 1	砂岩	8.8	5.25	3	202	
2204	磨製石斧	S・T - 2	泥岩	6.1	3.6	2.4	62.5	
2205	磨製石斧	T - 5	緑色岩	3.55	2.9	0.8	10.7	
2206	磨製石斧	A - 8	珪岩	3.4	3.4	0.9	15.4	
2207	磨製石斧	T - 2	緑色岩	11	4.9	1.6	126	
2208	磨製石斧	B - 19	緑色岩	8.5	4.3	1.6	60.6	
2209	磨製石斧	A - 1	緑色岩	7.9	4.6	1.1	45.9	
2210	磨製石斧	A - 2	結晶片岩	9	5.7	1.55	128.4	
2211	磨製石斧	T - 1	緑色岩	6.8	3	1.3	36.4	
2212	磨製石斧	B - 19	緑色岩	3.7	3.9	2	30.7	

第11表　包含層出土遺物観察表（石器）（3）

遺物番号	器　　種	出土地点	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
2213	打製石匙	T-2	サヌカイト	14.8	4.2	0.9	66.9	縦型
2214	打製石匙	A-6	サヌカイト	6	2.5	0.75	11	縦型
2215	打製石匙	A-1	サヌカイト	6.7	2.4	0.9	15.1	縦型
2216	打製石匙	A-6	サヌカイト	6.9	3.9	0.8	16	縦型
2217	打製石匙	S-4	頁岩	6.75	2.4	0.9	12.6	縦型
2218	打製石匙	不明	チャート	2.7	3.5	0.5	3.9	横型
2219	打製石匙	不明	サヌカイト	2.8	5.6	0.7	9	横型
2220	打製石匙	T-2	サヌカイト	3.7	6	0.8	11.2	横型
2221	打製石匙	A-1	サヌカイト	3.15	5.85	0.8	9.7	横型
2222	打製石匙	A－2	サヌカイト	3.4	4.4	0.65	7.7	横型
2223	打製石匙	T-1	サヌカイト	3.3	4.3	0.5	5.9	横型
2224	打製石匙	T-2	サヌカイト	3.8	4.6	0.5	8.7	横型
2225	打製石匙	不明	サヌカイト	3.55	6.8	0.95	17	横型
2226	打製石匙	T-2	サヌカイト	3.55	6.6	1	20.8	横型
2227	打製石匙	B-19	サヌカイト	5	6.1	0.95	18.9	横型
2228	打製石匙	T-1	サヌカイト	5.4	6.85	1	30.8	横型
2229	打製石匙	T-1	サヌカイト	5.1	4.75	1	22.1	横型
2230	打製石匙	A-6	サヌカイト	5.25	4.7	0.09	16.8	横型
2231	打製石匙	S-4	サヌカイト	4.85	2.8	0.85	10.3	横型
2232	打製石匙	T-3	サヌカイト	3.3	2.85	0.6	4	横型
2233	削器	A-2	サヌカイト	2.4	4.5	0.8	10	
2234	削器	T-1	サヌカイト	3.55	7.2	1.1	24.7	
2235	削器	T-2	サヌカイト	4.1	5.4	1	20.8	
2236	削器	R-20	サヌカイト	2.8	6.4	1.1	19.4	
2237	削器	T-2	チャート	4.1	7.2	1.2	22.9	
2238	削器	T-2	頁岩	4.2	5.6	1.2	26	
2239	楔形石器	T-5	珪岩？	4.7	7.6	1.2	62.3	
2240	石核	A-1	頁岩	2.8	2	0.9	4.8	
2241	石核	T-3	チャート	2.8	3.7	1.2	12.6	
2242	石核	T-2	頁岩	3.5	4.7	3.5	58.5	
2243	石核	B-19	サヌカイト	4.3	7.4	2.8	114.3	
2244	尖頭器	T-2	サヌカイト	4.5	1.5	0.45	3.1	
2245	尖頭器	不明	サヌカイト	4.1	1.7	0.6	3.9	
2246	異形石器	T-3	頁岩	3.6	2.8	0.6	2.6	
2247	石錐	T-1	チャート	2.9	2.2	0.8	3.8	
2248	石錐	T-2	頁岩	3.1	0.75	0.7	1.6	
2249	用途不明石器	S-4	水晶	2.4	1.5	1.4	6.3	
2250	用途不明石製品	A-18	泥岩	6.2	2.9	1	25.9	
2251	円盤状　石器	T-3	結晶片岩	7.1	6.5	0.9	74.5	
2252	礫石錘	A-6	砂岩	5.05	4.2	0.6	18.2	
2253	礫器	A-20	砂岩	13.1	11.7	7.8	119	磨石を転用
2254	礫器	T-2	砂岩	8	13.3	5.6	648	磨石を転用
2255	礫器	T-2	砂岩	7.1	8.8	5.4	473.5	磨石を転用
2256	礫器	A-1	砂岩	15.1	10	3.8	719.8	
2257	礫器	S-1	砂岩	13.4	10.9	5.5	976	

第 11 表　包含層出土遺物観察表（石器）（4）

遺物番号	器　　種	出土地点	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
2258	礫器	T - 2	砂岩	13.2	10.7	3.5	595.5	
2259	礫器	T - 1	砂岩	19.4	10.9	3.9	1022	
2260	礫器	B - 19	砂岩	13.2	7.5	3.3	423	磨石を転用
2261	礫器	A - 1	砂岩	12.3	8.6	2.3	326.2	磨石を転用
2262	礫器	T - 2	砂岩	9.5	8.6	2.1	234	磨石を転用
2263	敲石・磨石	A - 2	砂岩	10.6	10.1	4.7	735.7	
2264	敲石	A - 1	砂岩	12.4	9.8	4	698	
2265	敲石	不明	砂岩	14.4	12.5	7	1770	被熱している。
2266	敲石	T - 2	砂岩	12	12.4	6.7	1322	
2267	敲石	T - 5	砂岩	11.7	11.9	4.7	969	
2268	敲石	T - 2	砂岩	12	7.3	3.7	451	
2269	敲石	不明	砂岩	11.1	8.4	4.1	539	
2270	敲石	T - 2	砂岩	10.2	7.9	4.4	459.9	
2271	敲石	T - 1	緑色片岩？	14.2	11.3	2	605	
2272	磨石	T - 1	砂岩	11.1	9.7	3.3	553.9	
2273	磨石	不明	砂岩	11	9.6	5.9	890	
2274	磨石	T - 2	砂岩	11.1	11.1	6.4	1130	
2275	磨石	T - 1	砂岩	10.7	9.4	4.4	695.4	
2276	磨石	A - 3	砂岩	11.5	10.4	6.5	1032.9	
2277	磨石	T - 1	砂岩	9	7.2	6.2	554.6	
2278	磨石	不明	砂岩	9.7	10.2	7.7	988	
2279	磨石	T - 5	砂岩	11.3	10.4	4.6	793.2	
2280	磨石	不明	砂岩	11.2	9.5	6.5	959.6	
2281	磨石	T - 1	砂岩	11.6	10.3	5	846.7	
2282	砥石	T - 5	砂岩	7.9	5.7	1.35	94.4	
2283	砥石	S - 4	砂岩	11.8	6.7	1.6	177.7	被熱している。
2284	砥石	T - 4	砂岩	7.5	8.5	1.6	130.3	被熱している。
2285	台石	T - 2	砂岩	14.1	13.2	6.1	1738.1	SX1002 に伴った可能性がある
2286	石皿	T - 2	砂岩	39.1	25.1	4.3	4100	SX1002 に伴った可能性がある
2287	石皿	T - 2	砂岩	34	21.9	8.9	10900	SX1003 に伴った可能性がある
2288	石皿	T - 2	砂岩	34.5	20.5	12.6	12750	SX1003 に伴った可能性がある
2289	石皿	T - 2	砂岩	31.7	19	8.9	8550	SX1003 に伴った可能性がある
2290	石製垂飾	S - 1	蛇紋岩	4.05	2.65	0.5	7.4	玦状耳飾を再利用
2291	石製垂飾	S - 1	蛇紋岩	3.9	2.55	0.55	6.9	玦状耳飾を再利用
2292	石製垂飾	S - 1	蛇紋岩	3.9	2.5	0.5	7.8	玦状耳飾を再利用
2293	石製垂飾	A - 1	蛇紋岩	3.7	2.05	0.4	4	玦状耳飾を再利用
2294	玦状耳飾	S - 1	不明	4.2	2.75	0.55	10.2	
2295	石製垂飾	S - 1	泥岩？	2.5	1.6	0.4	1.6	玦状耳飾を再利用
2296	石製垂飾	T - 4	泥岩？	1.85	1.5	0.3	1.1	玦状耳飾を再利用
2297	玦状耳飾	T - 2	蛇紋岩	1.45	1.65	0.25	1.21	補修孔がある。
2298	玦状耳飾	B - 19	蛇紋岩	4.3	3.9	0.25	8.3	玦状耳飾未製品
2299	石錐	T - 2	頁岩	2.6	1.9	0.7	2.95	
2300	石錐	T - 2	頁岩	2.1	1.3	0.4	0.92	

図　　版

調査区遠景（西から）

調査区遠景（東から）

図版２

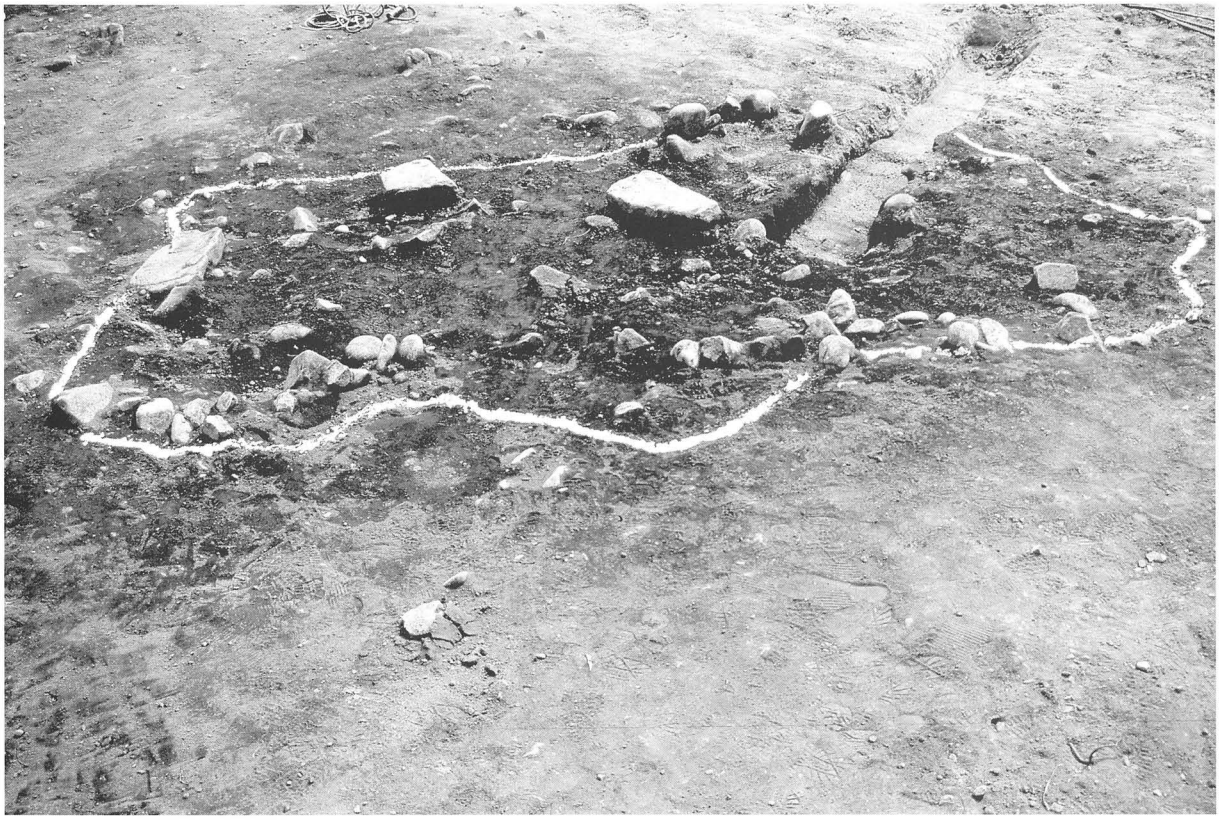
遺構検出状況（西から）

遺構検出状況（東から）

礫群分布状況（東から）

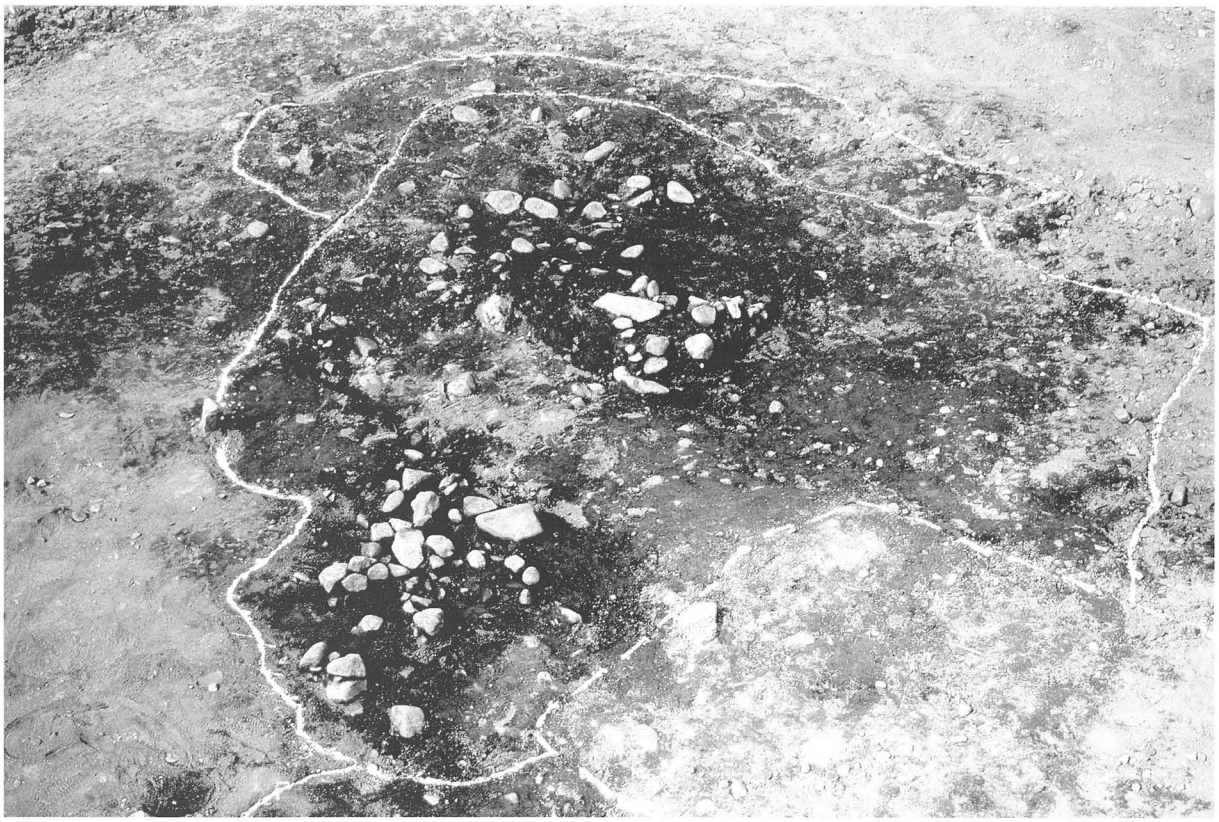
礫群分布状況（西から）

図版 4

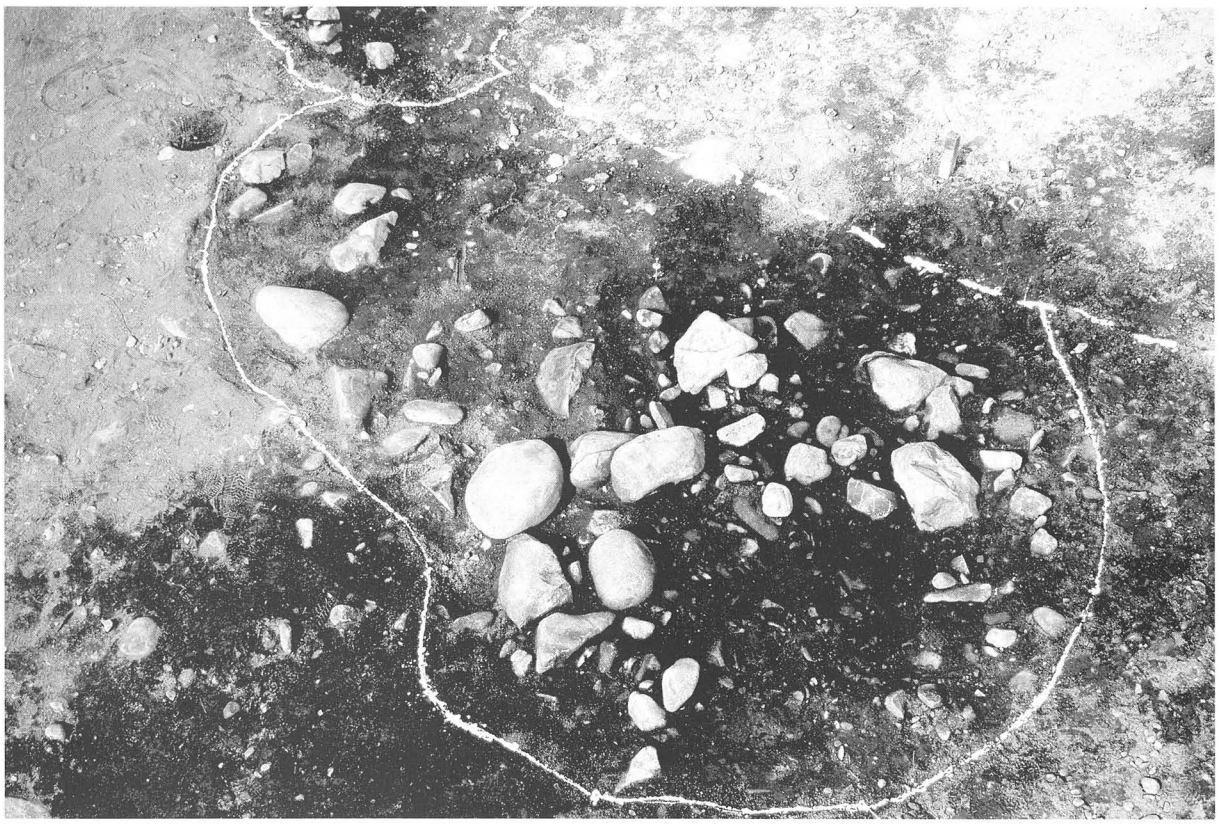


SX1001 検出状況（北から）

SX1002、1003 検出状況（南から）



SX1002 検出状況（西から）



SX1003 検出状況（西から）

図版 6

SX 群遺構掘削状況（東から）

SX 群遺構掘削状況（西から）

SX1002、1003 遺構掘削状況（南から）

SX1002、1003 遺構掘削状況（東から）